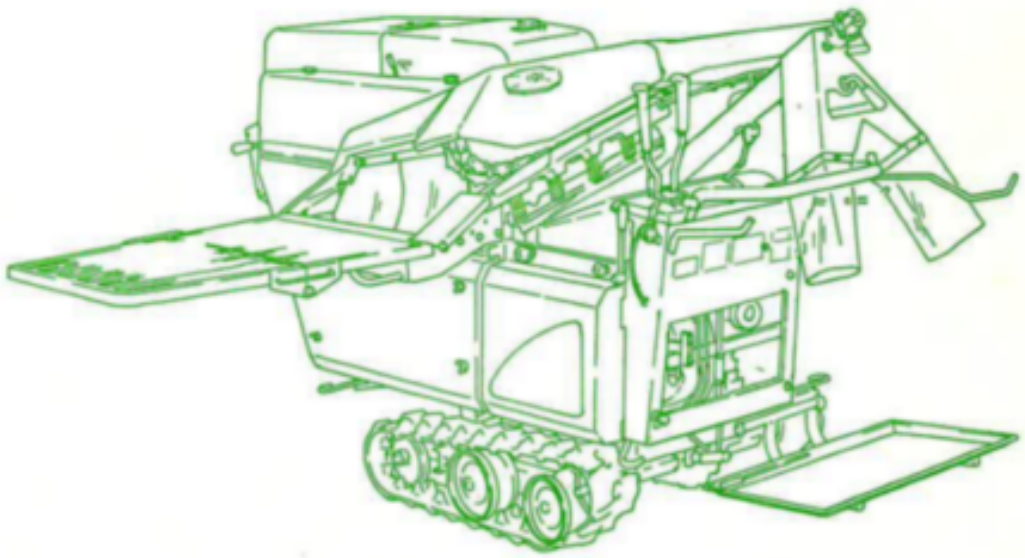
ハーベスタ

取扱説明書

MH41・51・61



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはハーベスタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の脱こく作業に使用してください。
・この作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

ページ

● 安全な作業をするための注意事項は？ **安全作業のために** 安全作業説明書

機械の安全な取扱いに関する基本事項，また機械に貼付けてある安全に関する表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明してあります。ご使用になる前によく読んで理解し必ず守ってください。

● 使用前に知っておかなければならないことは？ **ご使用まえに 1**

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● 各操作レバーのはたらきを知るには？ **各部のはたらき 3**

各操作レバーのはたらきを説明しています。よく理解し正しい操作をしてください。

● エンジンを始動し，ハーベスタを動かすには？ **運転のしかた 9**

毎日，運転する前に機械の調子を点検してください。
正しい手順で行い，エンジンの停止方法や安全装置の操作を体得してください。

● 上手な脱こく作業をするには？ **作業のしかた 18**

ハーベスタ作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場の条件にあった機械の調整をして，安全な脱こく作業をしてください。

● 機械を長もちさせるには？ **手入れのしかた 25**

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● 機械を3ヶ月以上格納する時は？ **長期格納のしかた 41**

機械を長期，格納する時の手入れのしかたについて説明しています。

● 故障かなと思った時は？ **不調時の処置 43**

作業中のトラブルや不調，性能が低下している？と思ったらすぐに原因を調べて処置してください。

もくじ

安全作業のために ……（安全作業説明編）

ご使用まえに ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 2

各部のはたらき ……3

1．各部の名称…… 3
2．運転装置の取扱い…… 5
　1．エンジンコントロール関係…… 5
　2．操作レバー関係…… 6
　3．計器・電装関係…… 8

運転のしかた ……9

1．運転まえの点検…… 9
2．エンジンの始動と停止……10
　1．エンジン始動のしかた……10
　2．エンジン停止のしかた……11
3．運転のしかた……12
　1．発進・旋回のしかた……12
　2．停車のしかた……13
　3．移動走行のしかた……14
4．自動車への積込み・積降ろし……15
　1．自動車・アユミについて……16
　2．ハーベスタの扱いかた……16
5．ほ場への出入り……17

作業のしかた ……18

1．作業まえの準備……18
　1．作物の条件について……18
　2．ほ場の条件について……18
　3．機械のセット……18
　4．各調節部の調節……20
2．脱こく作業のしかた……23
　1．こぎ胴回転の調整……23
　2．脱こく作業のしかた……23
　3．収こく操作のしかた……24

手入れのしかた ……25

1．定期点検整備……25
2．給油・注油のしかた……27
　1．燃料の給油……28
　2．エンジンオイルの点検・交換……28
　3．ミッションケースのオイル点検・交換…29
　4．脱こくギヤケースのオイル点検……29
　5．エアクリーナのオイル点検・交換……30
　6．各部の注油……30
　7．各部の給脂……30
3．各部の点検と掃除のしかた……31
　1．エンジンカバーの掃除……31
　2．エアクリーナの点検・掃除……31
　3．脱こく機内部の掃除……32
　4．燃料ストレーナの点検・掃除……33
　5．点火プラグの点検・掃除……33
4．各部の点検と部品交換のしかた……35
　1．こぎ歯の点検と交換……35
　2．ワラ切カマの点検と手入れ……35
　3．燃料ホースの点検と交換……36
5．各部の点検と調整のしかた……36
　1．サイドクラッチレバーの点検・調整……36
　2．走行クラッチレバー
　　（駐車ブレーキレバー）の点検・調整…37
　3．作業機クラッチレバーの点検・調整……38
　4．揺動・1番ラセン駆動ベルトの
　　点検・調整……39
　5．2番ラセン・こぎ胴駆動ベルトの
　　点検・調整……39
　6．ワラ送りベルトの点検・調整……39
　7．脱こくフィードチェンの点検・調整……40
　8．クローラの点検・調整……40

長期格納のしかた ……41

1．機械の掃除と洗浄……41
2．サビ止めと注油……41
3．エンジンの手入れ……41

4．格納……42

不調時の処置 ……43

1．エンジン部……43
2．走行部……44
3．脱こく部……45

付表 ……46

1．主要諸元……46
2．ベルト一覧表……47
3．アタッチメント（別売）一覧表……47
4．主な消耗部品……48
5．電気配線図……50
6．潤滑油について……51
1．エンジンオイルについて……51
2．ギヤオイルについて……51
3．脱こくギヤオイル……51
4．三菱農機（純正油）マルチオイル……51
7．用語解説……52

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた…… 1

⚠作業前に次のことを守りましょう！…… 1

⚠安全作業のポイント…… 2

⚠作業前の一般的な注意事項…… 4

⚠点検・整備及び掃除をする時は…… 5

⚠エンジンを始動する時は…… 8

⚠走行する時は…… 9

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……11

⚠ほ場で作業する時は……12

⚠１日の作業が終わったら……15

⚠長期格納する時は……16

2．表示ラベルについて……17

（安全作業説明書）

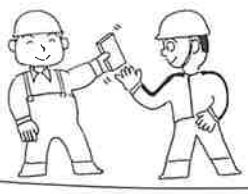
安全作業のために

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の3段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。
・なお，この項で説明している安全説明は**ハーベスタ全般**についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。 	このような服装は衣服が回転部に巻き込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

安全作業のポイント



- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

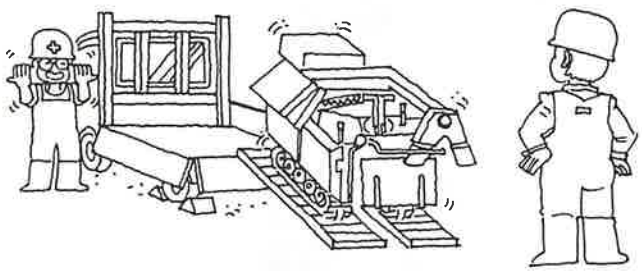
始業・点検　準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼替える
- エンジン，マフラ，（バッテリ），燃料タンクの周囲をきれいに掃除する
- 電気配線の外皮のはがれや燃料もれを点検する
- 油量の点検はエンジンが冷えているときに行う
- クラッチ，レバー関係が確実に働くか点検する
- 燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない
- エンジンが熱いときは燃料補給しない
- 機械は改造しない
- 油脂類の廃却は，廃却設備のある所で処理する



エンジン始動

- 屋内での始動や作業は，窓や戸を開けて換気をする
- 機械の周囲から人を遠ざける
- 始動前に各部のカバーの取付けを確認する
- 変速レバーを《N》（中立）に，走行クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》にする
- 周囲に障害物がないことを確認し，合図をして行う
- ディーゼルエンジン始動時は始動ハンドルから手を放さない（セルスタータ無仕様）





走行運転　自動車への積込み・積降ろし

- アユミは，強度，幅，長さ（荷台高さの4倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは，自動車の荷台に平行に確実にかける
- 周囲を確認し，機械の周囲に人を近づけない
- 積込みは前進，積降ろしは後進で低速にして行う
- アユミ上では進路変更，変速操作はしない

走行運転

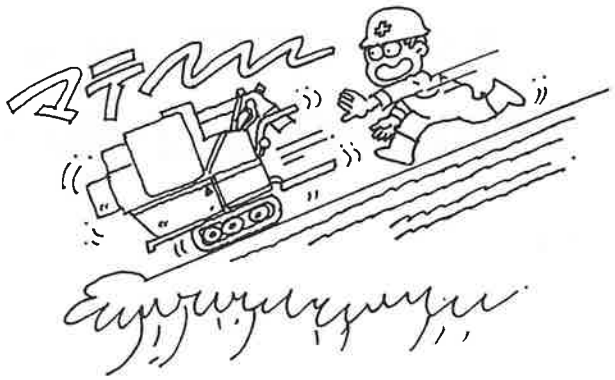
- 公道および夜間は自動車にのせて移動する
- 送り込台，モミ受フロア，モミ受ハンガ，排じんダクト，ワラ送り装置は収納して走行する
- 発進，旋回は周囲を確認して低速で行う
- 脱こく部を動かしたままで走行しない
- 人や物を機械にのせない
- 運転中は，前後左右に気をくばり，わき見運転をしない

狭い農道，凸凹道路，坂道の走行

- 発進，旋回は低速で行う
- スピードを落として走行する
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使う
- 急な坂道では走行クラッチやサイドクラッチを切ったり，変速操作をしない
- 対向車を避ける時，道路の端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない

停車・駐車

平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
坂道では駐車しない。やむをえず止めるときは，クローラに歯止めをする
ワラクズの上や近くに機械を停止しない



ほ場作業　ほ場の出入り

あぜ越えはアユミを使用し，低速であぜに対して直角に行う
あぜ，溝，急傾斜はアユミを使用し，上がるときは前進，降りるときは後進で足元を確認して行う
アユミ上では進路変更しない
あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う

脱こく作業

走行を停止して行う
手袋を使用しない
手や衣服を供給口に入れたり，フィードチェンに触れたりしない
ワラクズの上で作業をしない
過労にならぬようゆとりを持って，作業の間に休憩を入れる
旋回，後進する時は，周囲，足元を確認して行う
詰まりの掃除は作業機クラッチレバーを《切》にしエンジンを停止して行う
エンジン，マフラ等高温部に触れない
ラジエータ（コンデンサ）キャップは熱いうちは触れない（ディーゼル車）

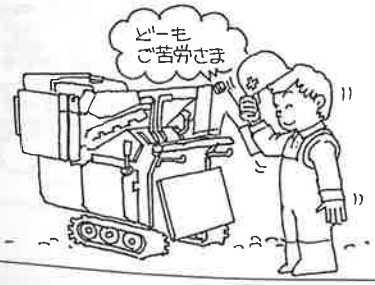


補助者と作業をする時は

作業機クラッチレバーを《入》れる時，発進する時は合図をして行う

運搬作業（キャリア仕様）（ディーゼル車のみ）

運搬作業は農作業以外に使用しない
積載重量は300kg以内とし，前方視界を妨げるような積みかたはしない
不安定な品物はキャリアフレーム（アタッチメント）を取付けてロープをかける



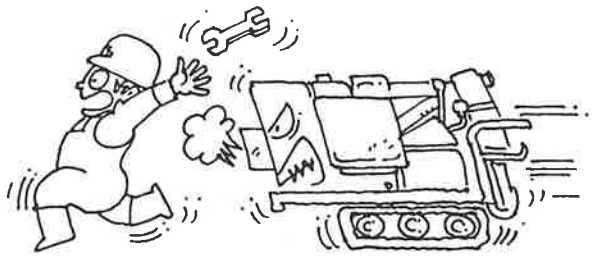
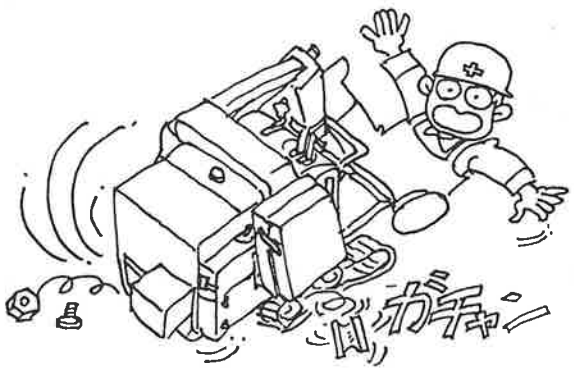
格　納　1日の作業が終わったら

平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけエンジンを停止する
燃えやすい物の近くに止めない
エンジン，マフラの周囲をきれいに掃除する

長期格納

シーズンごとに定期点検をする
平坦な場所に置きエンジンを停止し，クローラに歯止めをする
ガソリン車は燃料タンクの燃料を抜き，燃料コックを「閉」にして気化器内の燃料を抜取る
ディーゼル車は燃料を満タンにし，燃料コックを「閉」にする
シートカバーはエンジンが冷えてからかける
バッテリアースコードを外すか，バッテリを取外す（ディーゼルエンジンセルスタータ仕様）
部品（バッテリ等）又は機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械は稲・麦などの脱こく作業（キャリア仕様機は農作物運搬を含む）以外には使用しないでください。	バランスを崩して転倒したり，思わぬ事故を引起こします。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆機械を使用する前後に点検を行い，異常個所は直ちに整備してください。 ◆１シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動や作業は窓や戸をあけて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしないでください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 

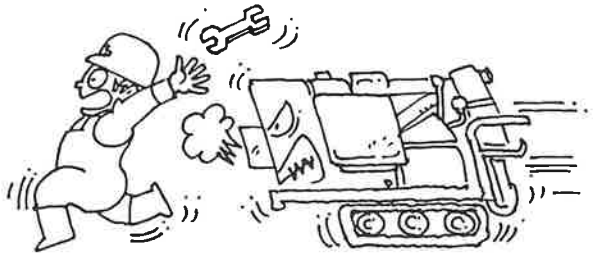
⚠点検・整備及び掃除をする時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆点検・整備・掃除をする時は，平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください

機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。

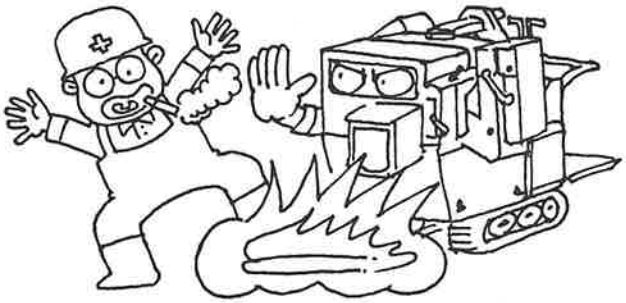


⚠危険

◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。

- 燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。
- エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。

燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。



⚠危険

◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか，作業前に点検してください。

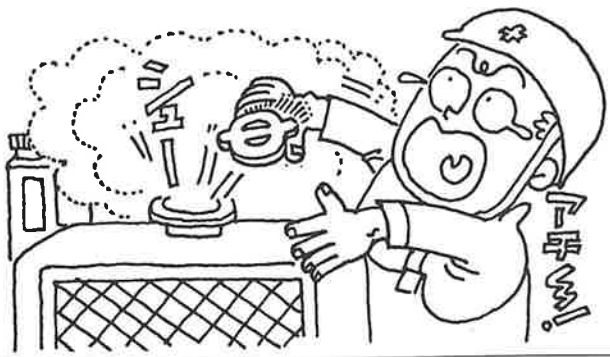
- もれている場合はホースを交換する。
- 燃料ホースは２年ごとに交換する。

⚠警告

◆ラジエータ（コンデンサ）が熱いときは，ラジエータ（コンデンサ）キャップを外さないでください。(ディーゼルエンジン車)

- 冷却水の点検などを行う場合は，エンジンを止め，冷えてからラジエータ（コンデンサ）キャップをゆっくり開ける。

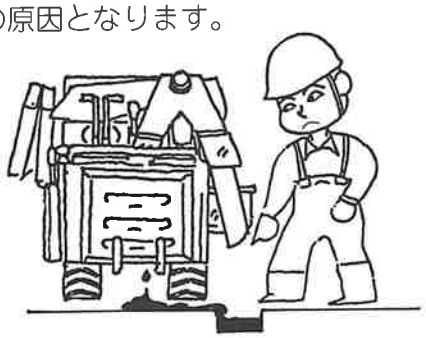
熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。



⚠警告

◆エンジンオイル等の油脂類や不凍液の廃却は，廃却設備のある所で処理してください。

環境汚染の原因となります。



⚠エンジンを始動する時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動や作業は窓や戸をあけて換気をよくしてください。

- 換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。

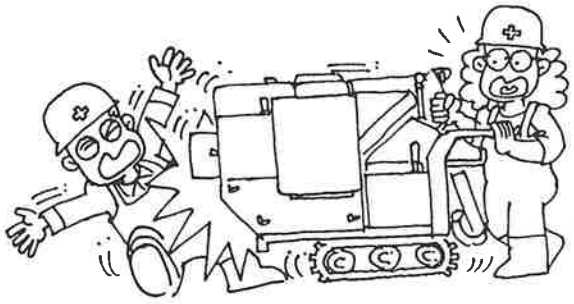
排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。



⚠警告 ◆エンジンを始動するときは，次の事を確認してから行なってください。

- 走行クラッチレバーを《切》にする。(駐車ブレーキをかける。)
- 変速レバーを《N》(中立) にする。
- 作業機クラッチレバーを《切》にする。
- 周囲を確認し，合図してから始動する。

変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

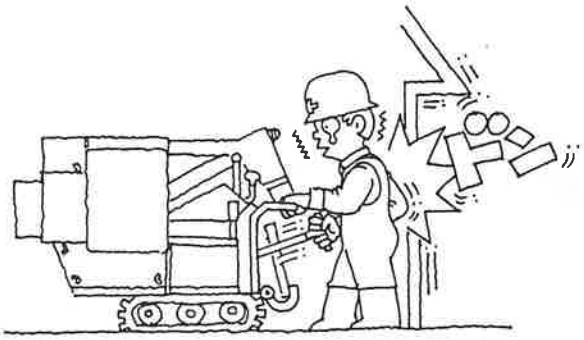


⚠注意 ◆始動は正しい姿勢で行なってください。

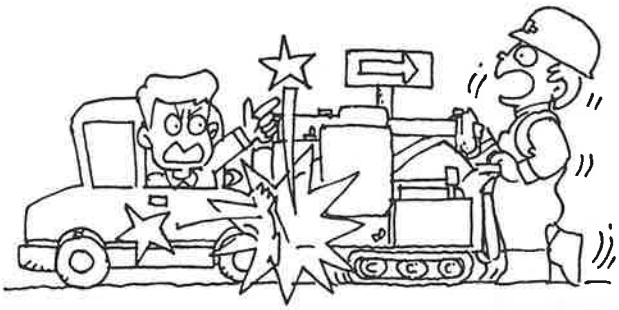
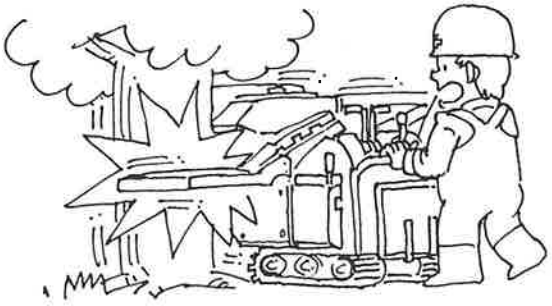
- リコイルスタータを引っ張る時，または始動ハンドルを回す時は，周囲に障害物がないことをたしかめて機械に人を近づけない。

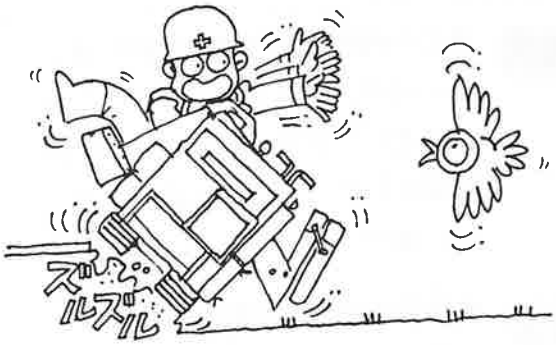
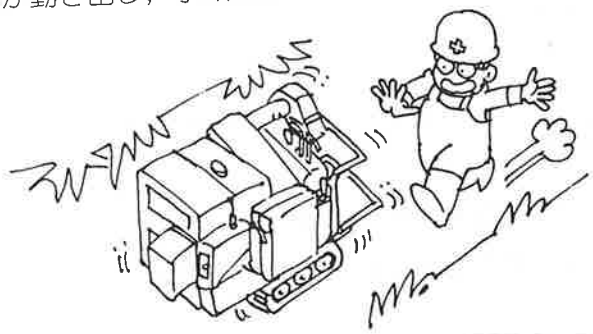
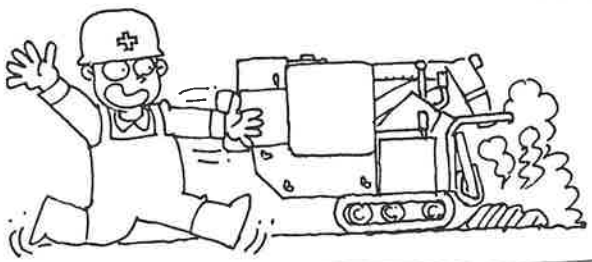
⚠注意 ◆ディーゼルエンジン始動時は，エンジンカバーを一杯に開いて始動ハンドルを回し手を放さない。(セルスタータ無仕様)

ハンドルが飛び，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。



⚠走行する時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆この機械は「道路運送車両法」に適合していませんので，公道は走行できません。公道の移動は自動車（トラック等）にのせて運搬してください。		思わぬ事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆夜間の移動は自動車（トラック等）にのせて運搬してください。 ●やむをえず，夜間走行する時はライトを装着し，点灯する。		
⚠注意 ◆発進する時は，機械の周囲から人を遠ざけて，「低速」で発進してください。 ◆後進する時は，背後に障害物がないことを確認して行う。 ◆作業機クラッチが《切》になっていることを確認してください。 ◆子供を機械にのせたり近づけたりしないでください。		傷害事故を引起こす原因となります。
⚠注意 ◆急発進，急停止，急旋回はしないでください。 ●旋回する時は，「低速」で行う。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。 ◆走行時はモミ受フロア，送り込台，ワラ送り装置，排じんダクトを収納し，人や物をのせないでください。		思わぬ傷害事故の原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂はスピードを落とし，慎重に走行する。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆急な坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前でいったん停止して，変速を低速に入れ変えてから，登り降りする。 ●狭い農道，凸凹道路，坂道での発進，旋回は低速で行う。 ●傾斜地や急な坂道では，サイドクラッチ操作をしない。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では駐・停車しないでください。やむをえず坂道の途中で駐車する時は駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆燃えやすいものの近くには駐車しないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラクズの上や枯草の近くに止めない。	マフラの排気で火災になることがあります。 

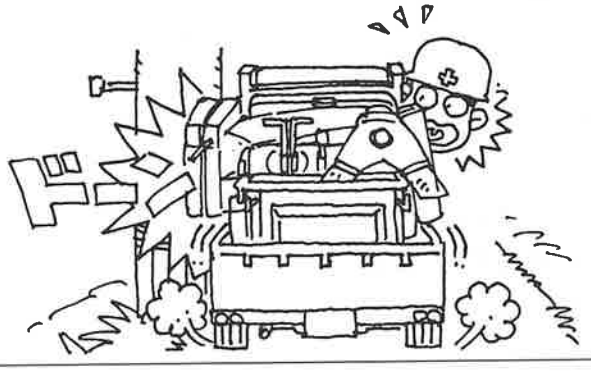
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

- 自動車はエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ駐車ブレーキをかけ，歯止めをする。

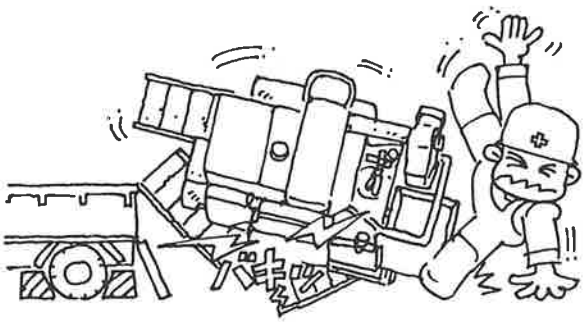
思わぬ事故を引起こします。



⚠警告 ◆アユミは，強度，幅（クローラ幅に合ったもの），長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使ってください。

- 機械の重量に耐える強度のもの（金属製）を使用する。

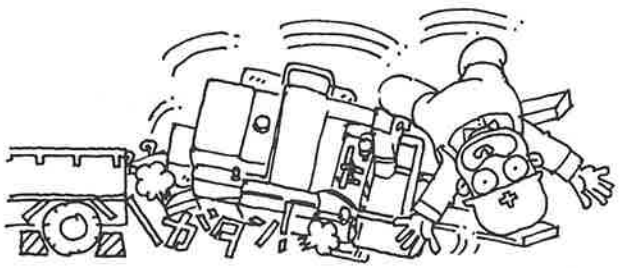
アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。



⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真っ直ぐにかけてください。

- 荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。
- 補助者の立会誘導のもとに行う。
- 積込み，積降ろしのときは機械の周囲に人を近づけない。

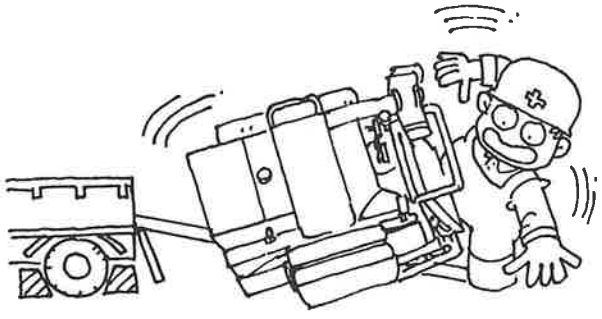
アユミが外れたりして，転倒事故を起こすことがあります。



⚠警告 ◆アユミの上では進路変更や変速操作をしないでください。

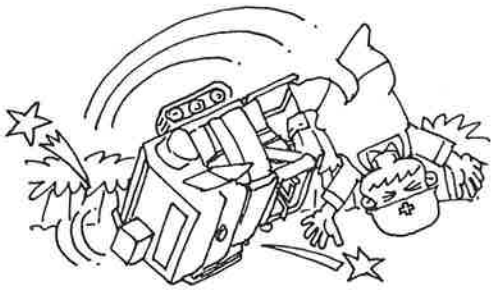
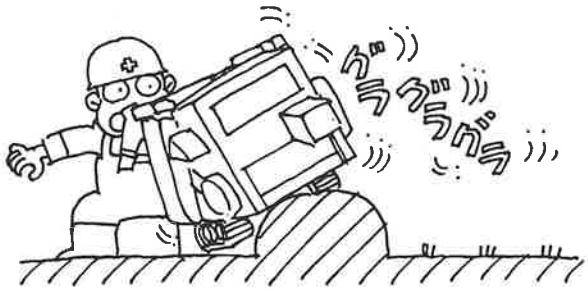
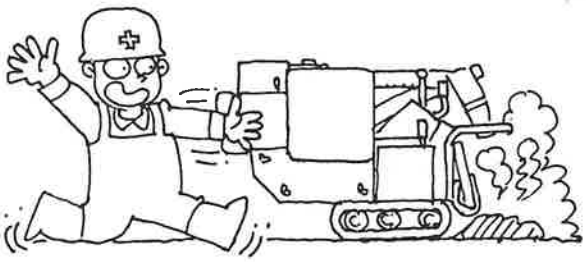
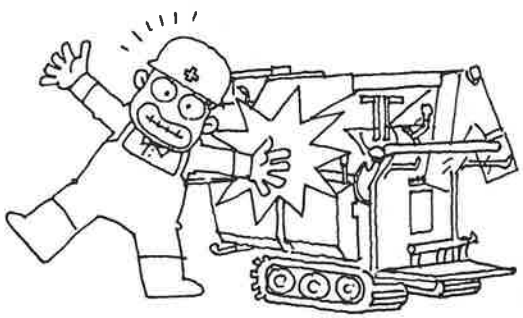
- 機械をアユミに対して真っ直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，途中で機械を止める必要がないようにする。
- 積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行なってください。
- 機械がアユミの上にのりはじめたら機械から離れ，機械が自動車にのってから近づき，機械を停止させます。

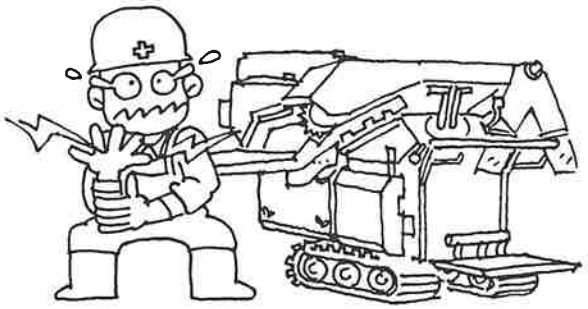
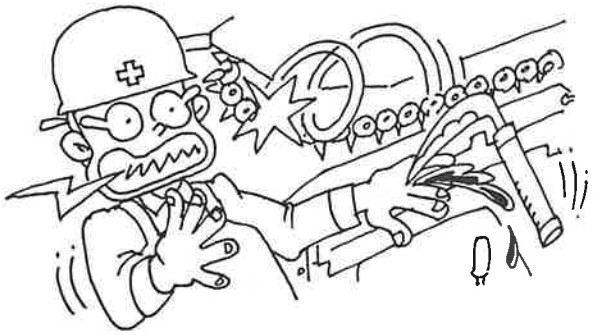
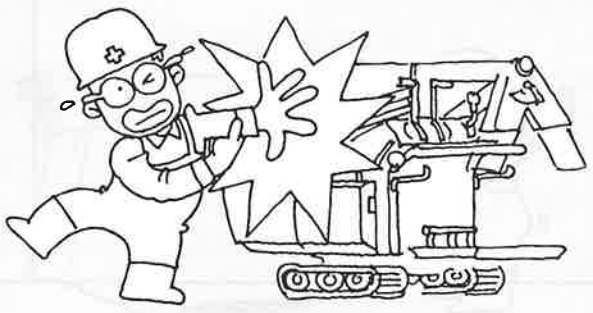
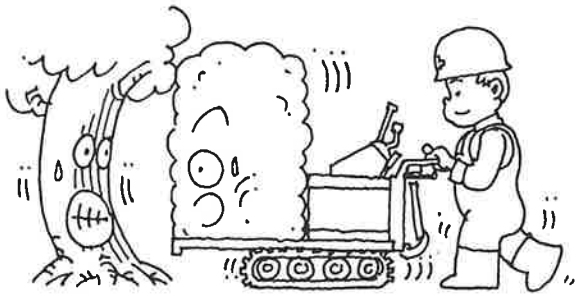
進路変更すると急旋回して，転倒事故を起こすことがあります。



⚠ほ場で作業する時は……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆急傾斜，溝，あぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ● ほ場に入る場合，下りは後進，上りは前進で低速で行う。 ● アユミを使用する時は，「自動車への積込み・積降ろし」の内容に従って行う。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆あぜ越えはアユミを使用し，低速であぜに直角に横切るようにしてください。 ● あぜがくずれないことを確認して行う。	アユミを使用しないと転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ● エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに止める。 ● 脱こく作業時，ワラクズの上に機械を止めて作業をしない。	マフラの排気で火災になることがあります。 
⚠警告 ◆脱こく作業のときは手や衣服を供給口に入れたり，フィードチェンに触れないでください。 ● 脱こく作業は走行を停止して行う。 ● 手袋使用禁止。 ● 供給口が見えなくなるほど大量の作物を供給しない。 ● 排ワラがたまったら，脱こく作業を中断して除去又は機械を移動する。	傷害事故の原因となることがあります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まり等の除去や，脱こく部の調整をするときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。 ●脱こく部や搬送部の詰まり，チェンやベルトへのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ●供給口，脱こく部，排ワラ部の周辺は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから掃除及び調整する。		傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って脱こく部や排ワラ部の掃除をしないでください。 ●排ワラ部にワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行う。		カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆夜間作業を行わないでください。 ●やむをえず夜間作業をする時は，適切な照明をしてください。		機械に巻き込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 
⚠注意 ◆脱こくを降ろして運搬車（キャリア仕様）として使用する場合は，荷台の大きさ以上の荷物は運搬しないでください。 ●300kg以上の荷物は積まない。 ●不安定な荷物はロープで固定する。 ●運搬は農作業に限ります。 ●前方視界を妨げるような積みかたはしない。		思わぬ事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆補助者との共同作業をする時は，作業前によく打合わせをしてください。

- 発進するときや作業機クラッチを入れるときは合図する。
- 旋回するときは周囲を確認する。

傷害事故の原因となります。



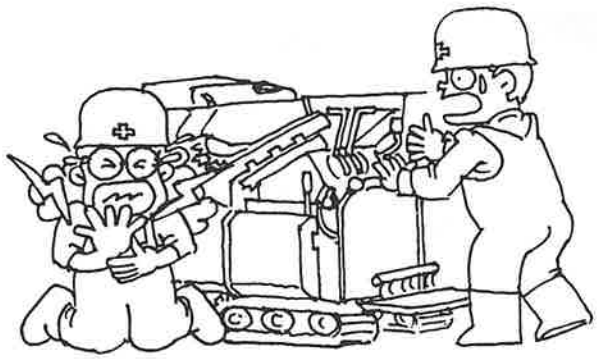
◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。

◆補助者は機械に近づくとき運転者に合図をして，確認を取ってください。

◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，作業機クラッチ操作をしてください。

- 補助者に機械の機構や運転操作のしかた（緊急停止の方法等）をよく知らせておく。
- 作業中は補助者以外の人を機械に近づけない。
- 運転者は常に補助者の状態を確認しながら作業をする。

傷害事故を引起こすことがあります。





⚠1日の作業が終わったら……

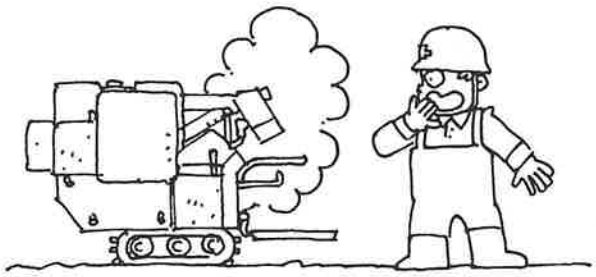
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆1日の作業が終了したら，掃除をしてゴミなどを取除いてください。

- エンジン・マフラ・（バッテリ）・燃料タンクの周囲のワラクズを掃除する。

火災の原因となることがあります。



⚠警告

◆保管は平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけてください。

- 変速レバーを《低速》に入れ，駐車ブレーキをかける。
- 始動キーを抜取っておく。（セルスタータ仕様）

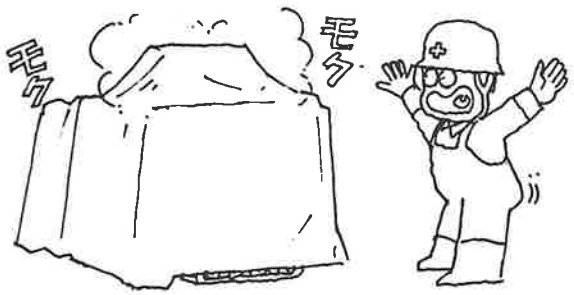
機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。



⚠警告

◆エンジンが熱い間は，シートカバーをかけないでください。

火災の原因となることがあります。



⚠長期格納する時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆各部の掃除をして平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけてください。

- 変速を「低速」に入れ，クローラに歯止めをする。
- 始動キーを抜取っておく。(セルスタータ仕様)
- 故障個所，部品の摩耗があれば，早目に修理，交換する。
- ボルトやナットがゆるんだ状態であれば，直ちに締めつける。

◆バッテリアースコード（㊀側）を外すか，バッテリを取外してください。(セルスタータ仕様)

◆燃料コックを閉じてください。

- ガソリン車の場合は，燃料を抜取る。
- ディーゼル車は燃料を満タンにし，燃料コックを「閉」にする。

機械が動き出したりして，思わぬ事故の原因になることがあります。



⚠注意

◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

- １年ごとに定期点検・整備をお買いあげ先で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却する時は「お買いあげ先」に相談して処理します。

整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引起こす原因となります。



2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。

①

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起こさないために

■ エンジンを始動する前に
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。
- 本機及び作業機の周囲から人を遠ざけてください。
- 各部のカバーをすべて取付けてください。
- 駐車ブレーキをかけ、各操作レバーを《N》（中立）又は《切》にしてください。

■ 燃料を補給する時は
- エンジンを停止し火気を近づけないでください。
- エンジンが熱い時は、燃料補給しないでください。

■ 正しい操作方法で
- 公道は、自動車にのせて移動してください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけないでください。
- 手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。

■ 転倒防止
- 発進、旋回、荒地での運転は低速で行なってください。
- 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。
- 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。
- あぜを横切る時は低速であぜに対して直角に走行してください。

■ 停止する時は
- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、各操作レバーを《N》又は《切》にし、エンジンを停止してください。

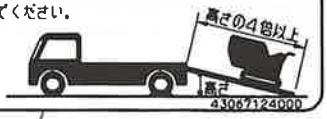
■ 清掃・点検・整備
- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。

09603200028 ハーベスタ

②

⚠ 警 告

■ 自動車への積込み・積降ろしをする時は
- 平坦な場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。
- 機械の周囲に人を近づけないでください。
- アユミは機械に合った強度、幅、長さ（荷台高さの4倍以上）のある、すべり止め、フック付きのものを使用し、左右のクローラ位置に合わせ、荷台に平行に外れないようにかけてください。
- 積込みは前進、積降ろしは後進で低速で行なってください。
- 機械がアユミの上に乗り始めたら、機械から離れてください。
- 落下・転倒の恐れがありますので、アユミの上では進路変更、変速操作を行わないでください。



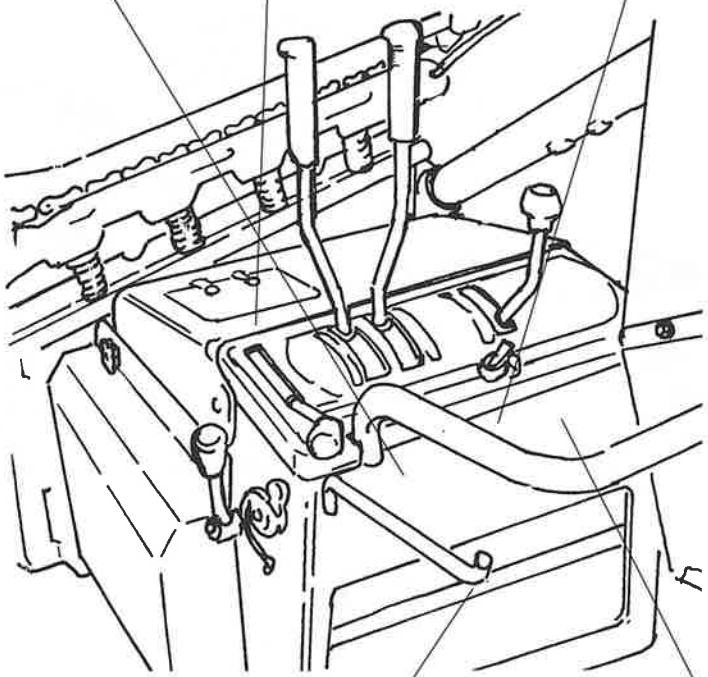
43067124000

③

⚠ 危 険

■火気厳禁
■給油時エンジン停止
無鉛ガソリン

09603000016



④

⚠ 警 告

●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。09603200029

⑤

⚠ 注 意

●使用しない時は燃料コックを閉じてください。

09603100021

⑥

⚠警 告

●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。

09603200034

⑦

⚠警 告

● 手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。

09603200042

⑧

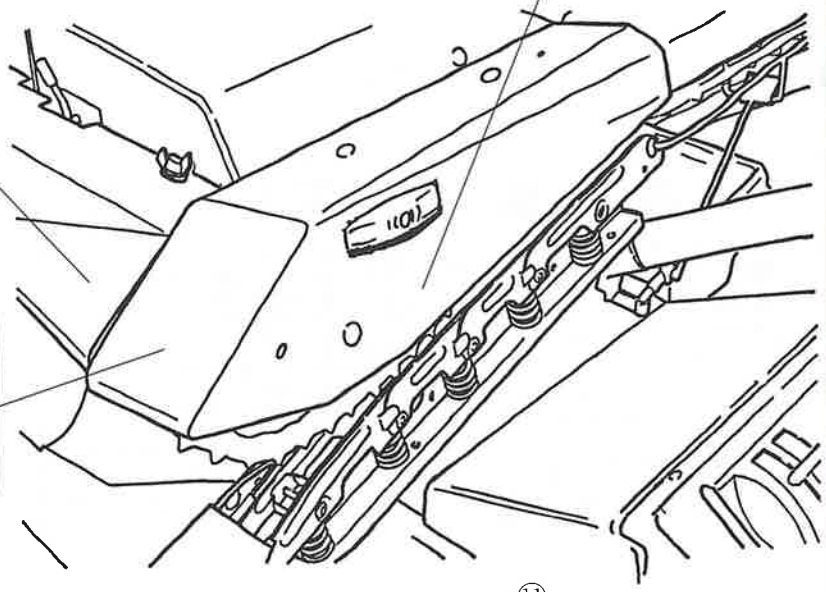
⚠注 意

■火災防止のために

●機体フレームの下方にマフラー排気口がありますので、ワラ・ワラクズ等の上で作業をしないでください。

ワラ ワラクズ

43537124001



⑨

⚠注 意 走行時は収納してください。

43077173000

⑪

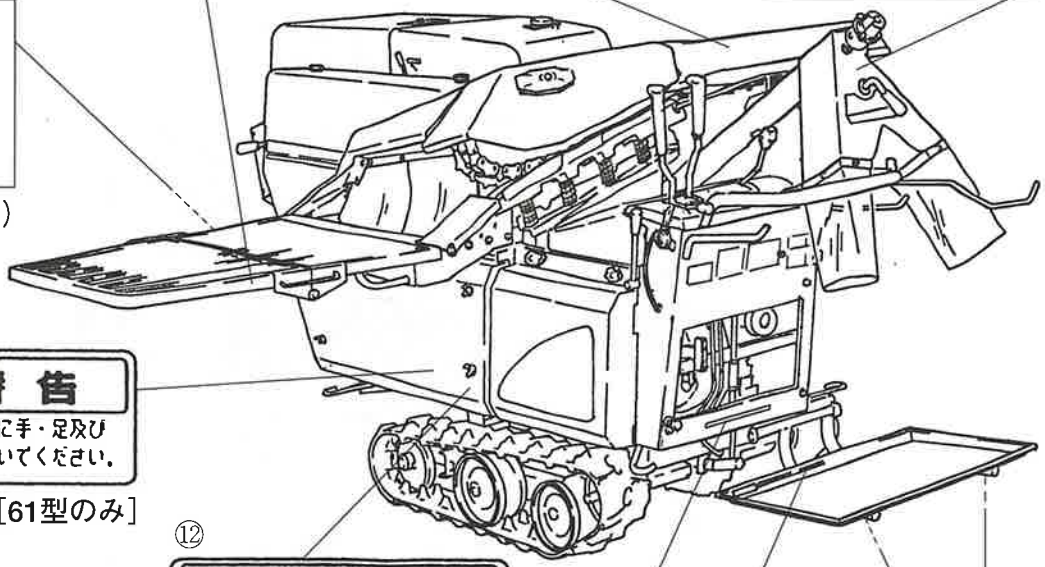
⚠注 意

● 樋口の中に手を入れないでください。

35528572000

⑩

（他車警告反射マーク）



⑬

⚠警 告

●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。

09603200041

［61型のみ］

⑫

⚠注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑩

（他車警告反射マーク）

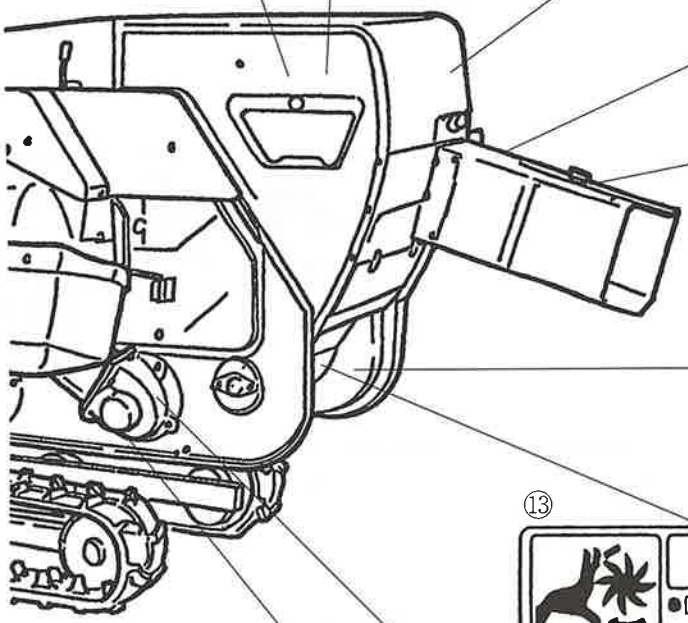
⑭

⚠注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

09603100070

⑮

⚠注 意 乗らないでください。走行の時は折りたたんでください。



⑫
⚠注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑱
⚠注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015

⑰
⚠警 告
●排塵ダクトを外した時は、作業機クラッチを《入》にしないでください。
また作業をする時は、排塵ダクトを装着してください。
●軽トラックに機械を積込む時は、排塵ダクトを外してください。
43067185000

⑯
⚠警 告
●ケガをするおそれがあるので排塵ダクトの中に手を入れないでください。
43077177000

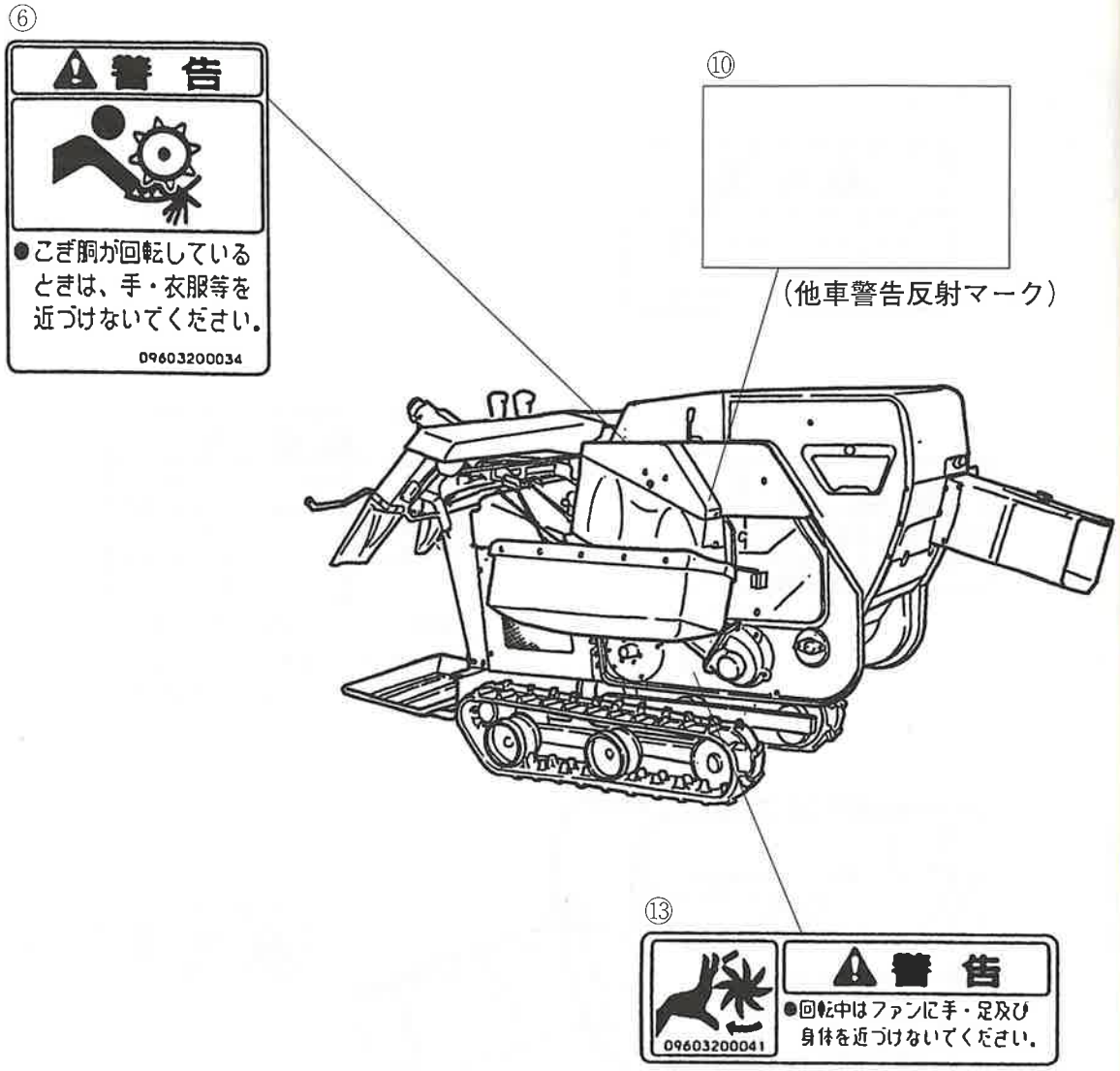
⑧
⚠注 意 走行時は収納してください。
43077173000

⑱
⚠注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015

⑬
⚠警 告
●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。
09603200041

［61型のみ］

⑫
⚠注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017



[61型のみ]

No	部品名称	部品番号	No	部品名称	部品番号
①	ケイコクラベルハーベスタ	0960 3200 028	⑩	ハンシャマーク	3630 8587 000
②	ケイコクラベルツミ・オロシ	4306 7124 000	⑪	チュウイラベル	3552 8572 000
③	キケンラベルガソリン	0960 3000 016	⑫	チュウイラベルカバー	0960 3100 017
④	ケイコクラベルハイキ	0960 3200 029	⑬	ケイコクラベルファン	0960 3200 041
⑤	チュウイマークストレーナコック	0960 3100 021	⑭	チュウイラベルカッタカバー	0960 3100 020
⑥	ケイコクラベルコギドウ	0960 3200 034	⑮	チュウイラベル	4353 7129 001
⑦	ケイコクラベルチェン	0960 3200 042	⑯	ケイコクラベルハイジン	4307 7177 000
⑧	チュウイラベルカサイボウシ	4353 7124 001	⑰	ケイコクラベルハイジン	4306 7185 000
⑨	チュウイラベル	4307 7173 000	⑱	チュウイラベルカイヘイ	0960 3100 015

地球環境を守るために

このたび（社）日本陸用内燃機関協会（陸内協）が環境保全のために定めた排出ガス自主規制の適合エンジンを搭載しました。



この自主規制は、小型汎用火花点火エンジンの排出ガス中の炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）、及び一酸化炭素（CO）を低減するためのもので、識別のため陸内協で決定した右図の適合ラベルをエンジンファンカバー等に貼付けています。

使用期間中は、次の事項を守ってください

1．**自主規制適合ラベルは剥がさないでください。**

2．**エンジンの点検整備は、取扱説明書にしたがって実施してください。**
気化器の調整、部品交換が必要な場合には、「お買いあげ先」にご相談ください。

本エンジンは、排出ガスの量が規定値内になるように管理出荷していますが、運転中の吸入空気と燃料の混合比に影響する気化器の調整、整備不良、不適切な部品交換がされた場合、排出ガス量は規定値を外れることがありますので注意願います。

2. 仕様（装備）について

41・51・61型の主な仕様（装備）は次の表のようになっています。

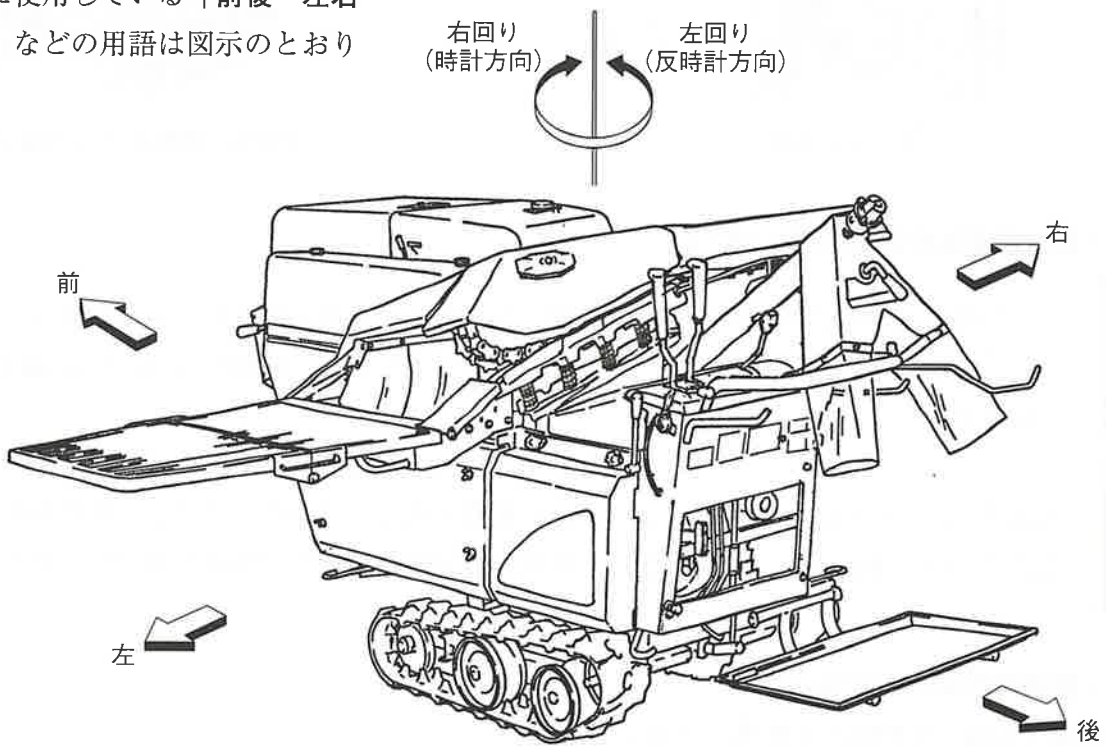
このため仕様（装備）が異なる点の追加説明をしていますので，お買いあげの機械の仕様（装備）をお確かめのうえ，お間違いのないようにしてください。

仕様＼型式名		41　型	51　型	61　型
エンジン出力（kW {PS}）		3.3 {4.5}	3.7 {5.0}	4.4 {6.0}
脱こく機	形　式	自脱型（下こぎ式）		
	こぎ胴(径×幅)(mm)	364×391		364×481
クローラ幅（mm）		150	170	200

（詳細な仕様は46ページの「**主要諸元**」を参照ください。）

3. 用語について

(1)　この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のとおりです。



(2)　**マークの説明**

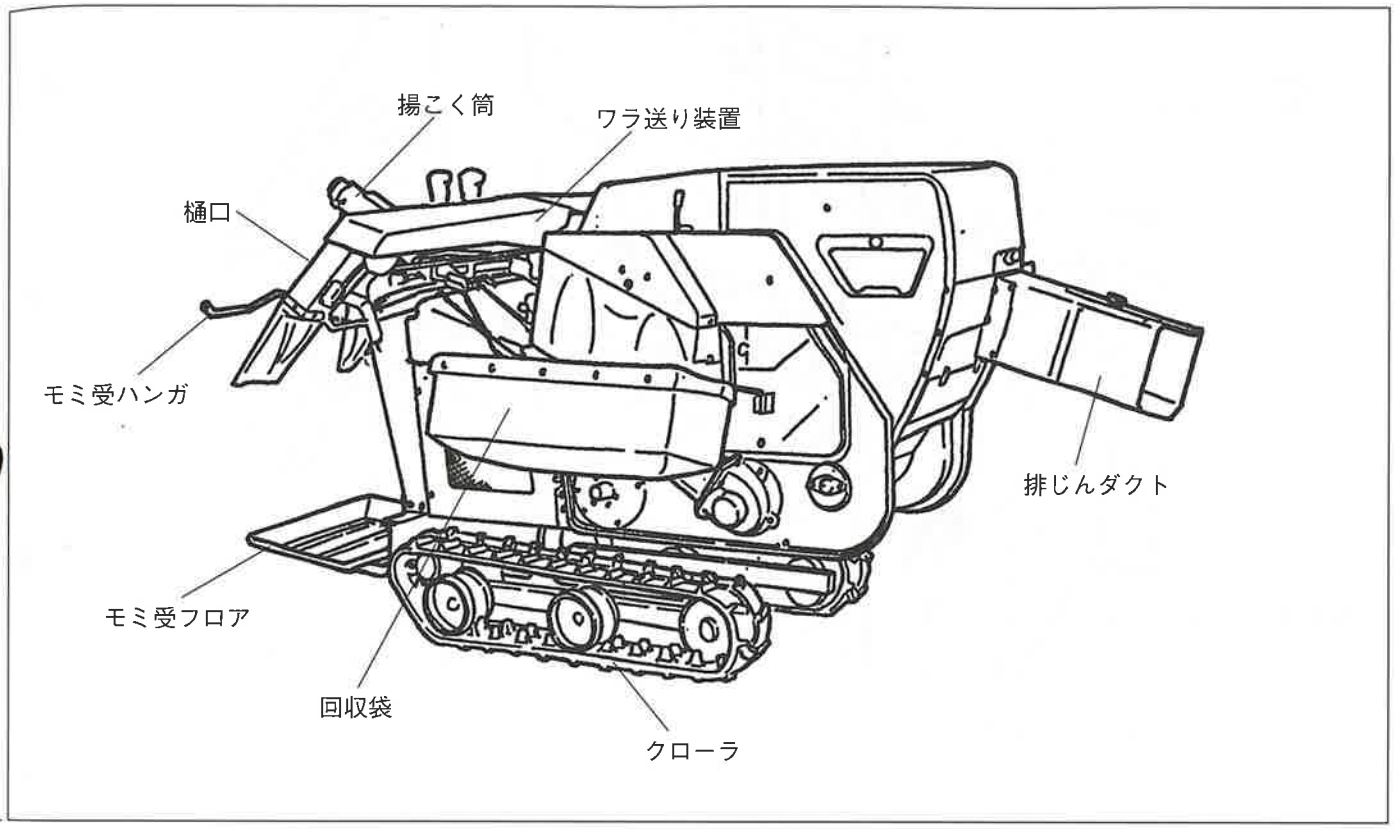
この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

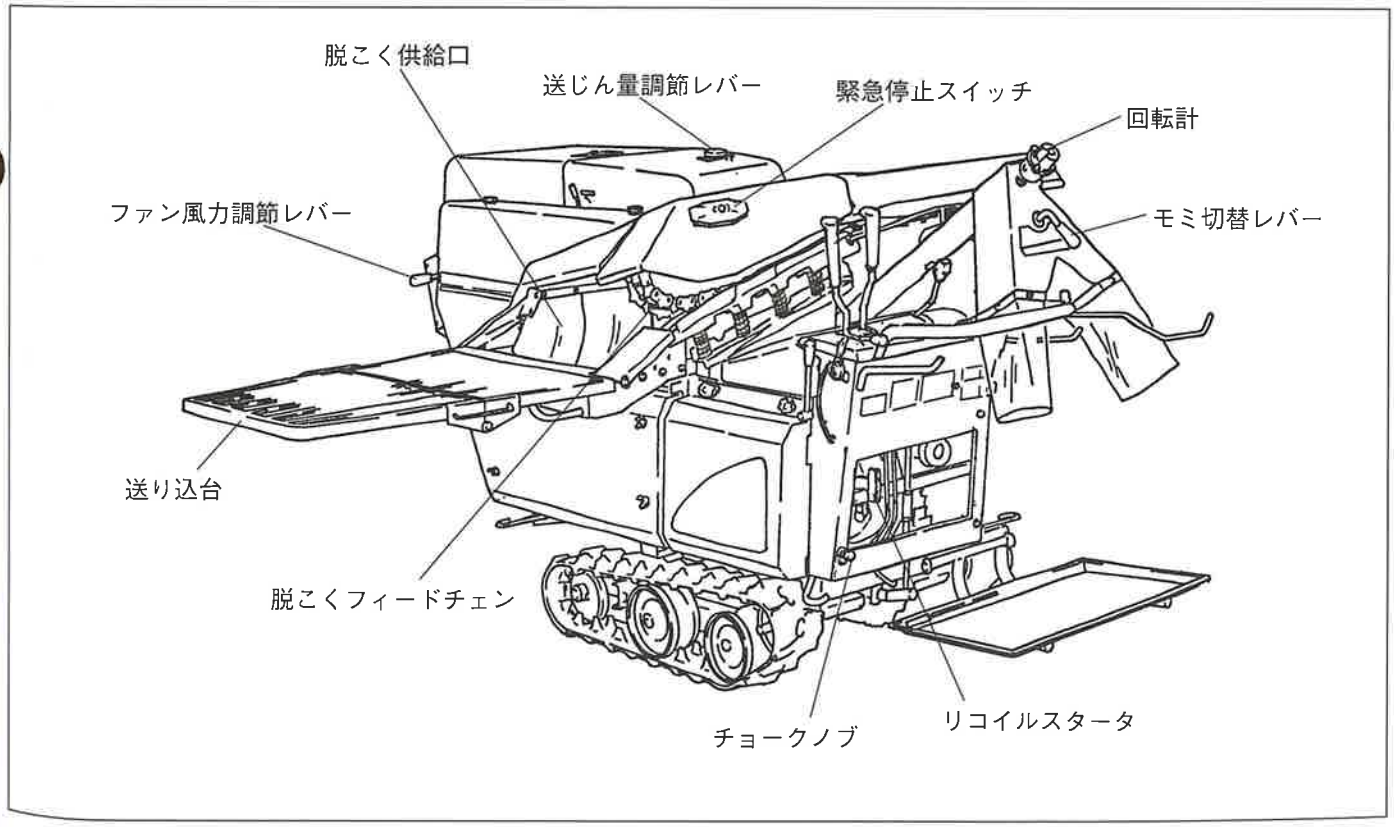
・ ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・ **取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと故障の原因になることがあります。

各部のはたらき

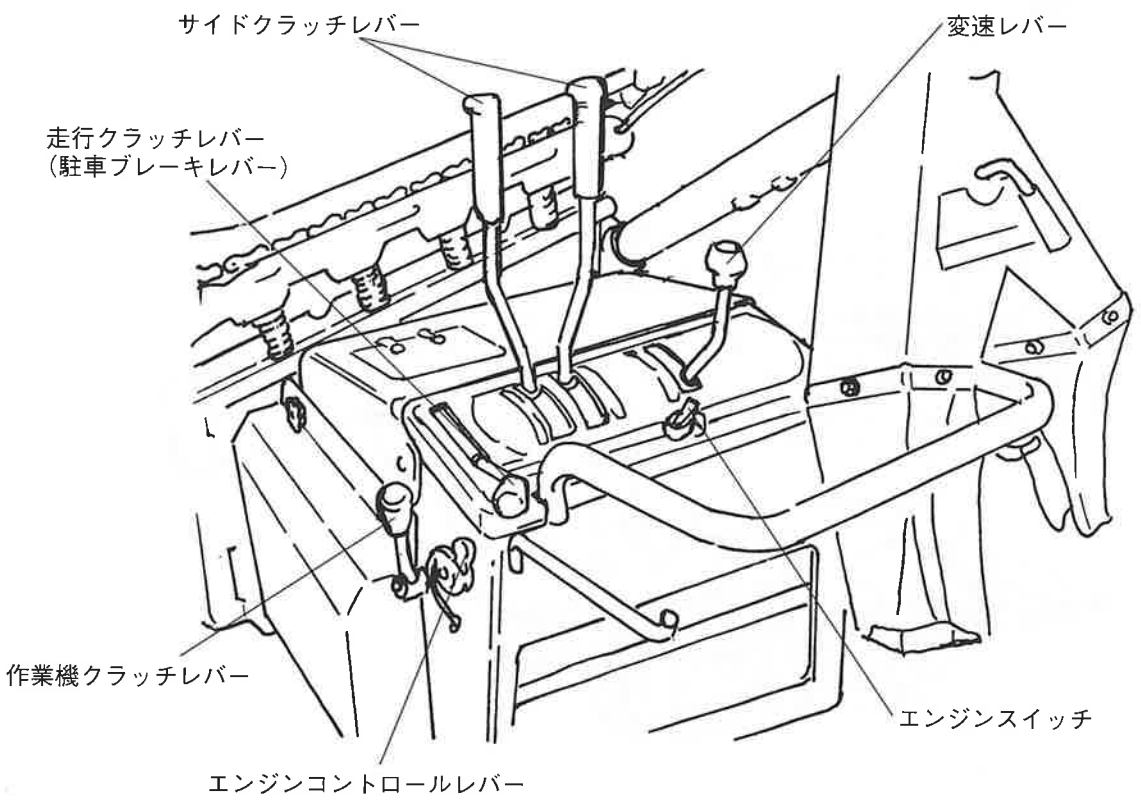
1．各部の名称





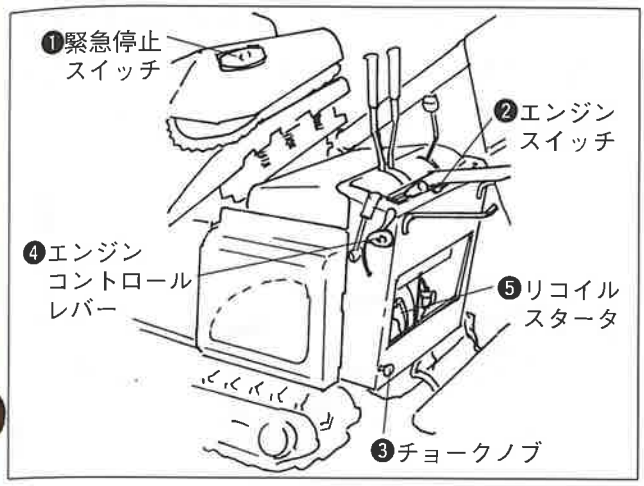
各部のはたらき

運転操作部



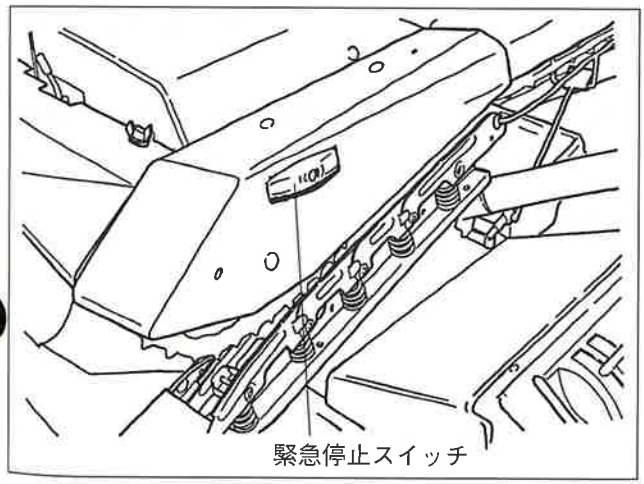
2. 運転装置の取扱い

1. エンジンコントロール関係



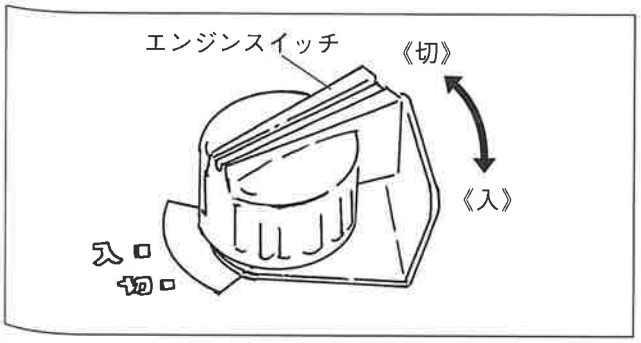
❶ 緊急停止スイッチ

・緊急停止スイッチを押すとエンジンが停止します。脱こく作業中など万一トラブルが発生した時は，このスイッチを押します。



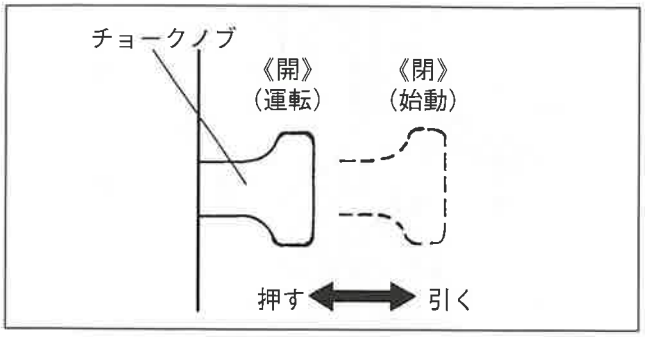
❷ エンジンスイッチ

エンジンの始動，停止に使用します。エンジン始動時は《**入**》の位置にしエンジン停止時は《**切**》の位置にします。



❸ チョークノブ

チョークノブを引くと，燃料の混合気が濃くなり，エンジンの始動を容易にします。

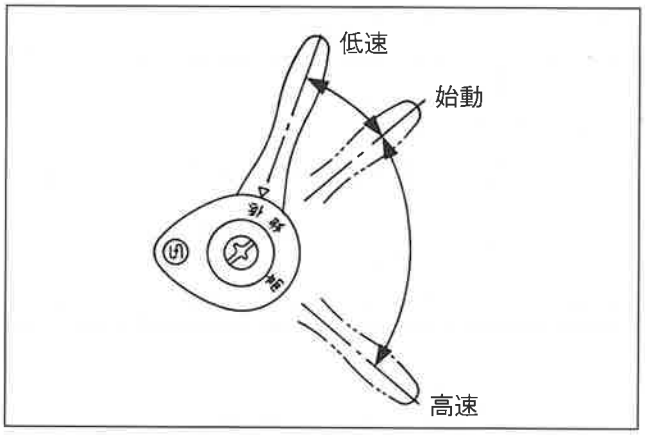


❹ エンジンコントロールレバー

エンジン回転の調整ができます。

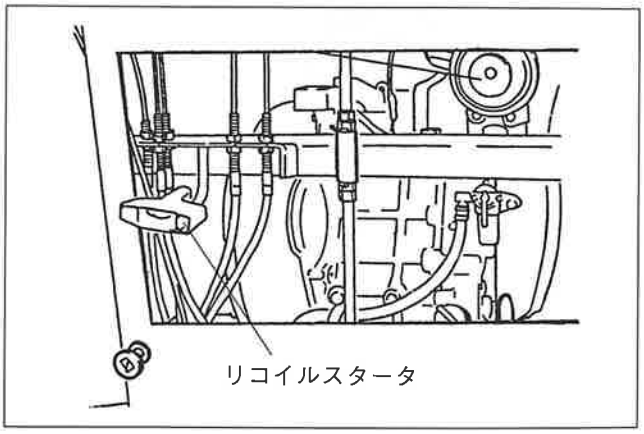
《**高**》側にするとエンジン回転が上がり，《**低**》側にするとエンジン回転が下がります。

始動時は《**始**》の位置にします。

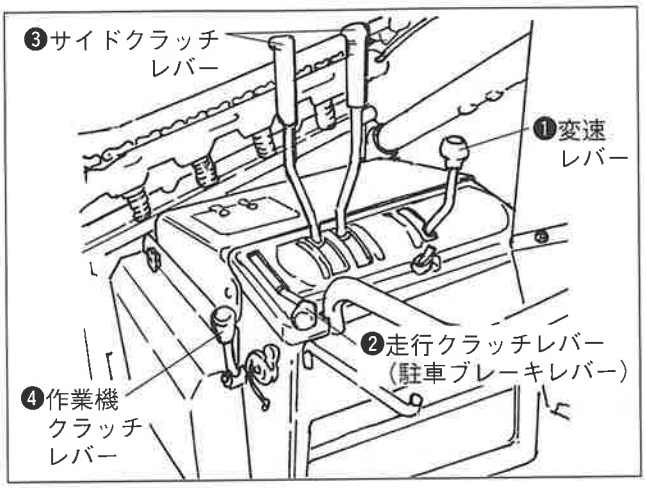


❺ リコイルスタータ

エンジンスイッチを《**入**》位置にして，リコイルスタータの握りを勢いよく引いてエンジンを始動します。



2. 操作レバー関係

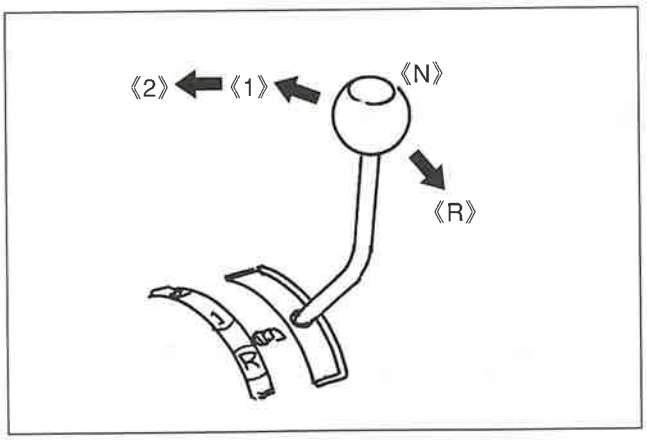


❶ 変速レバー

作業に合わせて走行速度を使い分けます。

変速を前進2段《2》《1》，中立《N》，後進《R》に切替えるレバーです。

前進	《2》（高速）	移動走行
	《1》（低速）	移動走行,自動車への積込み,あぜ越え
中立	《N》	エンジンの始動，停止時，格納時
後進	《R》	移動,自動車からの積降ろし,あぜ越え

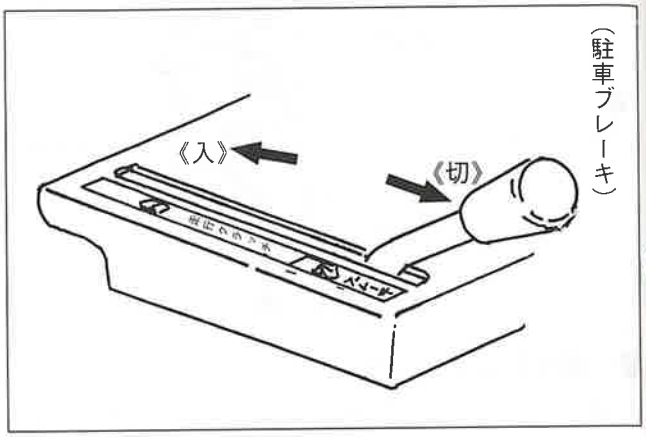


❷ 走行クラッチレバー（駐車ブレーキレバー）

機械を走行，停止させる時に使用します。また，駐車ブレーキレバーとしても使用します。

《入》位置にすると，エンジンの動力をトランスミッションへ伝え，機械が前進又は後進します。

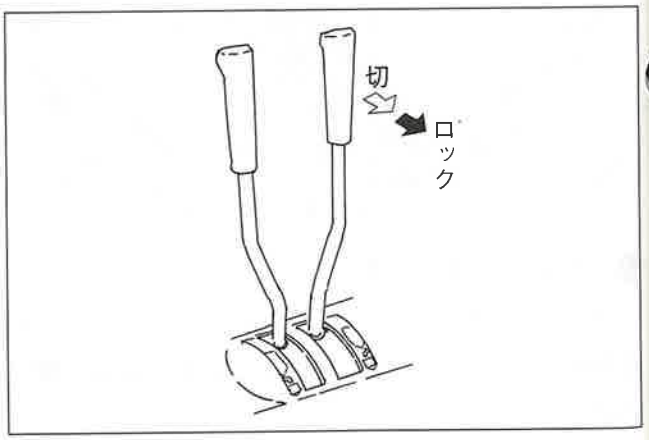
《切》位置にすると，エンジンの動力が断たれて機械が止まり，駐車ブレーキがかかります。



❸ サイドクラッチレバー

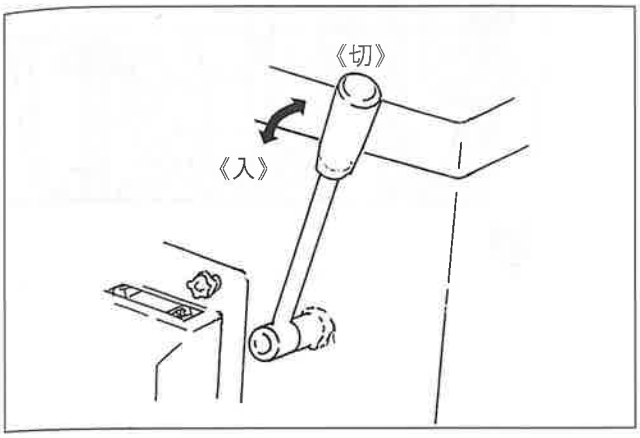
機体の方向を変える時に使用します。旋回したい側のレバーを引くと，引いた側に機体が旋回します。

少し引くと引いた側のクローラへの伝達力が断たれ，さらに引くとクローラがロック（固定）されます。



❹ 作業機クラッチレバー

脱こく部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。

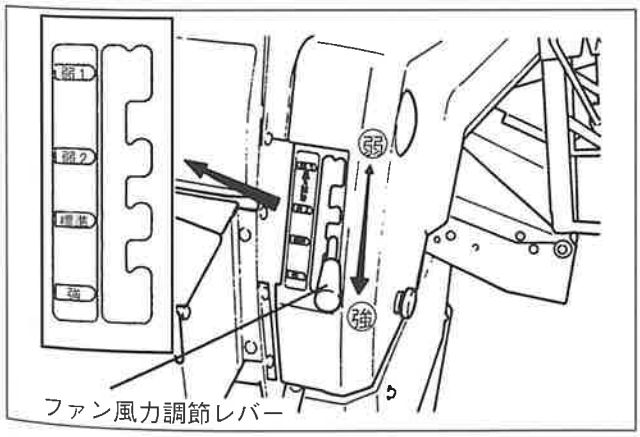


取扱いのポイント

- **作業中はエンジン低速回転では作業機クラッチレバーを《入》にしないでください。詰まりの原因となります。**
- **作業機クラッチレバーを《切》にするときはエンジンを低速回転にしないで，脱こく部を１～２分間空運転し脱こく内部のゴミや残留こく粒を排出してから《切》にしてください。**

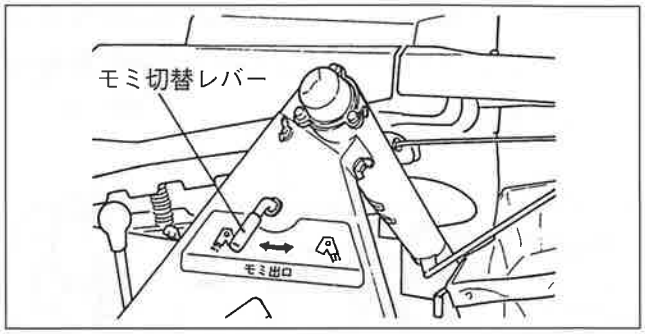
❺ ファン風力調節レバー

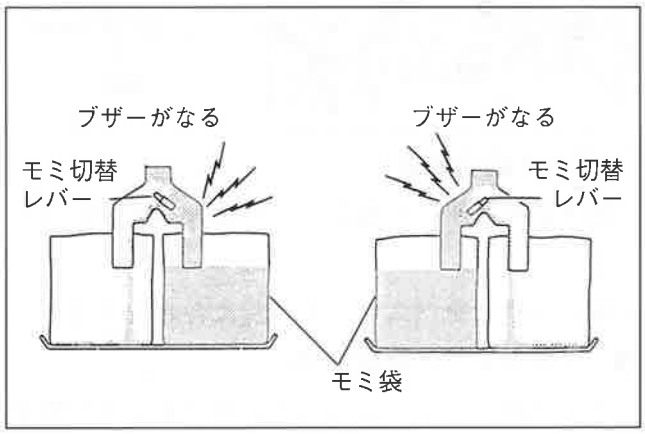
脱こく材料条件によってファンの風力を調節するレバーです。



❻ モミ切替レバー

モミが出る側を切替えるレバーです。レバーの向き側にモミが出ます。片側のモミ袋がいっぱいになると警報ブザーが鳴りますのでレバーを切替えます。





取扱いのポイント

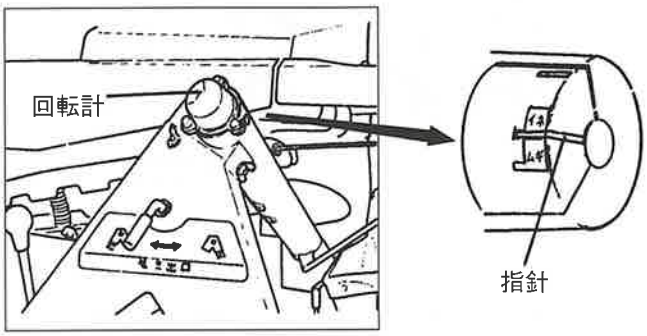
- **モミ袋を交換しないで作業をつづけると，両側のモミ袋がいっぱいになり，詰まりの原因になります。**

3. 計器・電装関係

❶ 回転計

こぎ胴の回転数を表示します。

こぎ胴回転数はエンジンを始動し，作業機クラッチレバーを《**入**》位置にして回転計の指針を見ながらエンジンコントロールレバーで作物にあわせて回転数を調整します。



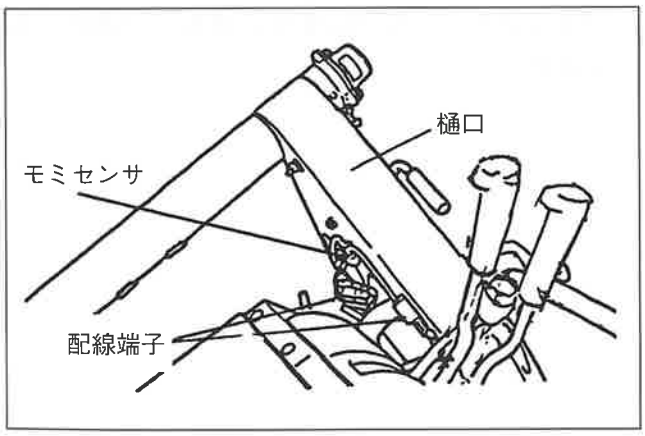
「適正こぎ胴回転数」

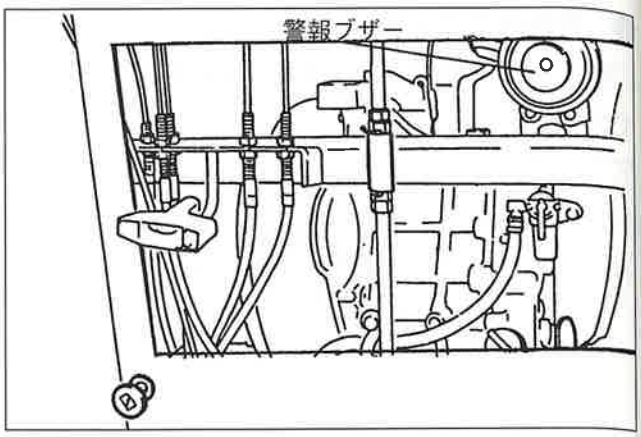
・**稲・ビール麦**……指針を《**イネ**》の上限に合わせます。

・**麦**……指針を《**ムギ**》の上限に合わせます。

❷ モミセンサ，警報ブザー

モミ袋がいっぱいになると，モミセンサが作動し警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったらただちにレバーを切替えてモミ袋を交換します。モミ袋を交換すると警報ブザーは鳴りやみます。





運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参照して点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時には機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油をしないでください。

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。

◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

◆燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷による燃料もれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，もれがあれば交換してください。

「運転まえの点検表」

個　所	内　容	処　置	参照ページ
燃料タンク	・作業に必要な量の燃料が入っていますか ・燃料ホースから燃料がもれていませんか	・燃料を補給する ・自動車用無鉛ガソリン ・タンク容量：6.0Ｌ ・ホースを交換する	28 36
エンジンクランクケース	・オイル面が給油栓（オイルゲージ）の上・下限の間にありますか	・オイルを補給する ・エンジンオイル ・オイル量［41型］：0.6Ｌ ［51型］：0.9Ｌ［61型］：1.2Ｌ	28
エアクリーナ	・防じんフィルタが目詰まりしていませんか ・オイルが汚れていませんか	・防じんフィルタの掃除 ・オイルの交換 ・オイル量［41型］：0.05Ｌ ［51型］：0.05Ｌ［61型］：0.08Ｌ	30～32
走行クラッチレバー （駐車ブレーキレバー）	・走行クラッチが切れますか ・駐車ブレーキがききますか	・ワイヤを調整する	37
サイドクラッチレバー	・左右のサイドクラッチが切れますか	・左右のワイヤを調整する	36
緊急停止スイッチ	・エンジンを急停止することができますか	・配線の接続部を確認する	5
各レバー・ワイヤの摺動部	・スムーズに動きますか ・油ギレしていませんか	・適量注油する	30

2．エンジンの始動と停止

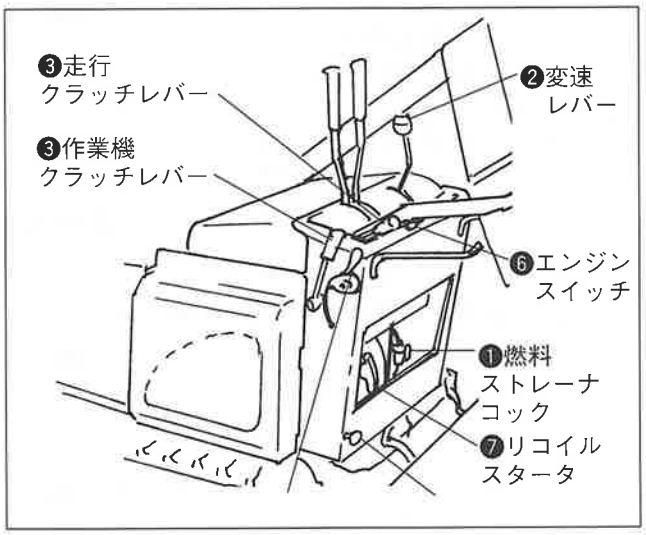
⚠警告　傷害事故防止のために

◆エンジンを始動する前に点検・整備などで取外したカバー類はすべて取付けます。
◆主クラッチレバーを《切》，主変速レバーが《N》(中立) になっていることを確かめてから，エンジンを始動してください。
◆屋内で始動する時は窓や戸を開けて換気をしてください。

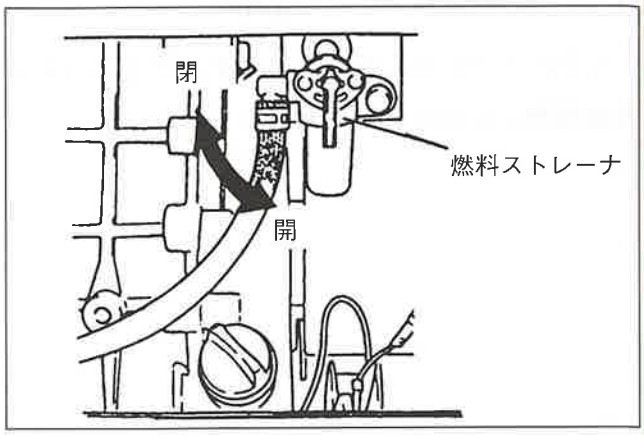
⚠注意

◆リコイルスタータを引っ張る時は周囲に障害物がないか確認し機械のまわりから人を遠ざけてください。
◆プラグキャップを外したまま行なったり，又高圧コードに触れたりしないでください。

1．エンジン始動のしかた



❶ 燃料ストレーナのコックを《O》(開) にします。



❷ 変速レバーを《N》(中立) の位置にします。

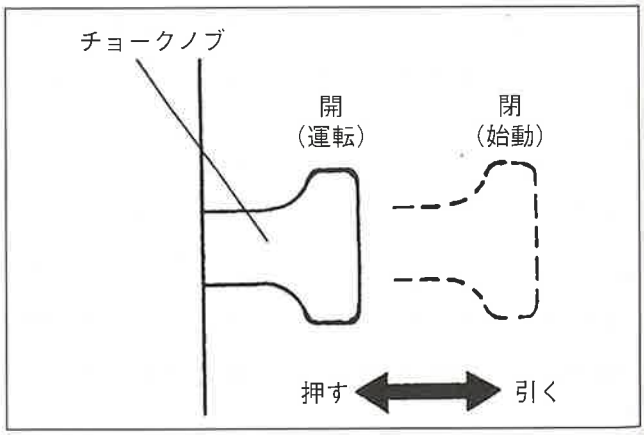
❸ 走行クラッチレバー・作業機クラッチレバーを《切》の位置にします。

❹ エンジンコントロールレバーを《始》(始動) の位置にします。

❺ チョークノブを操作します。

(1) エンジンが冷えているとき
……ノブをいっぱい引く「閉」

(2) エンジンが暖まっているとき
……ノブを半分程度引く。または操作しない「半開または開」



❻ エンジンスイッチを《入》(始動) の位置にします。

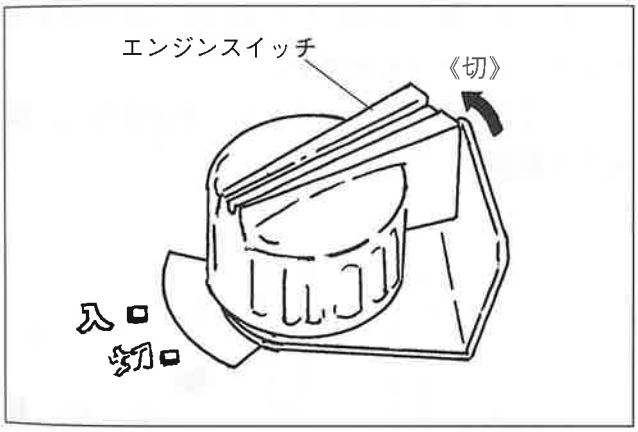
❼ リコイルスタータの握りを勢いよく引きます。

・エンジンが始動したら，エンジンの回転調子をみながらチョークノブを徐々に押込みもとに戻します。

取扱いのポイント

- エンジン始動後は，エンジンコントロールレバーを《低》の位置にし，約５分間暖機運転をしてから作業をしてください。
- 何かの理由によりエンジンが始動しないとき，チョークノブを引いたままで何回も始動操作をくり返さないでください。燃料の吸いすぎになり，始動困難となります。
- 燃料の吸いすぎの時は，チョークノブを押込み(開)，リコイルスタータを２～３回ゆっくりと引きその後通常の始動操作を行なってください。

2. エンジン停止のしかた



❶ エンジンコントロールレバーを《低》の位置にします。

❷ エンジンスイッチを《切》にします。

取扱いのポイント

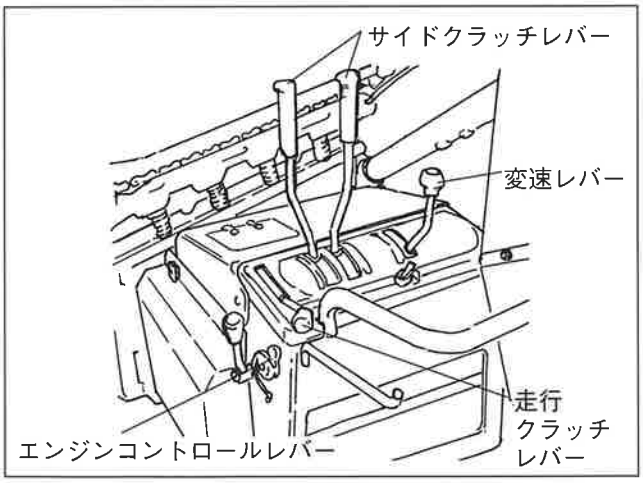
- 作業終了後エンジンを停止するときは，２～３分間低速回転で冷却運転を行い，エンジン温度を下げてから停止してください。

3．運転のしかた

1．発進・旋回のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆発進するときは周囲を確認してからゆっくり行なってください。
◆旋回する時はエンジンコントロールレバーでエンジン回転を低速にして，周囲を確認して行なってください。
◆変速レバーは走行クラッチレバーを切って操作してください。
◆高速で走行しているときは，サイドクラッチレバーを操作しないでください。



❶ 始動直後はエンジンの温度が低く，オイルが各部にゆきわたっていないので「**暖機運転**」(約5分間）を励行します。

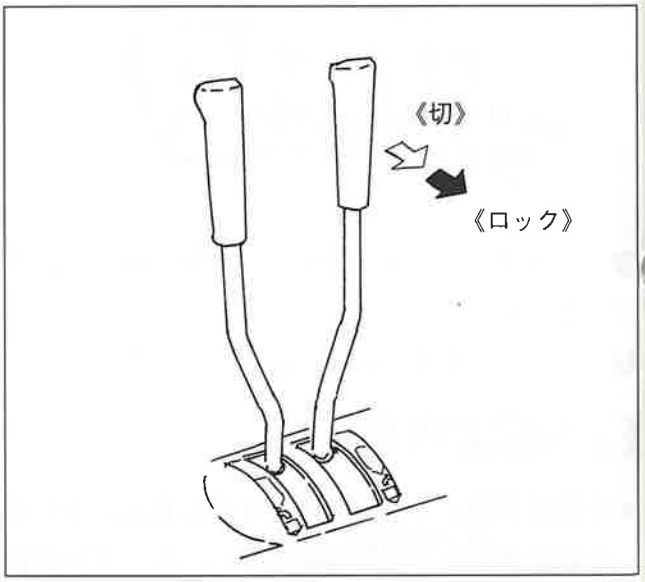
❷ 変速レバーを走行する条件にあわせた位置にセットし，エンジンコントロールレバーを《**低**》（低速）にし走行クラッチレバーを《**入**》にすると発進します。

前進	《2》(高速)	移動走行
	《1》(低速)	移動走行,自動車への積込み,あぜ越え
後進	《R》	移動,自動車からの積降ろし,あぜ越え

❸ 発進後はエンジンコントロールレバーにて走行速度を調整します。

❹ 機械の方向を変える時は，エンジンコントロールレバーを《**低**》(低速）にし旋回する側のサイドクラッチレバーを引きます。

さらに強く引くとサイドブレーキが作用し，機械が「**急旋回**」します。



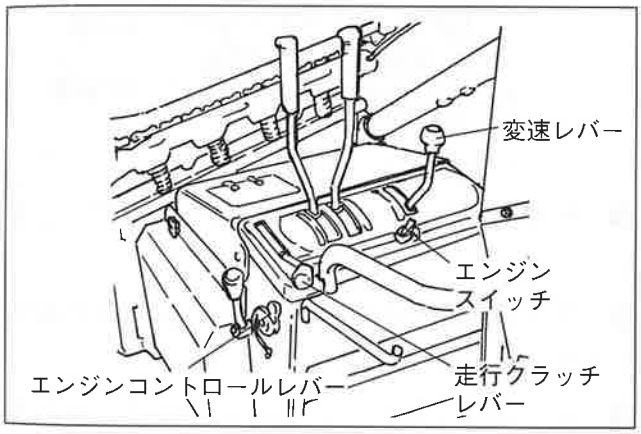
取扱いのポイント

- **変速レバーが入りにくいときは，変速レバーを《N》(中立）にして走行クラッチレバーを「入」「切」の操作を行い，《切》にしてあらためて変速をしてください。**

2. 停車のしかた

⚠警告 火災・傷害事故を防止するために

◆燃えやすいものの近くには止めないでください。
◆機械は平坦な場所を選んで止めてください。
◆坂道では駐車しないでください。やむをえず坂道で駐車するときはクローラに「歯止め」をしてください。
◆機械から離れる時は，平坦な場所に置き走行クラッチレバーを《切》(駐車ブレーキ)の位置にしてエンジンを停止してください。



❶ エンジンコントロールレバーを《低》(低速)にします。
❷ 走行クラッチレバーを《切》(駐車ブレーキ)にします。
❸ 変速レバーを《N》(中立) にします。
❹ エンジンスイッチを《切》にします。
❺ 燃料ストレーナの燃料コックを《C》(閉) 位置にします。

取扱いのポイント

- 作業終了後エンジンを停止するときは，2～3分間低速回転で冷却運転を行い，エンジン温度を下げてから停止してください。

3．移動走行のしかた

走行するときは，つぎのことを守り「**安全な速度**」で運転します。

⚠警告 ◆この機械は「道路運送車両法」に適合していませんので，公道は走行できません。
公道を移動する時は自動車（トラック等）にのせて輸送してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆移動走行する前に，モミ受フロアは折りたたんでください。また，機械の上には人(子供等）や物（モミ等）をのせないでください。

◆各操作レバーは正しく操作し，わき見運転や片手運転はしないでください。接触や転落の原因になることがあります。

◆坂道や凸凹，カーブの多い道路では，高速運転はしないでください。

◆高速で走行するときは，サイドクラッチレバーを操作しないでください。操作すると急旋回し事故を起こすことがあります。

◆側溝のある農道や，両側が傾斜している農道を走行するときは，路面を確認してください。路肩がくずれて転倒し傷害事故を起こすことがあります。

◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行してください。

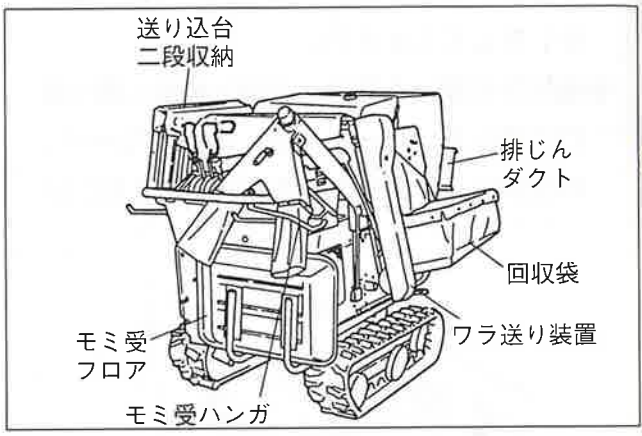
◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

◆急な坂道では，変速レバーを《N》（中立）位置にしたり，サイドクラッチレバーや走行クラッチレバーを《切》位置にしないでください。エンジンブレーキがきかなくなり，暴走することがあります。

◆溝やあぜを横断したり，軟弱な場所を通るときには,「低速」にしてください。高速運転では，スリップや転倒の原因になります。

◆砂利道など路面が悪いところでは，低速または，自動車（トラック等）で運搬をしてください。

◆夜間移動走行する時はライトを装着して点灯してください。



❶ 作業機クラッチレバーは《切》の位置にします。

❷ ワラ送り装置は格納状態にし，回収袋は取外します。

❸ 送り込台（手こぎ台）は，上へ折りたたみます。(二段収納)

❹ モミ受フロアを上へ折りたたみます。

❺ 排じんダクトを折りたたみます。

❻ モミ受ハンガを収納します。

取扱いのポイント

- **ほ場間を移動するときは，路面の凹凸状態にあった速度を選んで機械に大きな振動やショックがかからないよう走行します。**
- **距離のある移動には自動車等を利用して運搬します。**

4. 自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

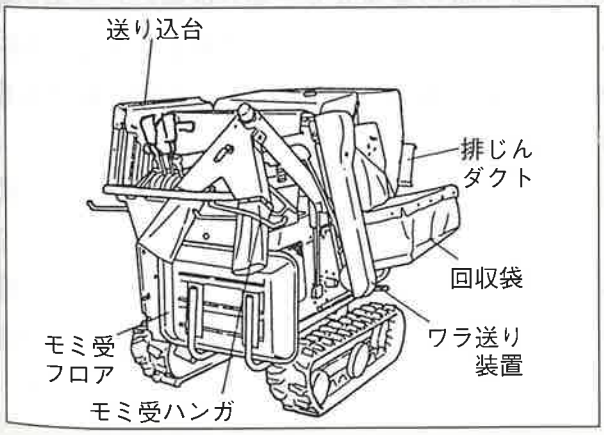
⚠警告 傷害事故防止のために

◆アユミが傾いたりしない平坦で硬い場所を選び，自動車（トラック等）は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を「後進」(バック) に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

◆アユミは機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅)，長さ（荷台高さの4倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用してください。

◆アユミのフックは段差のないように，またはずれないように荷台に平行にかけてください。

◆自動車への積込み・積降ろしの時は「回収袋」を取外し，「送り込台」・「排じんダクト」・「モミ受フロア」・「モミ受ハンガ」・「ワラ送り装置」を収納状態にしてください。



◆積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行なってください。

◆軽トラックに積込む時は「排じんダクト」を外してください。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。補助者は機械の直前には立たないでください。また機械の周囲に人を近づけないでください。

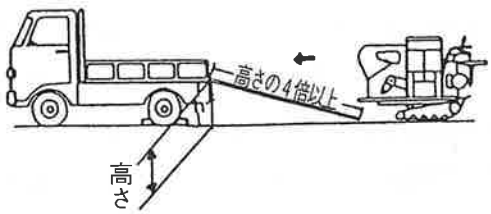
◆自動車への積込み・積降ろし中はアユミの上で，サイドクラッチ，走行クラッチ，変速の各レバーは操作しないでください。急に方向転換したりして転落する恐れがあります。

◆アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。機械がアユミの上に乗り始めたら離れてください。

◆機械が自動車に乗る直前や降りる直前では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗ってからまたは，降りてから近づいてください。

◆積込みが終わったら機械のフレームの四隅のフックにロープまたはワイヤをかけ機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて



❶ 積載重量を超えない自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。

❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ変速を後進に入れタイヤに「**歯止め**」をします。

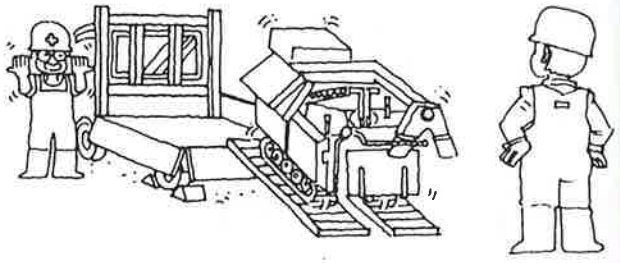
❸ アユミは自動車の荷台高さの４倍以上の長さ，機械の重量に合った強度と幅があり，すべり止め・フック付きのものを使用します。

❹ アユミは左右のクローラ位置に合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにし，「**横ずれ**」したり，「**はずれ**」たりしないように確実にかけます。

アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	30cm以上
数量	２枚
強度	１枚が200kg以上の重量にたえるもの

2．ハーベスタの扱いかた



❶ エンジンコントロールレバーを《**低**》(低速)にします。

❷ 積込みは《**前進**》，変速レバー位置は《１》(低速）で行い，積降ろしは《**後進**》，変速レバー位置は《R》(後進）で行います。

❸ 積込み，積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作をしないように発進前に左右のクローラをアユミにまっすぐにセットします。

❹ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

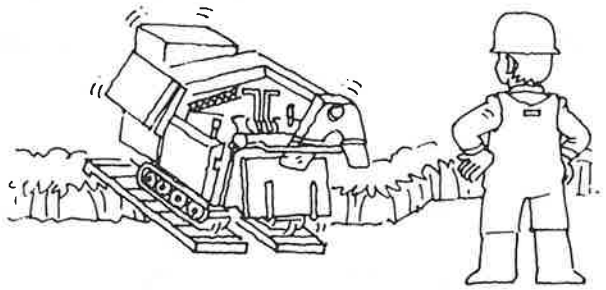
❺ 機械がアユミの上に乗り始めたら機械から離れます。

❻ 自動車に積込みが終わったら，走行クラッチレバーを《**切**》(駐車ブレーキ）位置にし，エンジンを停止します。クローラに「**歯止め**」をし，ロープを機械の四隅の「**フック**」にかけて固定します。

5. ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆あぜ越えは，アユミを使用し「低速」であぜに「直角」に行なってください。
◆急傾斜・溝越えはアユミを使用してください。
◆アユミを使用する時は，「自動車への積込み・積降ろし」の内容に従って行なってください。（15～16ページ参照）
◆ほ場への出入り・アユミの上ではサイドクラッチ操作や変速操作をしないでください。
◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行なってください。



❶ ほ場への出入りは「**アユミ**」を使用しあぜに「**直角**」に行います。
❷ 変速レバーは《1》(低速) でエンジンコントロールレバーを《**低**》(低速) にして行います。
❸ 急傾斜，溝越え，ほ場への出入りは「**アユミ**」を使用します。
❹ アユミを使用する時は，「**自動車への積込み・積降ろし**」(15～16ページ参照) の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が脱こく作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。以下の条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

❶ 作物の乾燥

ぬれた作物（雨あがり・朝露）は以下のような原因になりますので，乾燥（手でしごいてぬれない程度）するのを待ってから作業をします。

・能率があがらない
・選別不良
・詰まりやすい
・乾燥処理時間の増加

❷ 病害虫におかされた作物

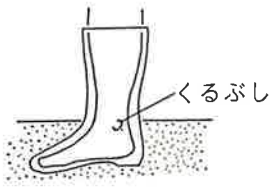
病害虫におかされた作物は以下のようなことがありますので，エンジン回転速度を守り供給の速度をおそくして行います。

・こく稈が折れやすい
・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「**くるぶし**」(約10cm) までは作業ができます。

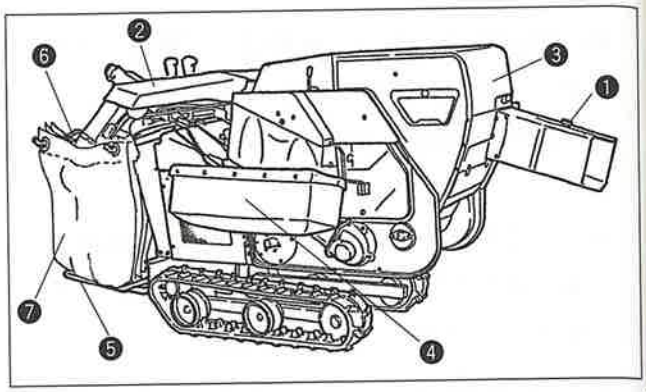


取扱いのポイント

- **機械の沈下を少なくするには，一度通ったクローラの跡はなるべく通らないようにしてください。**
- **作業がやりやすいように，なるべくほ場を乾かしてください。**

3．機械のセット

次の7ケ所を「**作業状態**」にセットします。

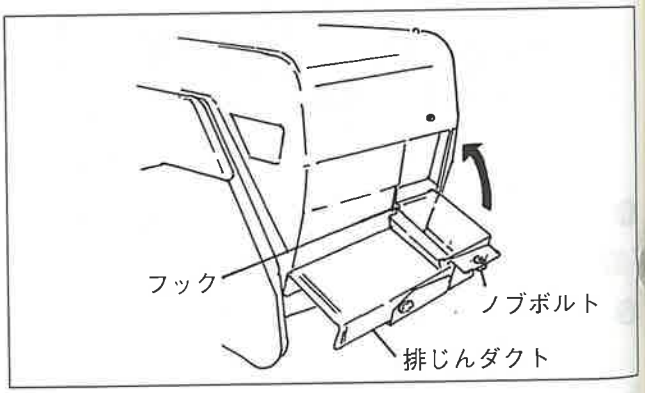


❶ 排じんダクトのセット

・軽トラックに積込みなどで「**排じんダクト**」を外した時は，次の要領で取付けます。

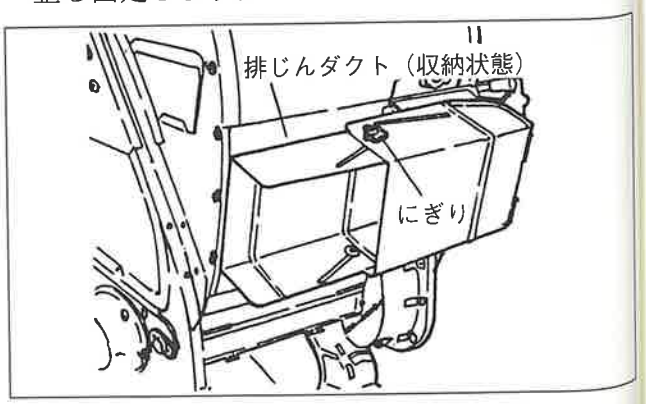
(1) 排じんダクトを取付ける。

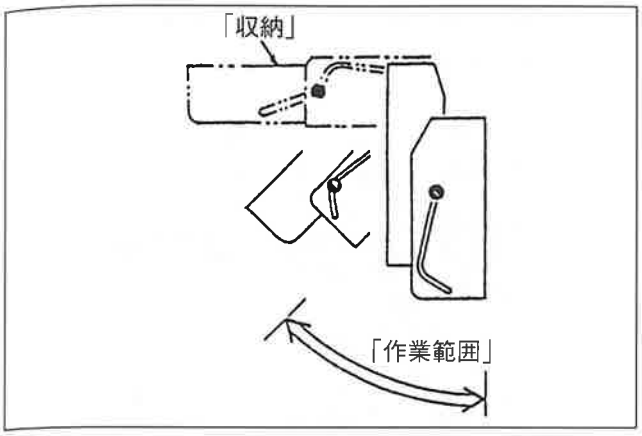
ダクトのフックを脱こく機前方の取付け穴に引っかけた後，ダクトを上方に回転させ，上部の取付ノブボルトで固定します。



(2) 「**作業状態**」にセットする。

ダクトを固定しているにぎりをゆるめ，風向き等を考慮して，「**作業範囲**」内の適切な角度に調整し固定します。





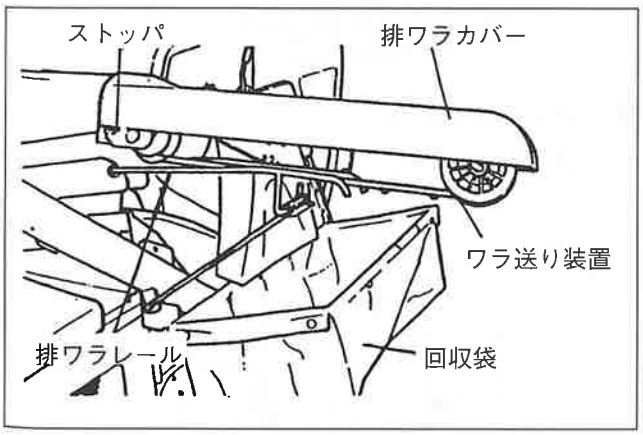
取扱いのポイント

- **排じんダクトを収納状態のまま使用すると，脱こく部の詰まりが発生します。作業する時は，ダクトを作業範囲に広げてください。**

❷ ワラ送り装置のセット

ワラ送り装置はワンタッチでセットできます。そのままストッパがかかる位置まで持上げます。

収納するときはストッパを手で外して下方へ折りまげます。

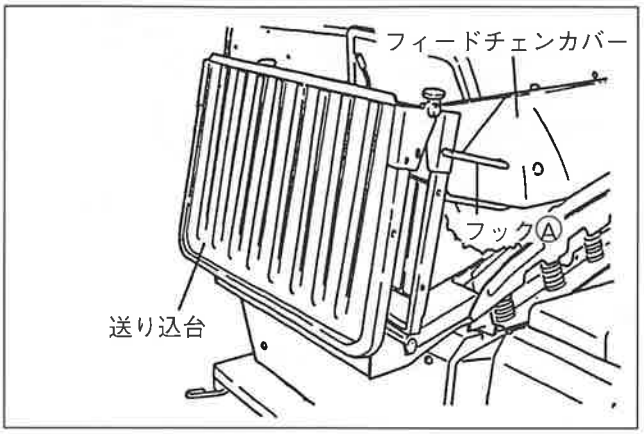


❸ 送り込台のセット

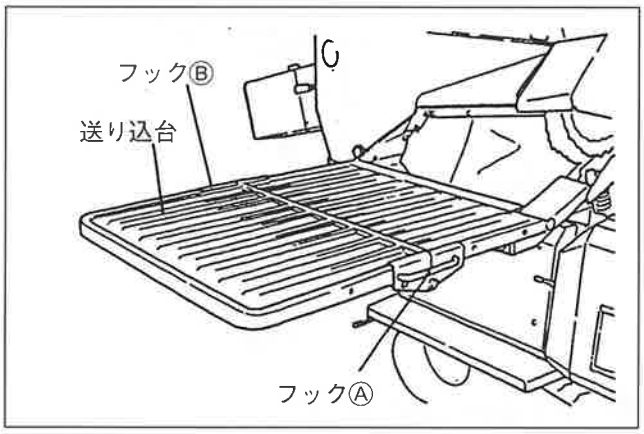
送り込台はフック㋐をフィードチェンカバーから外し，下方に倒します。

つぎに外側の送り込台を持上げ，フック㋐，㋑を差込めば通常の作業状態になります。

「収納状態」

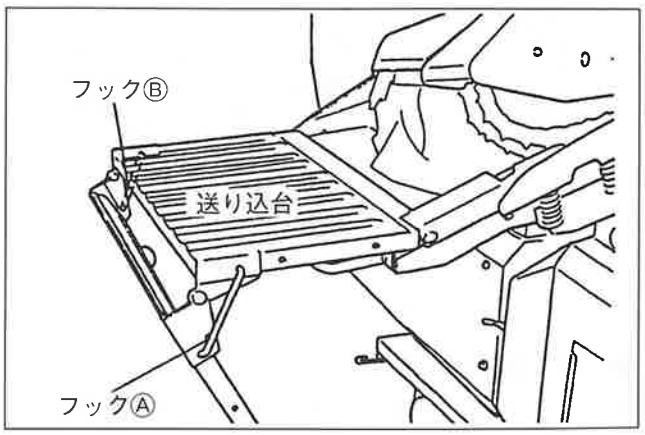


「通常の作業状態」



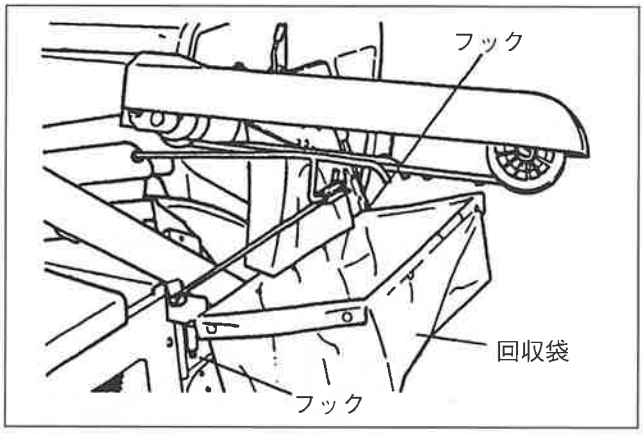
「狭い場所での作業状態」

狭い場所で作業するときはこの状態でフック㋐，㋑を差込んで使用できます。



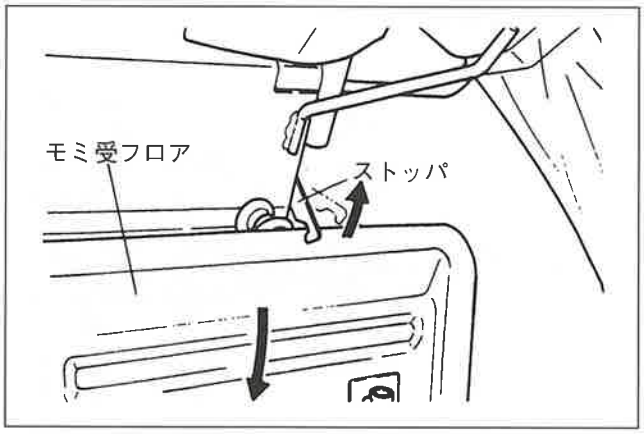
❹ 回収袋のセット

排ワラ出口部に回収袋のフックを差込みセットします。



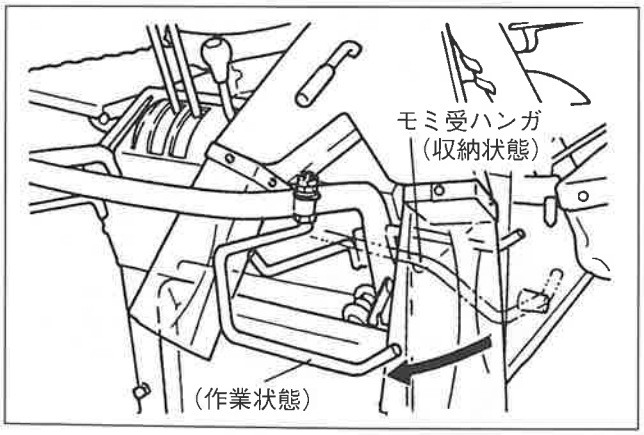
❺ モミ受フロアのセット

モミ受フロアはストッパを上方に持上げ，フロアを下方に倒します。



❻ モミ受ハンガのセット

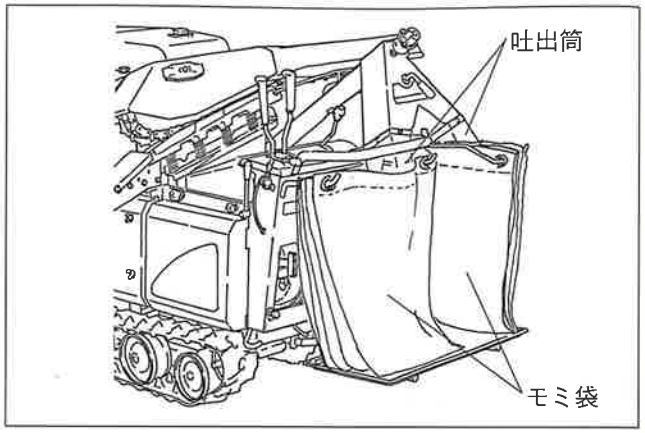
右側のハンガを横に開き，作業状態にします。



❼ モミ袋のセット

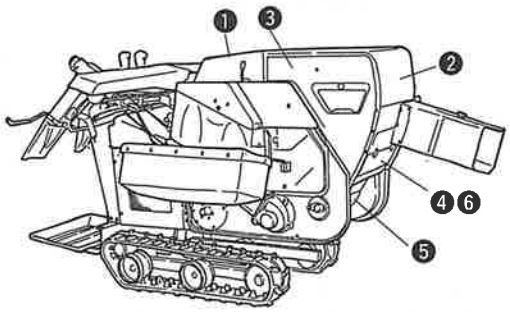
(1) モミ受けハンガの両側に同数のモミ袋を掛け，袋のチャックはすべて開けておきます。

(2) 左右の一番手前のモミ袋に吐出筒（ビニール筒）の先を中に入れます。



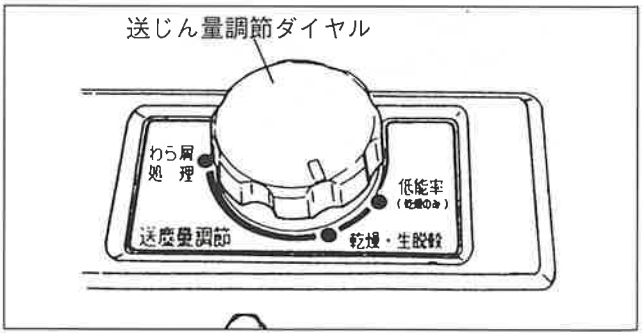
4. 各調節部の調整

次の６ケ所の調節部を作業及び脱こく材料の条件によって調整します。



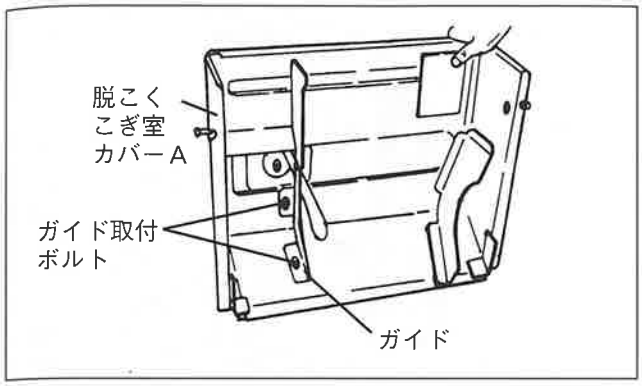
❶ 送じん量の調節

作業に応じて送じん量調節ダイヤルを切替えます。



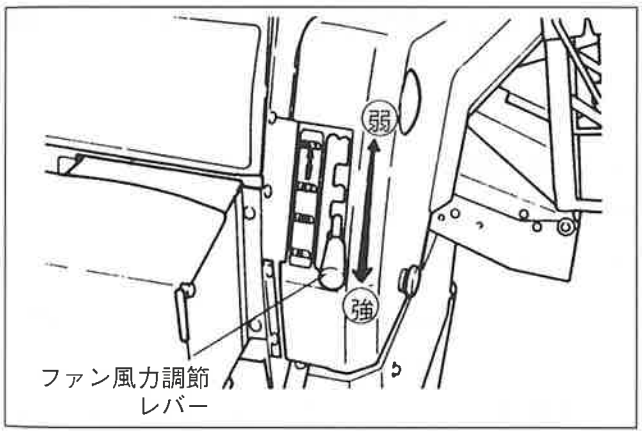
送じん量調節ダイヤル位置	作　業　条　件
乾燥・生脱こく	通常脱こく
わら屑処理	わら屑の処理 (回収袋内の処理)
低能率 (乾燥のみ)	乾燥材で脱こくの量が少なくて３番飛散が多い時

生脱こく作業で能率を上げるときは脱こくこぎ室カバーA裏側のガイドを2個所のボルトを外して取外します。(ガイドを取外したあとは付属品袋の中のナットを利用して穴をふさぎます。)



❷ ファンの風力調節

脱こく材料条件によって，レバーを所定のノッチに合わせ吸引ファンの風力を調節します。

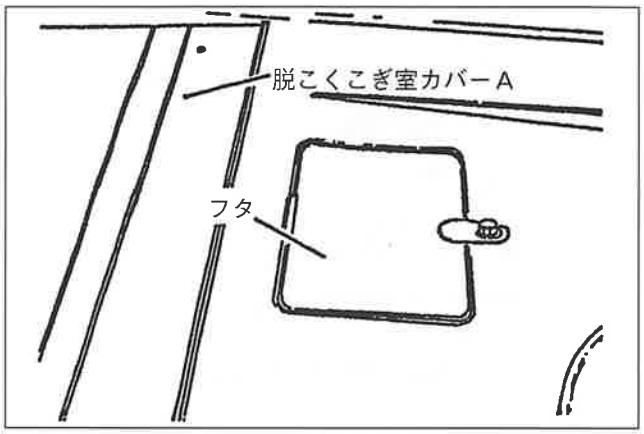


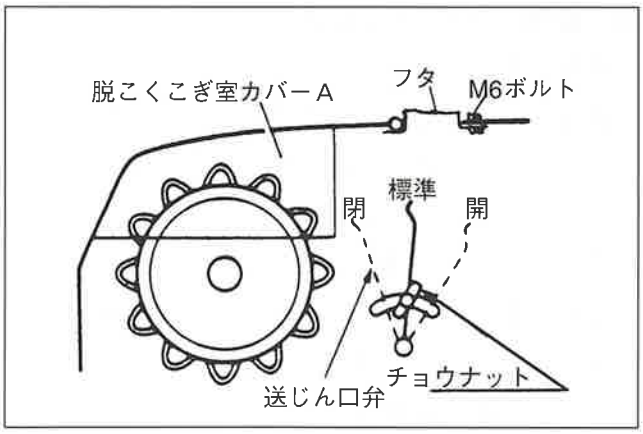
レバーの位置	材　料　条　件
弱1	・低能率で作業するとき
弱2	・3番飛散が多いとき
標準	・稲・乾燥材料
強	・稲・生脱こく ・麦・標準 ・詰まりが発生するとき

❸ 送じん口弁の調節

つぎの条件で調節する場合は，脱こくこぎ室カバーA，フタの順で外し，内部にあるチョウナットをゆるめ，送じん口弁を調節します。

・能率を上げたいときは《**開**》にセットします。
・乾燥材料で低能率作業の時のみ，3番飛散が多い場合は《**閉**》にセットします。





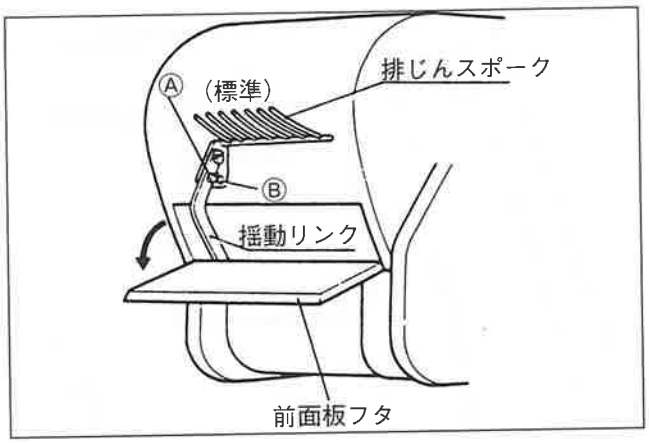
(工場出荷時は「**標準**」にセットしてあります。)

❹ 排じんスポークの調節

生脱こく，麦作業のとき，または排じんが悪いときはつぎのように排じんスポークを調節します。

(1) 前面板フタを開けます。(フックを外す)

(2) 標準位置Ⓐに止めてあるボルトをはずし，揺動リンクをⒷ穴にボルトを取付けてスポークを上げます。



❺ 揺動板の稲・麦の調節

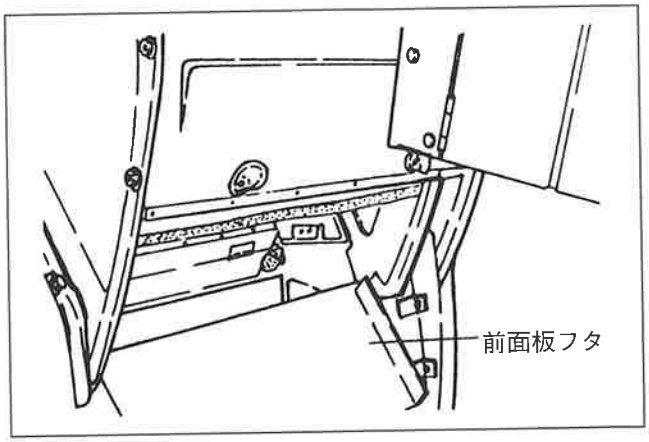
・**稲セット**……稲の脱こく作業

・**麦セット**……麦の脱こく作業，または稲でモミの中に穂切れ，枝梗(しこう)，切ワラの混入が多い時

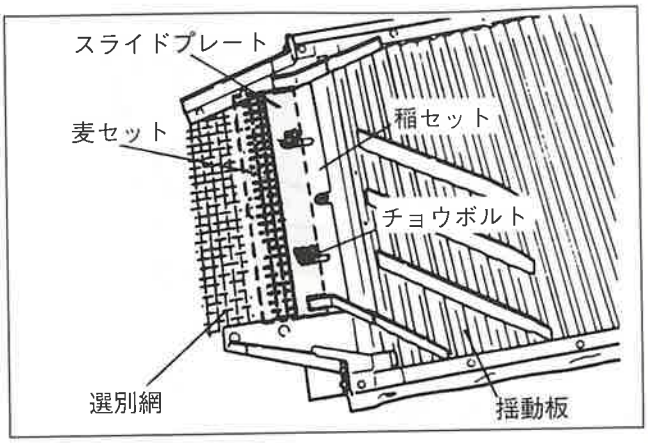
(工場出荷の時は「**稲**」セットにしてあります。)

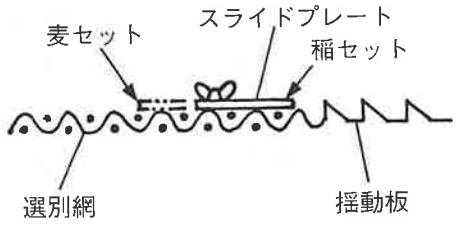
麦脱こく作業をする時，脱こく部揺動板のスライドプレートをいっぱい引出し麦セットにします。

(1) 脱こく部の前面板フタを開ける。(フックを外す)



(2) 揺動板の選別網後方のチョウボルトをゆるめ，揺動板側（稲セット）に調整されているスライドプレートをいっぱい引出し（麦セット），チョウボルトを締付けます。





❻ 流板の調整

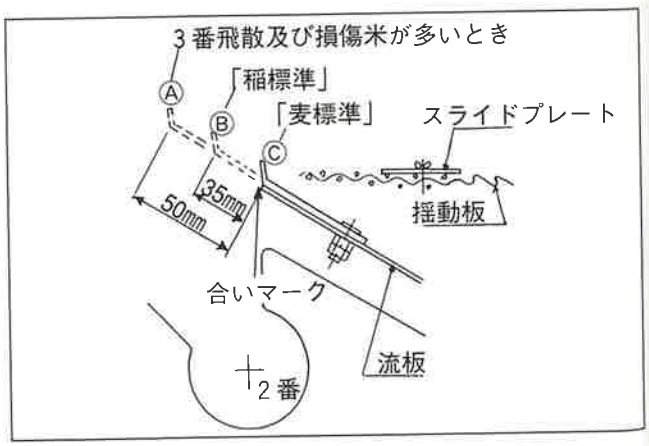
[61型]

(41・51型は流板の調整はありません)

・工場出荷は「**稲標準**」Ⓑにセットしてあります。(合いマーク位置)

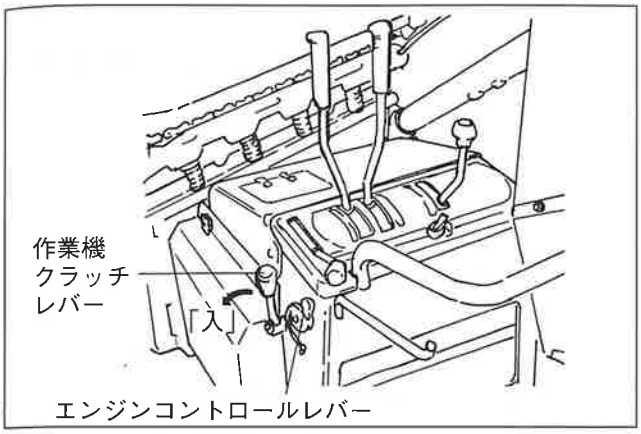
・「**麦標準**」は，Ⓒの位置にいっぱい押込みセットします。

・「**3番飛散及び損傷米が多いとき**」は，Ⓐの位置にいっぱい引出して作業します。



2. 脱こく作業のしかた

1. こぎ胴回転の調整



❶ エンジンを始動します。

❷ 作業機クラッチレバーを《**入**》れます。

❸ 回転計を見ながら「**こぎ胴回転数**」が適正回転になるように，エンジンコントロールレバーで調整します。

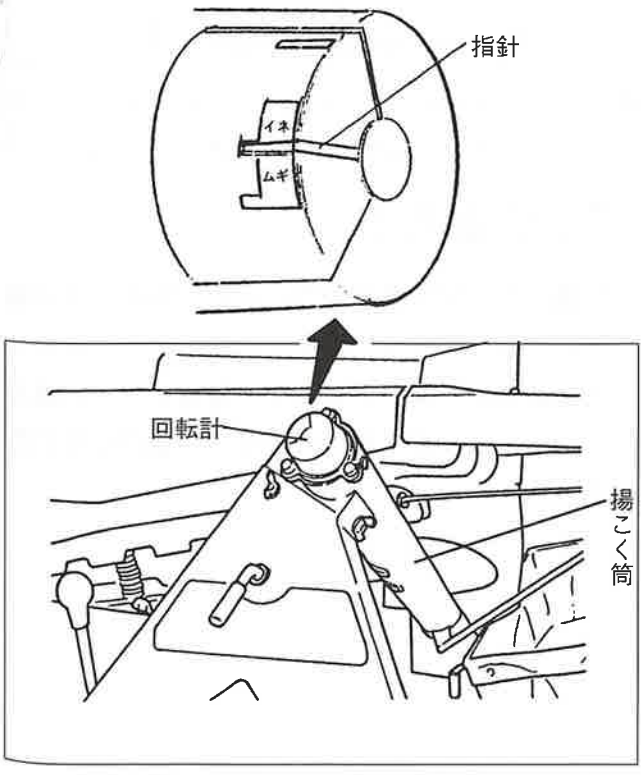
「適正こぎ胴回転数」

・稲・ビール麦……

・指針を《**イネ**》の上限に合わせます。

・麦……

・指針を《**ムギ**》の上限に合わせます。



2. 脱こく作業のしかた

「**こぎ胴回転数**」が調整できたら，次の要領で脱こくします。

⚠警告 傷害事故防止のために

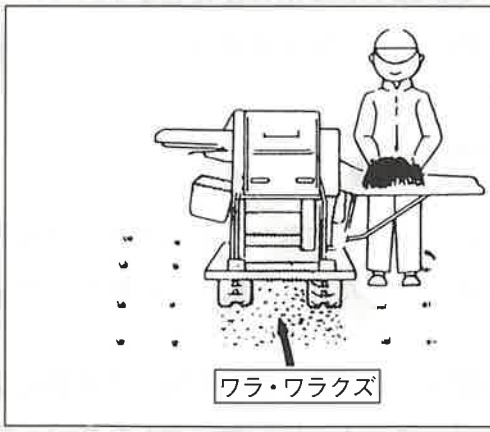
◆手や衣服を供給口に入れたり，フィードチェンに触れたりしないでください。

◆脱こく作業をする時は手袋をしないでください。

◆機械を移動しながらの脱こく作業はしないでください。機械を停止して行なってください。

◆回転部に付着したゴミ，雑草，ワラクズなどの除去は，衣服が巻込まれたり手をはさまれたりすることがありますので，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

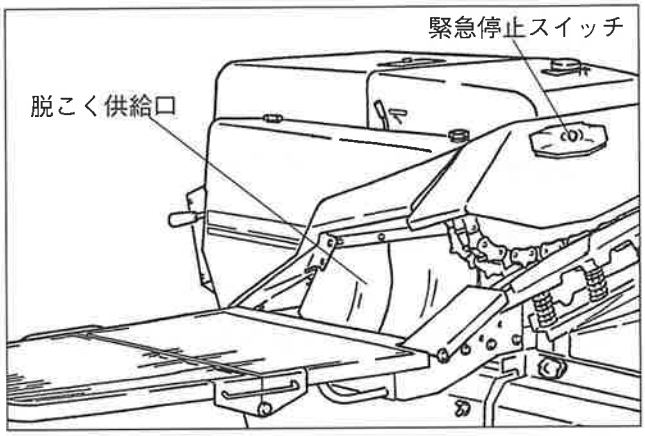
◆ワラやワラクズの上で作業をしないでください。火災の原因となることがあります。



◆作業機クラッチレバーを《入》れる時や移動する時は，補助者や周囲の人に合図をしてから行なってください。

◆万一トラブルが発生した時は，緊急停止スイッチを押してエンジンを停止してください。

❶ 脱こく材料は供給口より一定間隔でこぎ入れます。



❷ こぎ残しが発生しない範囲で，できるだけ「**浅こぎ**」をします。

❸ 穂先を拡げながら穂先が少し先行するようにフィードチェンに供給します。

❹ 脱こく作業中に，万一トラブルが発生し「**緊急に作業を中止**」する必要がある場合は**緊急停止スイッチ**を押すとエンジンが停止し，脱こく部が止まります。

❺ 回収袋のクズを処理する場合等クズはかためて入れないで，ほぐしながら投入します。

❻ 脱こく後のワラは順次取除き，たい積しないようにします。

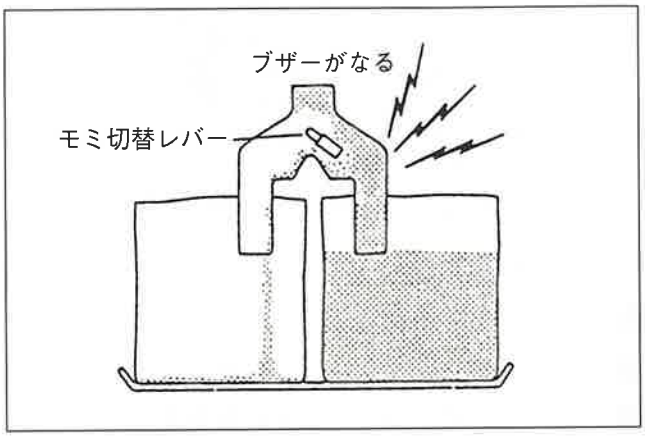
取扱いのポイント

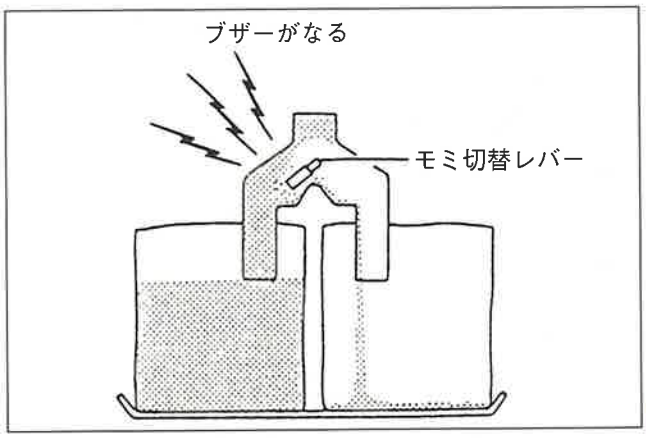
- **セットしたこぎ胴回転数が下がるような過負荷運転はしないでください。詰まりの原因となります。**
- **脱こく作業中，エンジン低速回転では作業機クラッチレバーは《入》にしないでください。詰まりの原因となります。**
- **作業機クラッチレバーを《切》にする時はエンジン回転をすぐに低速にしないでください。脱こく部を１～２分間空運転し脱こく内部のゴミや残留こく粒を排出してから《切》にしてください。**
- **緊急停止スイッチでエンジンを停止した時はエンジンスイッチを《切》にしてください。**

3．収こく操作のしかた

❶ 図のようにモミは片側から収こくされます。片側のモミ袋がいっぱいになると警報ブザーが鳴ります。

警報ブザーが鳴ったらただちにモミ切替レバーを切替えます。





❷ 切替えが終わったら，いっぱいになったモミ袋を交換します。（警報ブザーは鳴りやみます。）

取扱いのポイント

- **交換しないで作業をつづけると，両側のモミ袋がいっぱいになり，詰まりの原因になります。**
- **モミ袋がいっぱいになっても警報ブザーが鳴らないときは，端子の外れがないか確認してください。**
  （８ページ参照）

手入れのしかた

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

◆部品または機械を廃却する時は，「お買いあげ先」にご相談ください。

「**定期点検整備表**」（点検○，交換●）

分類	点検項目	シーズン前	運転前	30時間毎	100時間毎	格納時	整備内容	参照ページ
エンジン	燃料タンクの油量	○	○				補給	28
	エンジンクランクケースの油量・汚れ	○	○	●(初回)	●		補給・交換	28
	エアクリーナの汚れ		○	●		○	エレメント汚れ・オイル交換	30～32
	点火プラグの汚損				●	○	掃除・スキマ調整・交換	33～34
	燃料ストレーナの汚れ					○	掃除	33
	燃料ホースのもれ	○	○			●	2年毎交換	36
	エンジンカバー（左右）金網の目詰まり		○			○	掃除	31
走行部	トランスミッションケースの油量・汚れ	○		●(初回)	●		補給・交換	29
	サイドクラッチレバー（左右）の作動	○	○				ワイヤ調整	36
	走行クラッチレバーの作動（駐車ブレーキ）	○	○				ワイヤ調整	37
	クローラ（左右）の伸び	○	○			○	クローラ張り調整	40
	テンリン・アイドラのグリスアップ	○				○	グリスアップ	30

分類	点検項目	シーズン前	運転前	30時間毎	100時間毎	格納時	整備内容	参照ページ
脱こく関係	脱こくギヤケースの油量	○					補給	29
	作業機クラッチレバーの作動	○					ワイヤ調整	38
	脱こく主軸－２番ラセン軸－吸引ファン－こぎ胴軸のベルト伸び	○					ベルトの張り調整	39，47
	１番ラセン軸－揺動軸－脱こく主軸のベルトの伸び	○					ベルトの張り調整	39，47
	ワラ送りベルトの伸び	○					ベルトの張り調整	39
	脱こくフィードチェンの伸び	○					チェンの張り調整	40
	こぎ歯のゆるみ・摩耗	○					増締・交換（150時間毎）	35
	ワラ切カマの摩耗	○					交換（150時間毎）	35～36
	２番スロワの詰まり					○	掃除	32
	揚こくラセンの詰まり					○	掃除	32
	ラセン底板の詰まり					○	掃除	33
	脱こくフィードチェン・レール台の油キレ		○			○	注油	30
電装	配線の接続部外れ，損傷	○					接続・補修	8，24
	計器類の作動	○					配線調整	8，23
外観の泥・ワラクズの付着・汚れ						○	掃除	－
ボルト・ナットのゆるみ		○				○	増締め	－

2. 給油・注油のしかた

・工場出荷時は各給油・注油・給脂個所にオイルグリスが入っています。
・オイルの点検・交換は，**「定期点検整備表」**（25～26ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。
・交換したオイルを廃却する時は，油類廃却設備のある所で処理します。

取扱いのポイント

- **各給油個所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**

危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

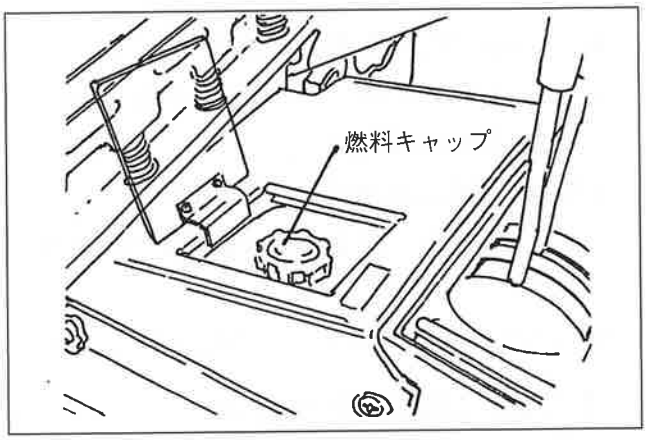
警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時は，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部に「油差し」で注油する時はエンジンを停止してから行なってください。
◆回転部・摺動部から摺動音が発生する時はエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆交換したオイルを，廃却する時は，廃却設備のある所で処理してください。

「給油・注油・給脂表」

No	個所	種類	分類		容量（L）	備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
①	燃料タンク	無鉛ガソリン	－	－	6.0	・運転まえに点検
②	エンジンクランクケース	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	[41型]:0.6 [51型]:0.9 [61型]:1.2	・運転まえに点検 ・初回30時間で交換 ・100時間毎に交換
③	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL－4	80W	0.93	・シーズン前点検，初回30時間で交換，100時間毎に交換
④	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL－4	140	0.25	・シーズン前点検
⑤	エアクリーナ	エンジンオイル	SD	10W－30	[41型]:0.05 [51型]:0.05 [61型]:0.08	・運転まえ点検 ・30時間毎に交換 ・シーズン終了後洗浄・交換
⑥	脱こくフィードチェン・レール台摺動部	エンジンオイル	SD	10W－30	適量	・運転前に点検 ・シーズン終了後注油
⑦	テンリン・アイドラ	リチウムグリス	－	－	適量	・洗車時補給・格納時

1．燃料の給油



・透明カバーを開け，燃料キャップを外して給油口より補給します。

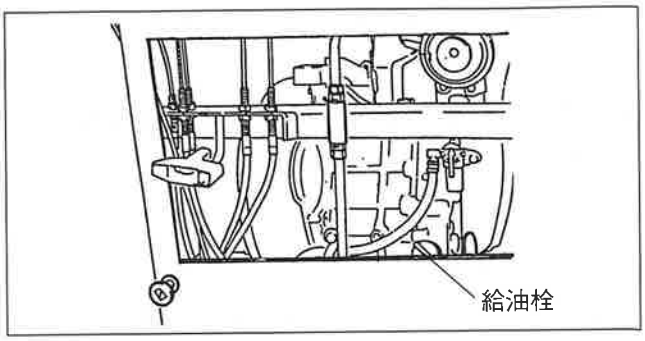
・燃料……無鉛ガソリン

・タンク容量……6 L

取扱いのポイント

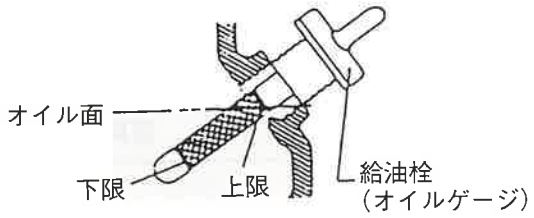
●燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油します。

2．エンジンオイルの点検・交換

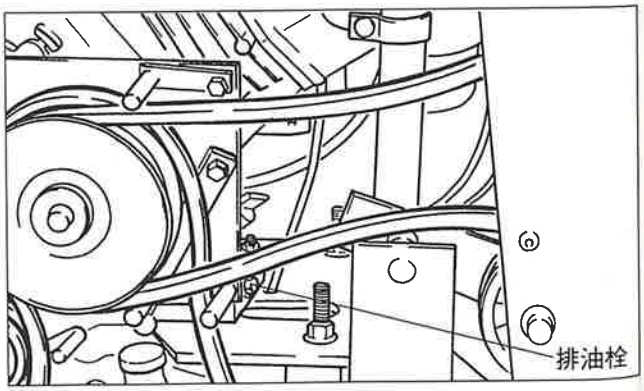


❶ **点検**……エンジンが水平となる場所に停車し，エンジンカバー（後）を外して給油栓を外しオイルゲージ面をキレイにふき取ってから差込みます。（ネジ込まない）

・ゲージの上限と下限の間に油面があるか確認します。



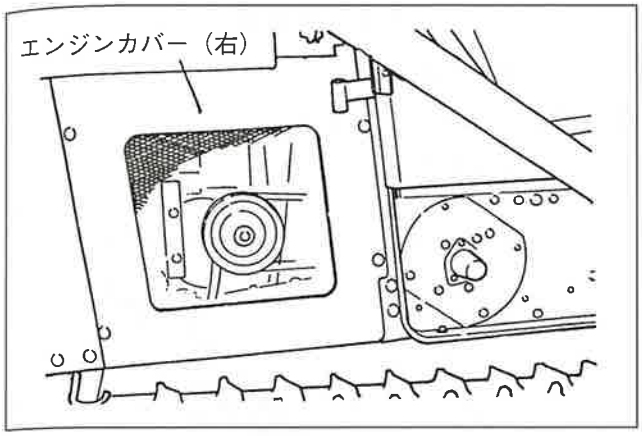
❷ **交換**……排油栓を外し，オイルを抜きます。オイルが完全に抜けたら，排油栓を確実に締め，新しいオイルをオイルゲージの「**上限**」まで給油します。



・オイル…… (純正油) または，
ガソリンエンジン用オイル
API・SD級以上，SAE10W－30

・オイル量……0.6 L **[41型]**
……0.9 L **[51型]**
……1.2 L **[61型]**

3. ミッションケースのオイル点検・交換



❶ **点検**……ミッションケース横の検油栓を外して油量を調べます。

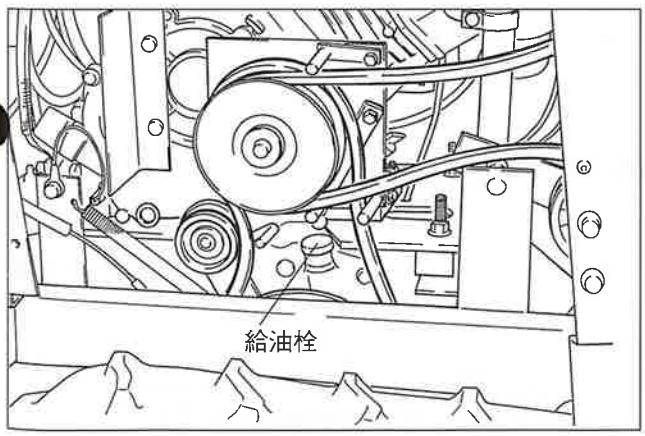
・不足している場合はエンジンカバー（右）を外し（ボルト４本），給油栓より補給します。

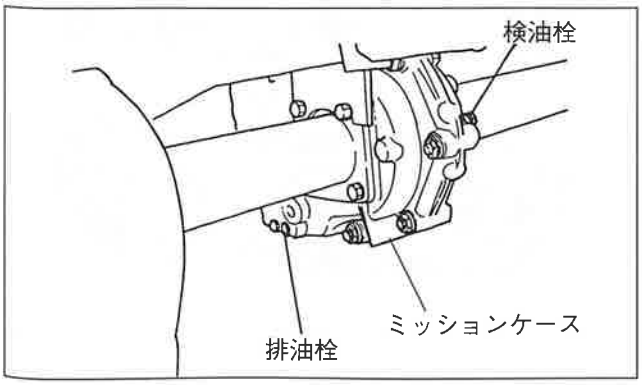
❷ **交換**……ミッションケース下部の排油栓を外し，抜き取ります。

・給油するときは，検油栓まで給油します。

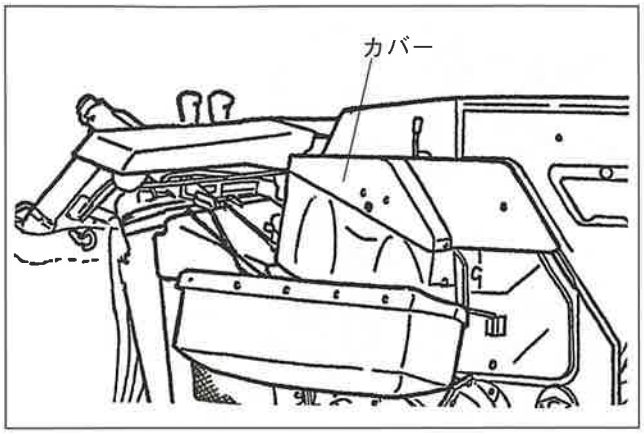
・ギヤオイル…… 純正油 または，
API・GL－４級
SAE・80W

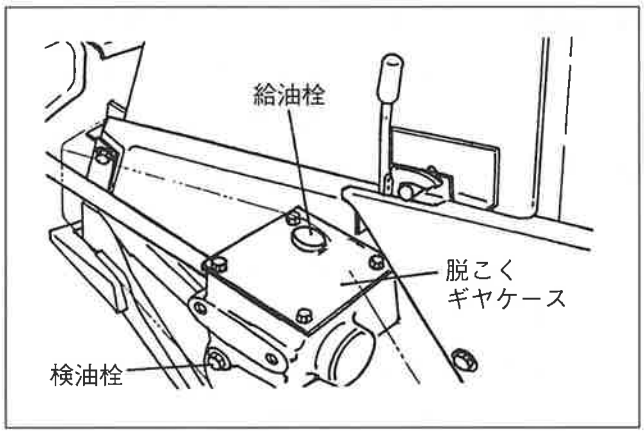
・オイル量……0.93Ｌ





4. 脱こくギヤケースのオイル点検



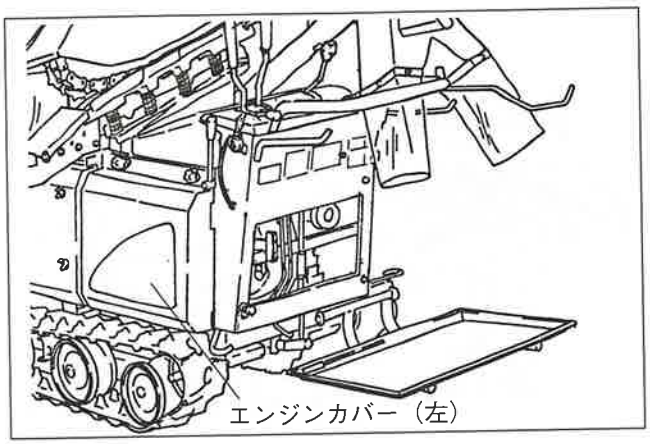


❶ **点検**……カバーを外し，脱こくギヤケースの検油栓を外して油量を調べます。不足している場合は給油栓より補給します。

・ギヤオイル……API・GL－４級
SAE・140

・オイル量……0.25Ｌ

5. エアクリーナのオイル点検・交換

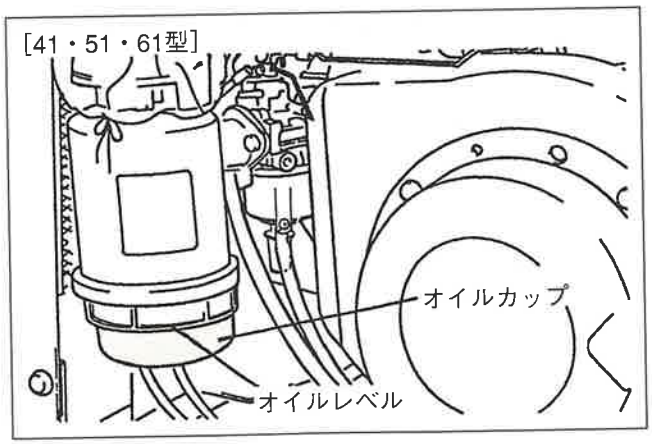


❶ **点検**……エンジンカバー（左）を外し，エアクリーナのオイルカップにオイルレベルまであるか確認します。

❷ **交換**……不足していたり，オイルが汚れている場合は，オイルカップを外して，補給又は交換します。

・オイルはエンジンオイルを使用

・オイル量……0.05Ｌ　**[41型]**
　　0.05Ｌ　**[51型]**
　　0.08Ｌ　**[61型]**



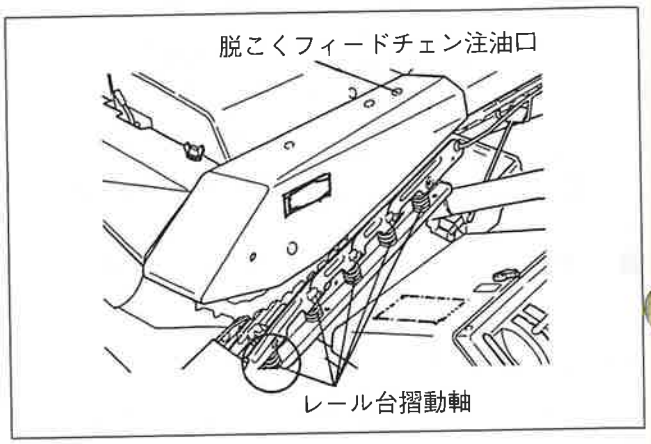
6. 各部の注油

・エンジンオイルを使用

・適量注油

❶ **脱こくフィードチェン**

・注油口より



❷ **レール台摺動軸**

・作業前に注油します。

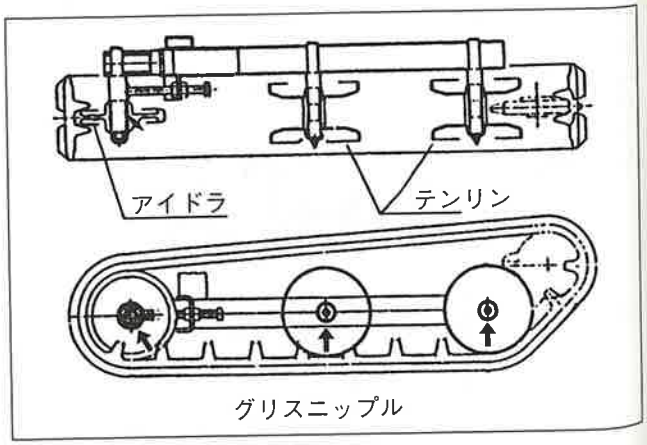


7. 各部の給脂

・リチュームグリス使用

❶ **テンリン，アイドラ**

・テンリン，アイドラ軸部のグリスニップルに給脂し，ブッシュからグリスがはみ出すまで充填します。（左右各３ケ所）



3. 各部の点検と掃除のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

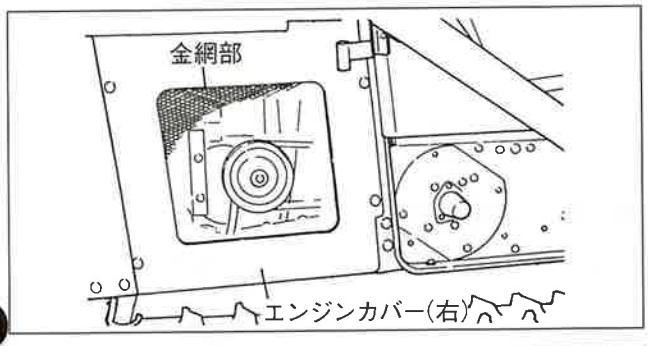
◆各部の点検，掃除をする時は，エンジンを停止し回転が止まってから行なってください。

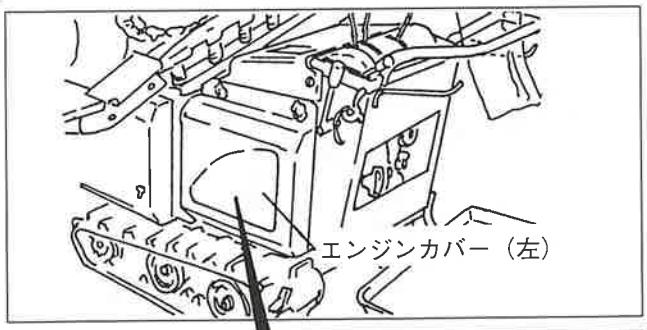
1. エンジンカバーの掃除

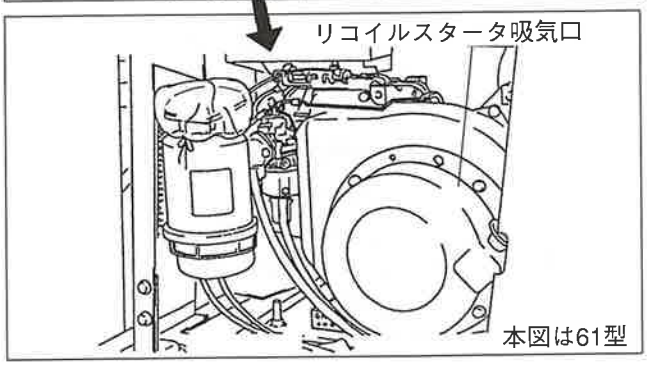
エンジンカバー（右），（左）の金網および内部のリコイルスタータの吸気口に，ワラクズが目詰まりするとエンジン冷却風のとおりが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」する原因となります。

❶ エンジンカバーの表面や金網のゴミ・ワラクズを取除きます。

❷ エンジンカバー（左）を外し，エンジンのフィンやリコイルスタータの吸気口のゴミ・ワラクズを取除きます。



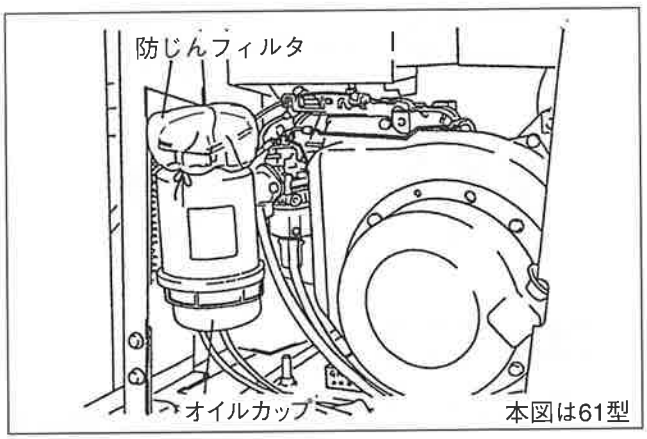




2. エアクリーナの点検・掃除

エアクリーナの手入れの良否は，エンジンの寿命を左右します。

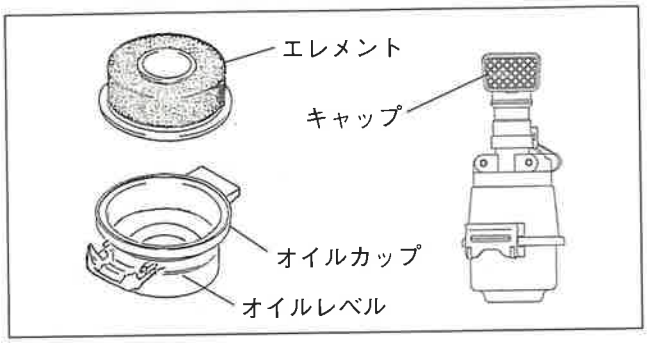
吸入空気は防じんフィルタで荒いゴミがエアクリーナに侵入するのを防止されるとともに，オイルカップのオイルによって浄化されます。防じんフィルタの目詰まり状態やオイルが汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗あるいは出力低下をまねきます。



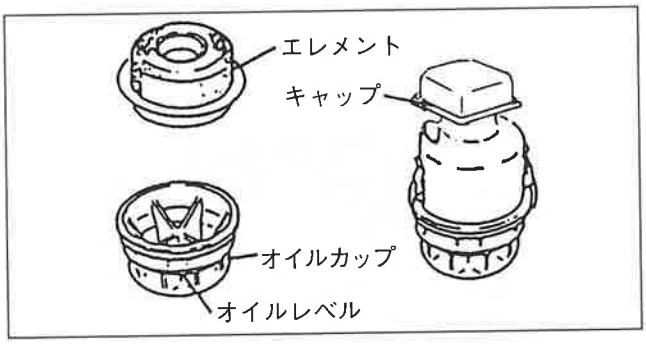
❶ 防じんフィルタを外してゴミをはたき落とします。汚れがひどいときは中性洗剤で洗浄します。中性洗剤で洗ったときは，洗剤が完全になくなるまで水洗いをし，完全に乾燥してから装着します。

❷ エレメントの目詰まり，オイルの汚れはないか点検し，汚れていればオイルカップを外して洗浄し，エンジンオイルをレベルラインまで入れます。

［41・51型］



［61型］



取扱いのポイント

- 防じんフィルタは，作業中にも点検し，目詰まりしている時はエンジンを停止して掃除してください。
- 防じんフィルタを洗剤で洗った時は，十分水洗いし，乾かしてから使用してください。水洗いしないと劣化し，また濡れた状態で使用すると早期に目詰まりします。
- 洗浄にガソリンを使用しないでください。

3．脱こく機内部の掃除

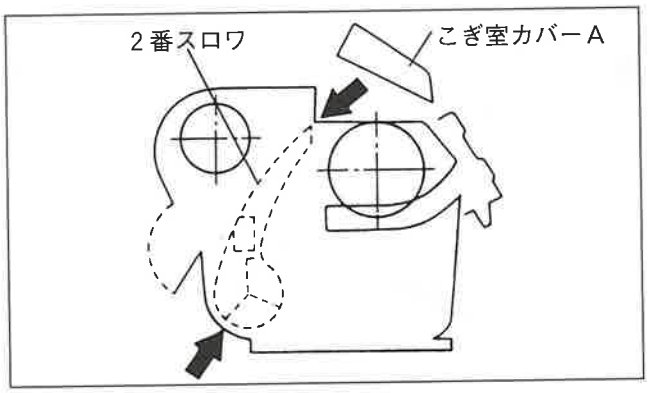
⚠警告 傷害事故防止のために

◆2人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは互いに声をかけあい，確認してから行なってください。

品種の混種やイネ・ムギの混合を防ぐため，また長期格納の時は脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けきれいに掃除します。

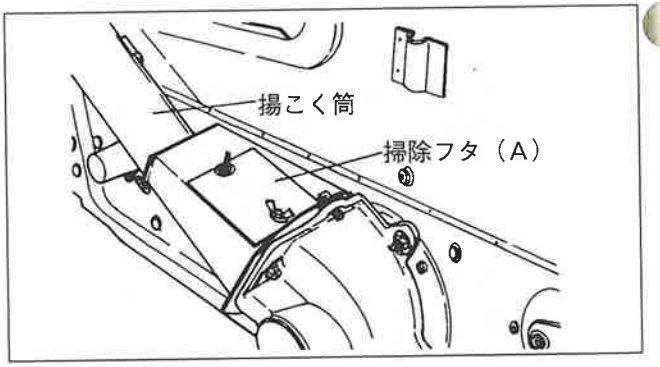
❶ 2番スロワの詰まりと掃除

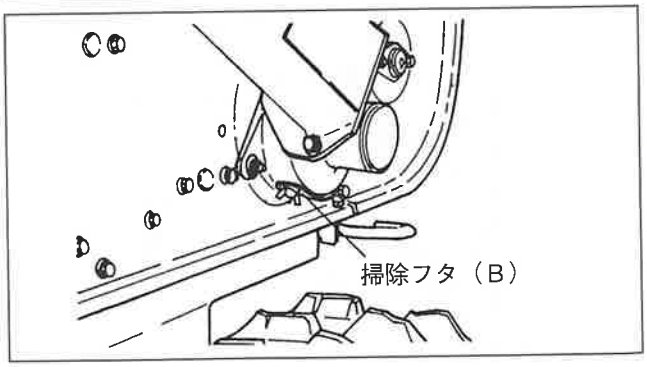
2番スロワに詰まりが発生したときは下図の2個所から掃除をします。



❷ 揚こく筒の掃除

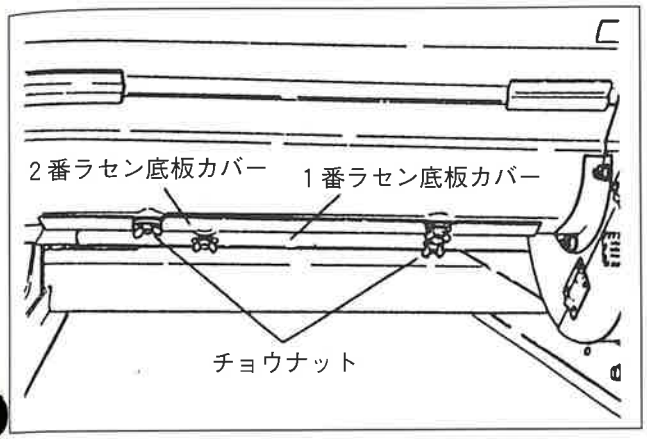
掃除フタ（A），（B）を外して掃除します。





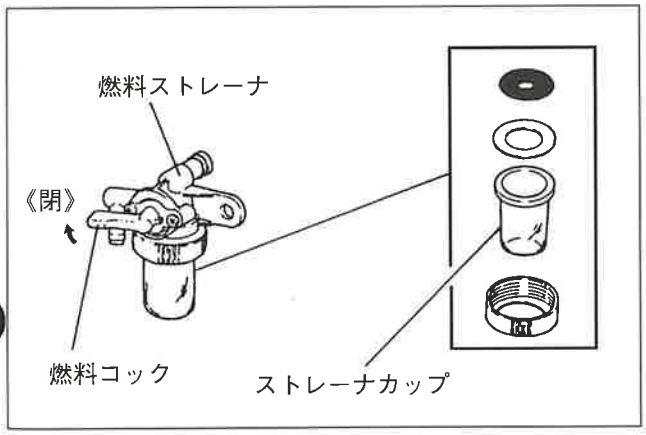
❸ 1番・2番ラセン底板の掃除

1番・2番ラセン底板の各2個所のチョウナットを外し，底板のカバーを開けて内部に残っているこく粒を掃除します。



4. 燃料ストレーナの点検・掃除

・ストレーナカップに水やゴミがたまったままで使用すると，エンジンの始動不良および回転不調の原因となります。



・作業まえに点検し，汚れているときは早めに掃除します。

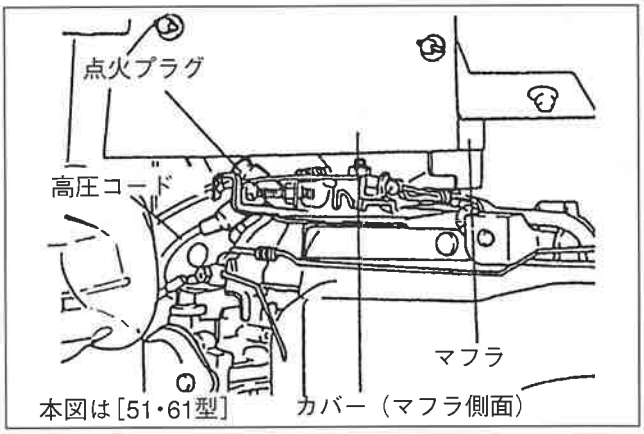
・燃料コック《C》(閉) にしてストレーナカップを外し，ガソリンできれいに洗浄して組付けます。

5. 点火プラグの点検・掃除

⚠警告 ヤケドや傷害事故防止のために

◆点火プラグの点検・掃除はエンジンが冷えてから行なってください。エンジン停止直後はエンジンが熱くヤケドをすることがあります。

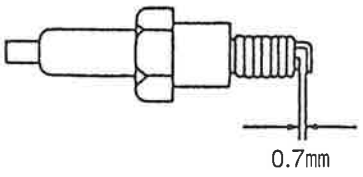
◆リコイルスタータを引く時にプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。



❶ エンジンカバー（左）を外し，付属のボックススパナで点火プラグを外します。

（[51・61型]はマフラ側面のカバーを外して行います。）

❷ 点火プラグについているカーボンを取除き，電極スキマが「0.7mm」になるように調整します。



❸ 電極部が損耗または破損しているときは，新しい点火プラグと交換します。

・点火プラグ

［41型］……NGK BP6HS 又は相当品

［51・61型］……NGK BPR5ES 又は相当品

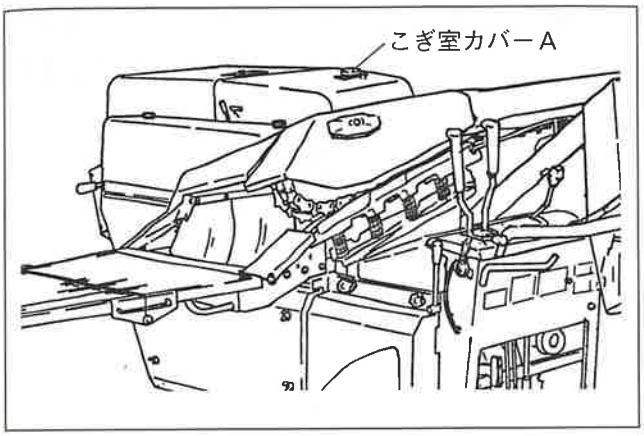
❹ 点火プラグを取付け後，プラグキャップを差込みます。

取扱いのポイント

- プラグキャップを外したままでリコイルスタータを引かないでください。
- 点火プラグをエンジン側にアースして，リコイルスタータを引いてください。アースしないでリコイルスタータを引くと，エンジンの電気回路の故障になります。
- 点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しない時は新しい点火プラグと交換してください。

4. 各部の点検と部品交換のしかた

1. こぎ歯の点検と交換

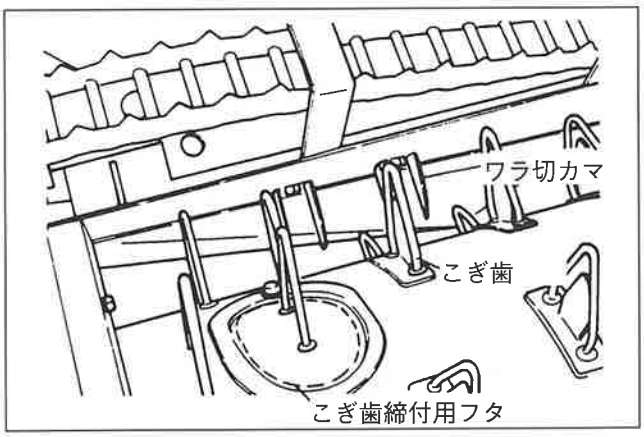


こぎ室カバーAを外してこぎ歯の点検をします。

❶ 緩みがないかを，こぎ歯の先端を手で動かすまたはスパナ等で軽くたたいて確認します。

❷ こぎ歯が倒れているときは，ハンマで直角をみながら少しずつ修正します。修正したこぎ歯は前後のワラ切カマと接触しないことを確認します。

❸ 緩んでいるときは2ケ所のこぎ歯締付用フタを外して締付けを行います。



❹ 線径の2/3以上摩耗しているときや折損しているときは，交換します。

2. ワラ切カマの点検と手入れ

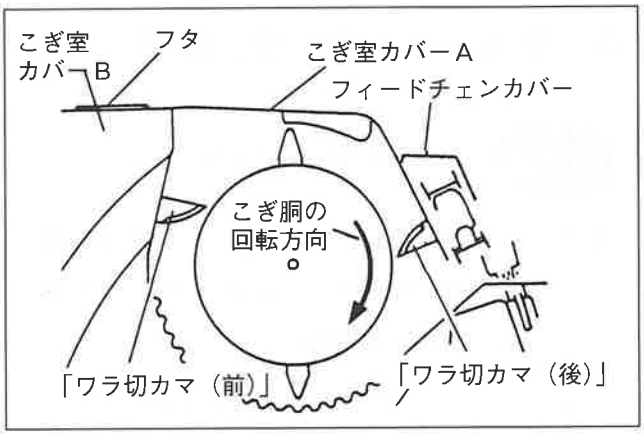
⚠注意 傷害事故防止のために

◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。

◆刃部に手を掛けないでください。

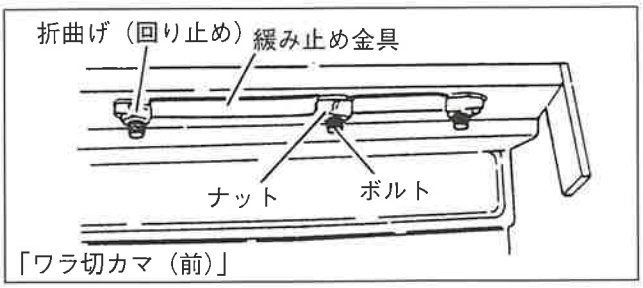
❶ ワラ切カマの取外し

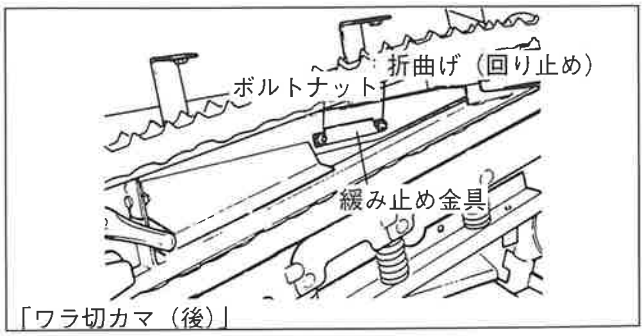
(1) ワラ切カマ（前）はこぎ室カバーBのフタを外して，また，ワラ切カマ（後）はフィードチェンカバーを外して行います。



(2) ワラ切カマの取付ナットは緩み止め金具を折曲げて回り止めがしてあります。

折曲げを元に戻してからナットを緩め，ボルトを外してワラ切カマを取外します。





❷ ワラ切カマの取付け

ワラ切カマの組付け方向に注意して真っ直ぐに締付けます。

緩み止め金具を確実に折曲げます。

取扱いのポイント

- **ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下してきますので，ワラ切カマを取外し新品と交換してください。**
- **ワラ切カマの中央にこぎ歯がくるように取付けてください。**

3．燃料ホースの点検と交換

⚠危険 火災事故防止のために

◆燃料ホースの損傷，外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し，もれている場合は，交換してください。

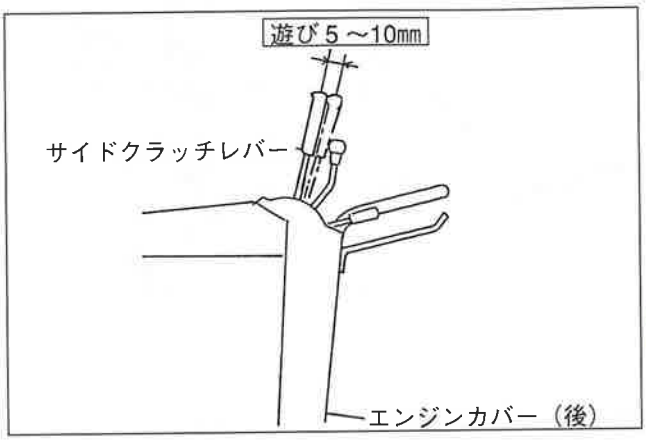
燃料ホースの老化や傷による燃料もれがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

傷んでいなくても２年ごとに交換します。

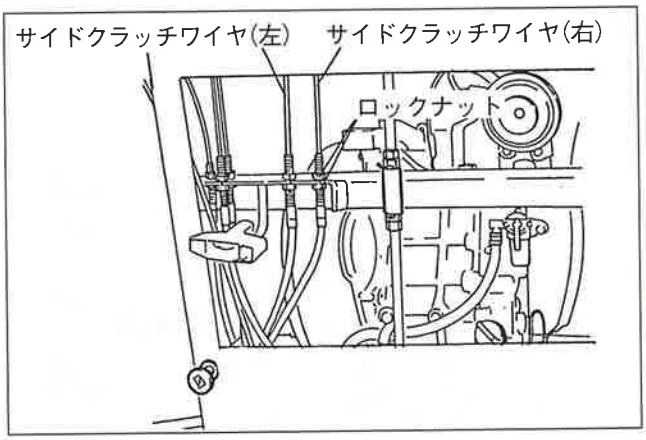
5．各部の点検と調整のしかた

1．サイドクラッチレバーの点検・調整

❶ **点検**……左右各々のレバーを引いて，遊びが５～10㎜になっているか確認します。

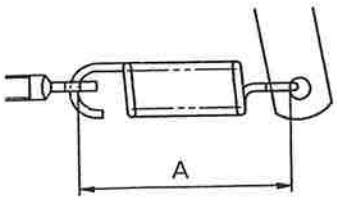


❷ **調整**……エンジンカバー（後）から，各ワイヤのロックナットをゆるめて，アジャスタで左右のレバーの遊びが同じになるよう調整します。



取扱いのポイント

- **スプリングの長さはフックの内側で測ります。**

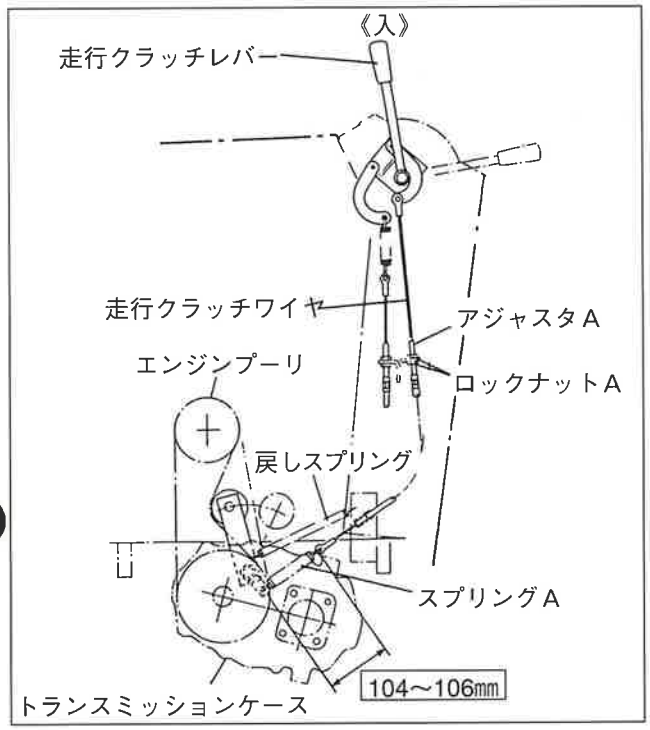


2. 走行クラッチレバー(駐車ブレーキレバー)の点検・調整

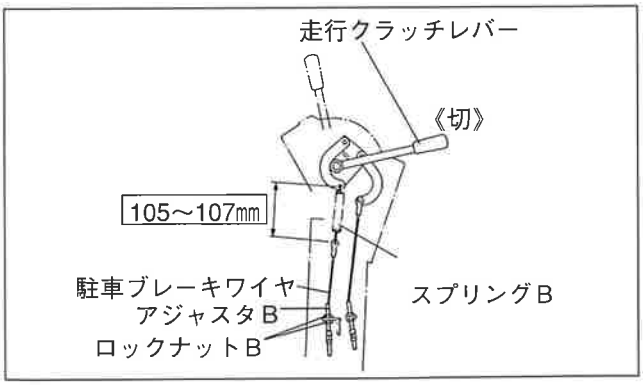
⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチレバー（駐車ブレーキレバー）の点検整備を行なってください。ワイヤの遊びやレバーのガタが大きいと，クラッチの切れやブレーキのききが悪くなり，事故を起こす原因となります。

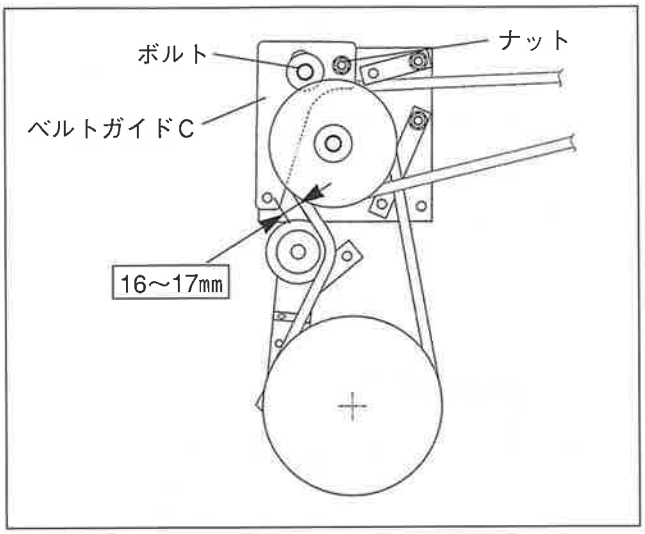
❶ **点検**……(1) 走行クラッチレバーを《**入**》にした時，スプリングAの長さが104～106㎜になっているか確認します。



(2) 走行クラッチレバーを《**切**》にした時，スプリングBの長さが105～107㎜になっていますか。

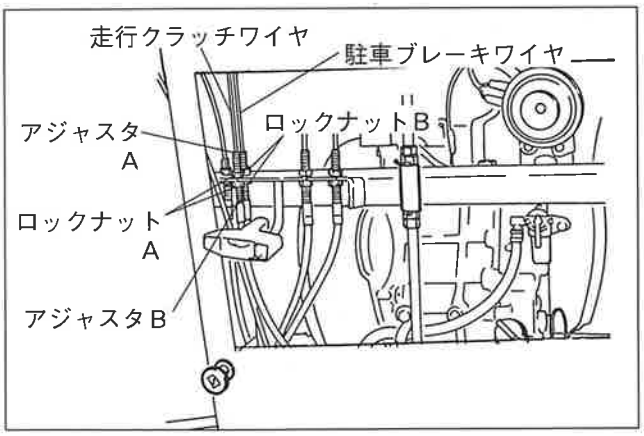


(3) エンジンカバー（右）を取外し，走行クラッチを《**入**》にした時，エンジン部のベルトガイドのスキマが16～17㎜になっているか確認します。



❷ **調整**……(1) 走行クラッチレバーを《**入**》にした時，スプリングAの長さが104～106㎜になるよう，ロックナットAをゆるめアジャスタAで調整します。

(2) 走行クラッチレバーを《**入**》にしてベルトガイドCを取付けているボルトとナットをゆるめてスキマを調整し，ボルト，ナットの順に締付けて固定します。



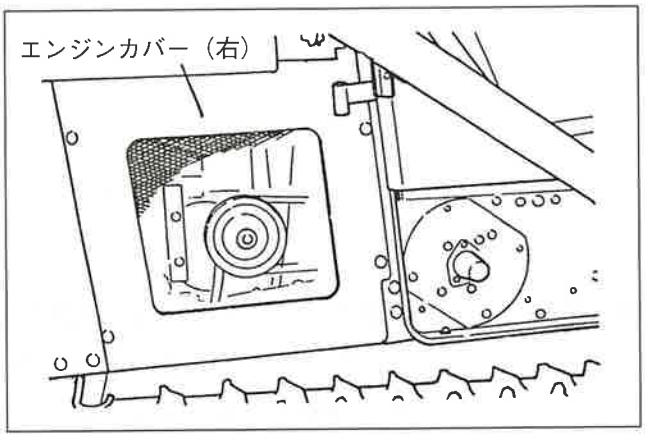
(3) 走行クラッチレバーを《**切**》にした時，スプリングBの長さが105～107㎜になるよう駐車ブレーキワイヤのロックナットBをゆるめてアジャスタBで調整します。

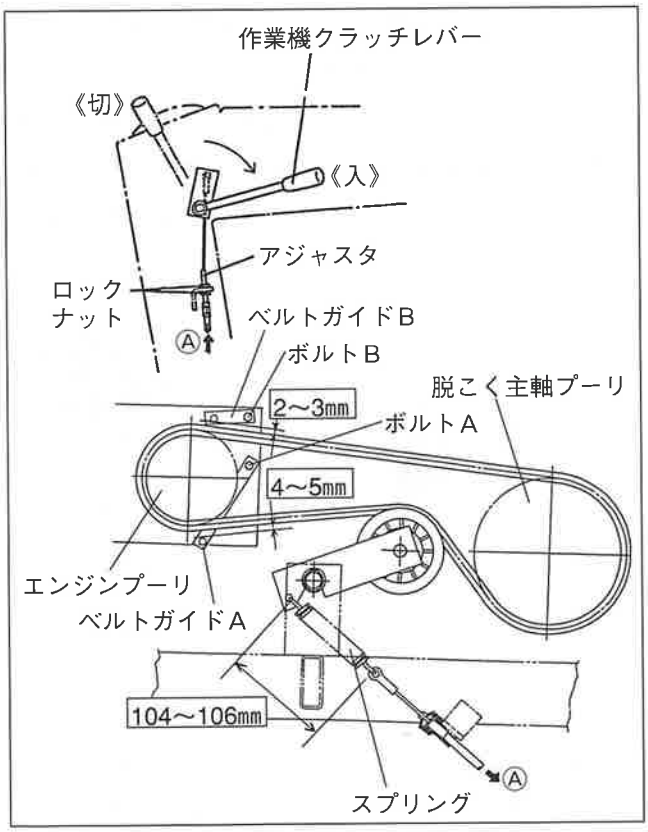
❸ **確認**……レバーを《**切**》にした時，走行部が確実に停止することを確認します。

3. 作業機クラッチレバーの点検・調整

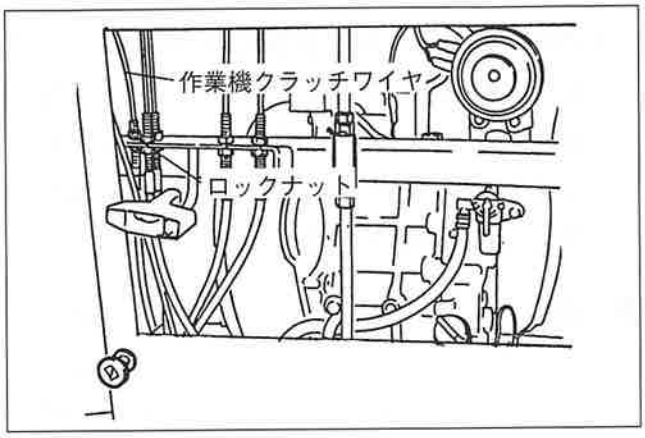
❶ **点検**……(1) エンジンカバー（右）を取外し，作業機クラッチレバーを《**入**》にした時，スプリングの長さが104～106㎜になっているか。

(2) ベルトガイドAとベルトのスキマが4～5㎜，ベルトガイドBとベルトのスキマが2～3㎜になっているか確認します。





❷ **調整**……(1) エンジンカバー（後）から，作業機クラッチワイヤのロックナットをゆるめて，アジャスタでスプリングの長さを調整します。

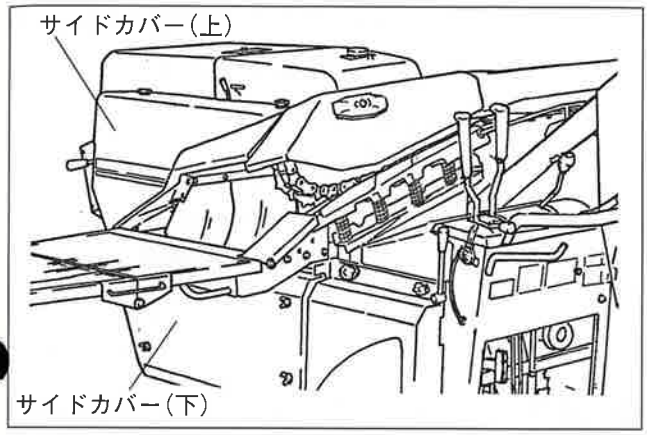


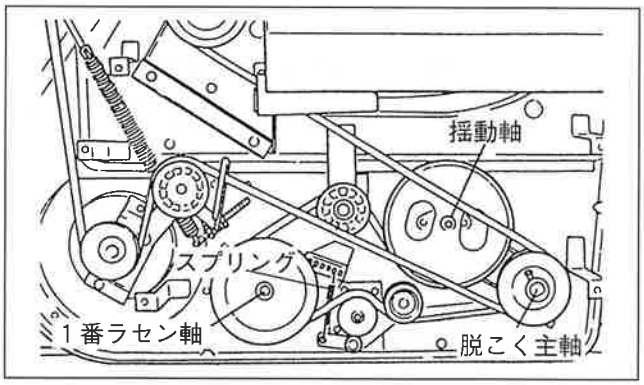
(2) 各ベルトガイドA，Bを取付けているボルトA，Bをゆるめてスキマを調整し，ボルトA，Bを締付けて固定します。

❸ **確認**……レバーを《**切**》にした時，脱こく部が確実に停止することを確認します。

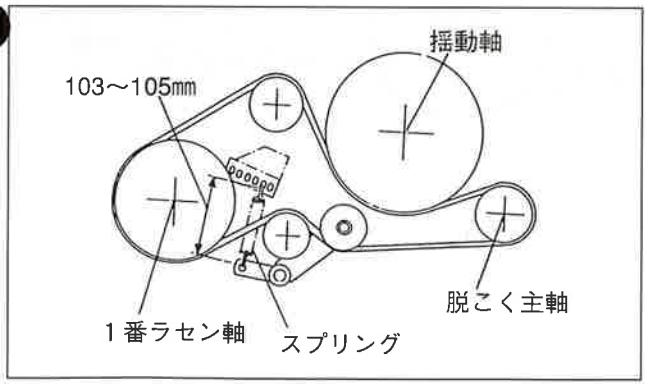
4. 揺動・1番ラセン駆動ベルトの点検・調整

❶ **点検**……サイドカバー（下）を外し（チョウボルト4本），スプリングの長さが103～105㎜になっているか確認します。



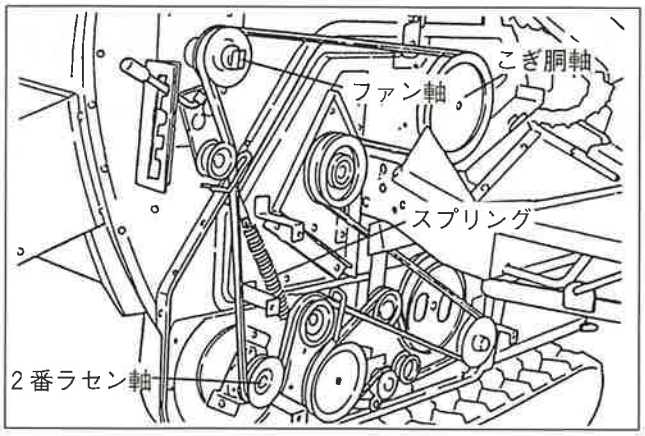


❷ **調整**……スプリングの引掛け位置を変えてスプリングの長さを調整します。

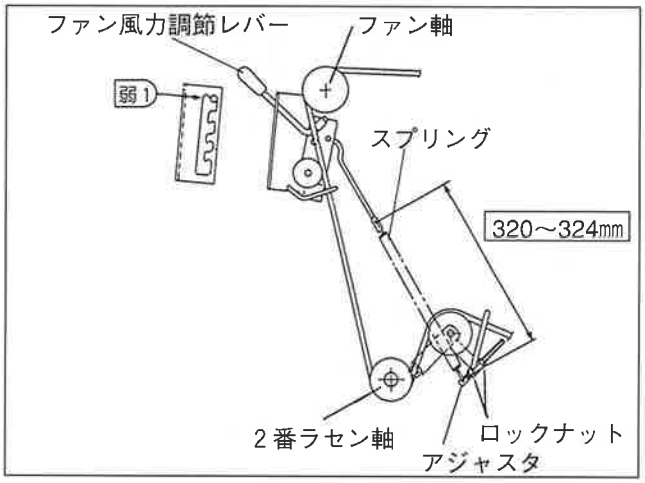


5. 2番ラセン・こぎ胴駆動ベルトの点検・調整

❶ **点検**……サイドカバー（上）・（下）を外し，ファン風力調節レバーを《**弱1**》にした時，スプリングの長さが320～324㎜になっているか確認します。

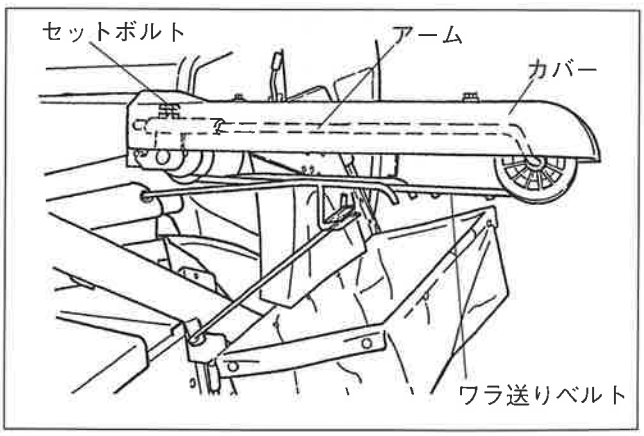


❷ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さをアジャスタで調整します。



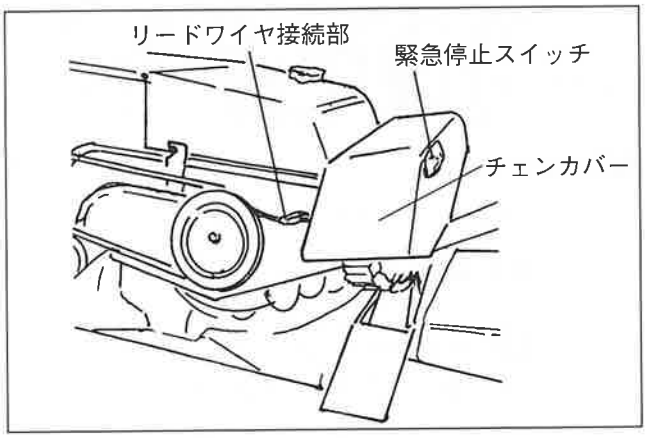
6. ワラ送りベルトの点検・調整

❶ **調整**……長時間使用するとワラ送りベルトが伸びてきますので，カバー（ボルト2本）を外しセットボルトをゆるめ，アームを引っ張ってベルトを張り，セットボルトで固定します。

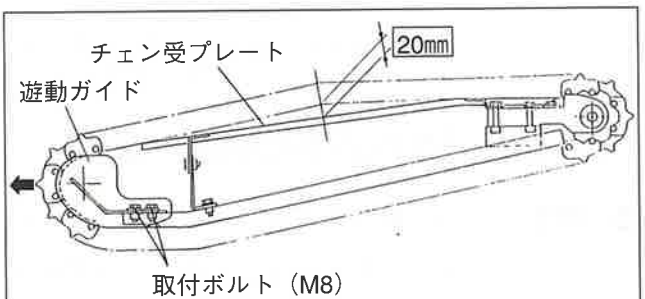


7. 脱こくフィードチェンの点検・調整

❶ **点検**……(1) サイドカバー（上）を外して，緊急停止スイッチのリードワイヤの接続部を外し，チェンカバーを外します。（ボルト２本）



(2) フィードチェンにレールが軽く接する状態で，上部フィードチェンの中央部を手で引き上げ，チェン受プレートとフィードチェンのスキマが20㎜程度あるか確認します。

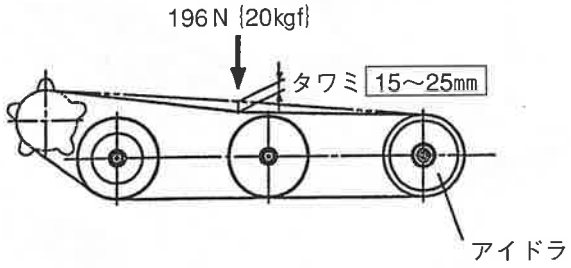


❷ **調整**……(1) 遊動ガイドの取付ボルト（２本）をゆるめ，ガイドを引っ張ってチェンを張ります。

(2) チェンカバーを取付け，緊急停止スイッチのリードワイヤ接続部を確実に接続し，サイドカバー（上）を取付けます。

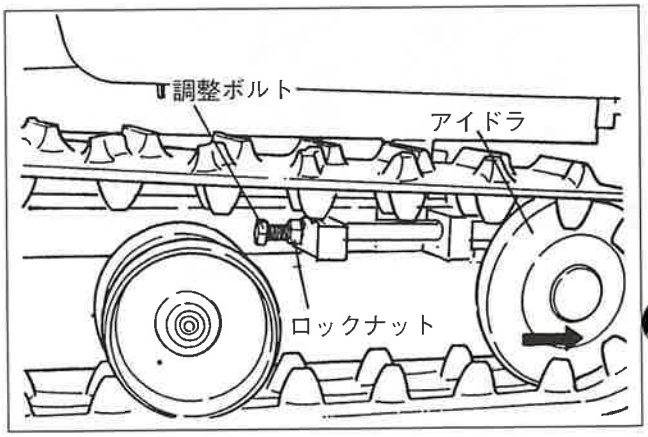
8. クローラの点検・調整

❶ **点検**……クローラ上部の中央部を196N{20kgf}程度で押して，タワミ量が15～25㎜になっているか確認します。
又，左右のクローラの張りが同じになっているか確認します。



❷ **調整**……調整ボルトのロックナットをゆるめて，調整ボルトを締込んでアイドラを矢印の方向に張ります。

・左右のクローラの張りが同じになるよう調整し，ロックナットで固定します。



長期格納のしかた

⚠注意　シーズンが終わって機械の掃除や手入れをする時は，次の事に注意して行なってください。

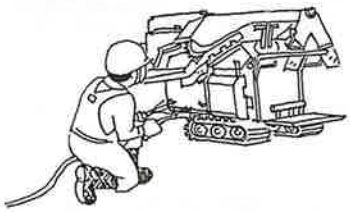
◆回転部に付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除く時は，エンジンを停止し，各部の回転が停止してから行なってください。

◆エンジン・マフラ・燃料タンク周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因になることがあります。

◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

シーズンが終わったら「**定期点検整備表**」(25～26ページ参照) の「**格納時**」の項目について点検・整備及び掃除を行い，更に次の処置をします。

1．機械の掃除と洗浄



❶　泥・ワラクズなどを取除き，汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。

❷　脱こく内部のゴミ・残留こく粒などをこぎ室カバーA，2番スロワ，揚こく筒などの掃除口よりきれいに取除きます。

1番および2番ラセンはラセン底板カバーを開けて掃除します。



❸　トランスミッションケース・脱こくギヤケースの潤滑油を点検・補給します。

取扱いのポイント

- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。**

2．サビ止めと注油

❶　クローラを水洗いした後，乾燥させた転輪・アイドラにオイルを塗りグリスアップして格納します。

❷　塗装がはげた個所は補修塗料を塗り，機体のサビやすい個所にはグリスかオイルを塗ります。

❸　締付け部分のネジのゆるみ等を点検し，軸受部・チェン・ワイヤ類には注油しサビないようにします。

3．エンジンの手入れ

❶　各部の汚れを拭き取るとともにボルト等のゆるみを点検します。

❷　防じんカバーに付着したチリをきれいに掃除します。

❸　エンジンオイルを交換します。

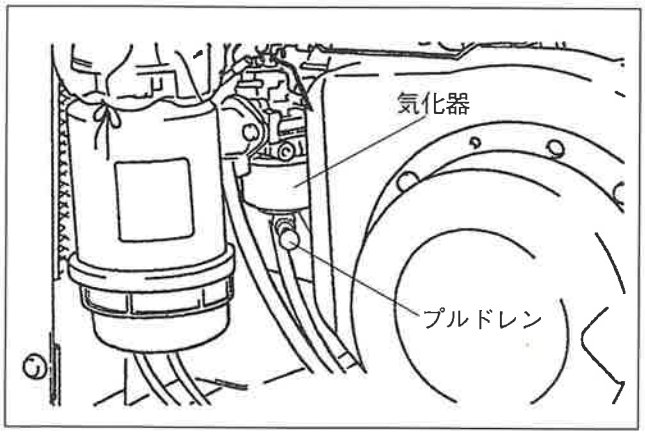
オイル交換後は，5分間程度暖機運転し，各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。

❹　エアクリーナを掃除し，オイルが汚れていれば交換します。

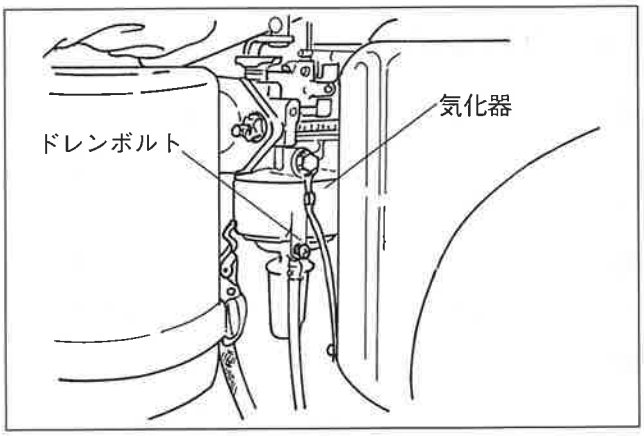
❺　燃料ストレーナを掃除し，燃料タンクを空にしておきます。

❻　燃料コックを《C》(閉) にして気化器の燃料を抜きます。

・［41・51型］はプルドレンを引っ張ります。



[61型] はドレンボルトをドライバでゆるめます。



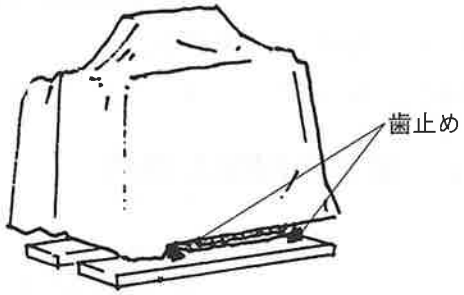
❼ エンジンの点火プラグを外し，シリンダ内にオイルを５～10cc注入し，リコイルスタータで数回カラ回しをしてから点火プラグを取付け，圧縮のある位置で止めておきます。

4. 格　納

⚠警告

◆機械にシートカバーをかける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災になることがあります。

機体の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び，シートをかけて保管します。



❶ 「**クローラ**」の下には板等を敷き「**歯止め**」をします。

❷ 各レバーは《**切**》または《**N**》(中立）の位置にします。

取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**

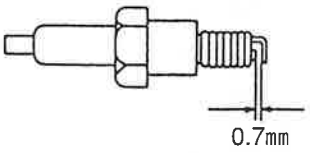
不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し，点検を受けてください。
・その時は不調の状況とあわせて「**型式**」・「**機械番号**」をお知らせください。

⚠警告　ヤケドや傷害事故防止のために

◆作業中に不調が発生した場合は機械を広い平坦な場所に停車し，エンジンを止め，各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備は，エンジンが冷えてから行なってください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
・エンジンが始動しない。 ・始動が困難。	❶ 始動操作を誤っている。	・正しい手順で始動操作をする。（燃料ストレーナ・チョークノブ操作に注意）	5，10
	❷ 燃料タンクに燃料がない。	・燃料を補給し，燃料コックを《開》にする。	28
	❸ エアクリーナにゴミが詰まっている。	・掃除またはオイルが汚れていれば交換する。	30～32
	❹ 燃料ストレーナカップに水やゴミがたまっている。	・カップを外して掃除する。	33
	❺ 点火プラグが湿っている。（チョークのしすぎなど）	・点火プラグを外してよく乾燥させる。	33
	❻ 点火プラグの火花が出ない。または出ても弱い。	・点火プラグの電極スキマを調整する。  ・点火プラグのカーボンを掃除する。 ・点火プラグを新品と交換する。	33～34
	❼ エンジンコントロールレバーのセット位置が悪い。	・コントロールレバーを《始》（始動）の位置にする。	5，10
	❽ 停止スイッチが「切」位置になっている。	・停止スイッチを《入》の位置にする。	5，10

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
・エンジンの出力不足。 ・エンジンが自然に止まる。	❶ 燃料ストレーナカップに水やゴミの混入。	・カップを外して洗浄する。	33
	❷・エアクリーナにゴミが詰まっている。 ・防じんカバーの目詰まり。	・掃除，オイルが汚れていれば交換する。 ・掃除をする。	30〜32
	❸・エンジンカバー（右）(左）の金網部の目詰まり。 ・リコイルスタータ吸気口の目詰まり。	・掃除をする。	31
	❹ エンジンオイルの不足・不良。	・オイルを規定量まで補充する。 ・汚れていれば規格のオイルと交換する。	28
	❺ シリンダヘッドにゴミが溜っている。	・エンジンヘッド回りのゴミをきれいに取除く。	—
	❻ 過負荷運転をしている。	・各部の調節を適正にし，過負荷運転をさける。	—
	❼ エンジンの圧縮圧力がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるので，「お買いあげ先」に相談する。	—
	❽ エンジンの回転が充分あがらない。	・エンジンコントロールレバー・ワイヤのセットおよび取付部のゆるみを点検する。	—
	❾ チョークノブが《閉》になっている。	・チョークノブを《開》にする。	5
・エンジンが止まらない。	❶ エンジンストップスイッチの配線端子が外れている。	・端子を接続する。	5，50
	❷ エンジン緊急停止スイッチの配線端子が外れている。	・端子を接続する。	5，50

2．走行部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
・直進性が悪い。 ・クローラが外れる。	❶ クローラの張りが左･右でちがう。 ❷ クローラがゆるんでいる。	・左右のクローラともに規定の張りに調整する。	40
・走行クラッチが「切」れない（停止しない）	・走行ベルトを張りすぎている	・走行クラッチワイヤを調整する。 ・ベルトガイドCを調整する。	37

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
・走行クラッチを「入」れても発進しない。	・走行ベルトがスリップしている。	・走行クラッチワイヤを調整する。	37
・旋回性能が悪い。 ・サイドクラッチが切れない。	・サイドクラッチレバーの遊びが多い。	・サイドクラッチワイヤを調整する。	36
・駐車ブレーキがきかない。	・走行クラッチのスプリングのセット長が不良。	・走行クラッチを《切》にして，ワイヤの調整をする。	37

3．脱こく部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
・樋口からこく粒が出てこない。（脱こく部の詰まり）	❶　こぎ胴回転が規定より低い。	・回転計が脱こく材料に適した回転となるようにして使用する。	23
	❷　ベルトがスリップしている。	・各伝動ベルトの張りを点検し，張りの弱いベルトは調整する。	38～39
	❸　揚こく筒にこく粒が詰まっている。	・掃除フタを取外して内部のこく粒をきれいに掃除する。	32
・こぎ胴回転がダウンし，もとに戻らない。（２番スロワの詰まり）	❶　こぎ胴回転のセットが低い。	・詰まっているワラクズを取除いて，こぎ胴回転を適正にする。	23
	❷　吸引ファン回転数のセットが低い。	・風力調節レバーを《強》にする。 ・排じんスポークをⒷ穴にセットする。	21～22
・能率があがらない。（こぎ室内で「ゴト，ゴト」音がする）	❶　こぎ胴回転が規定より低い。	・回転数が脱こく材料に適した回転となるようにして使用する。	23
	❷　ワラ切カマが切れない。	・ワラ切カマを交換する。	35～36
	❸　吸引ファン・送じん量の調節位置が悪い。	・吸引ファン回転・送じん量の調節を適正位置にする。	20～21
・作業機クラッチを「入」れても回転しない。	・脱こくベルトがスリップしている。	・作業機クラッチワイヤを調整する。	38
・警報ブザーが鳴らない。	・配線が外れている。	・端子を接続する。	8

付　　表

1．主要諸元

型式名			41型	51型	61型
機体寸法	全長（mm）		2,077		
	全幅（mm）		1,212		1,243
	全高（mm）		1,220		
機体質量（重量）（kg）			295	305	328
エンジン	種類		空冷4サイクルガソリンエンジン（OHV）		
	型式		GM182L	GM231L	GM291L
	総排気量（L{cc}）		0.181{181}	0.215{215}	0.296{296}
	出力／回転速度（kW{PS}/rpm）		3.3{4.5}/1800	3.7{5.0}/1800	4.4{6.0}/1800
	燃料タンク容量（L）		6.0		
走行部	形式		エンドレスゴムクローラ		
	クローラ（幅×接地長）（mm）		150×610	170×610	200×610
	変速段数（段）		前進2・後進1		
脱こく部	形式		自脱型（下こぎ式）		
	こぎ胴	径×幅（mm）	364×391		364×481
		回転速度（rpm）	550（稲）・600（麦）		
こく粒取出し方式			2袋（警告バイパス付）		

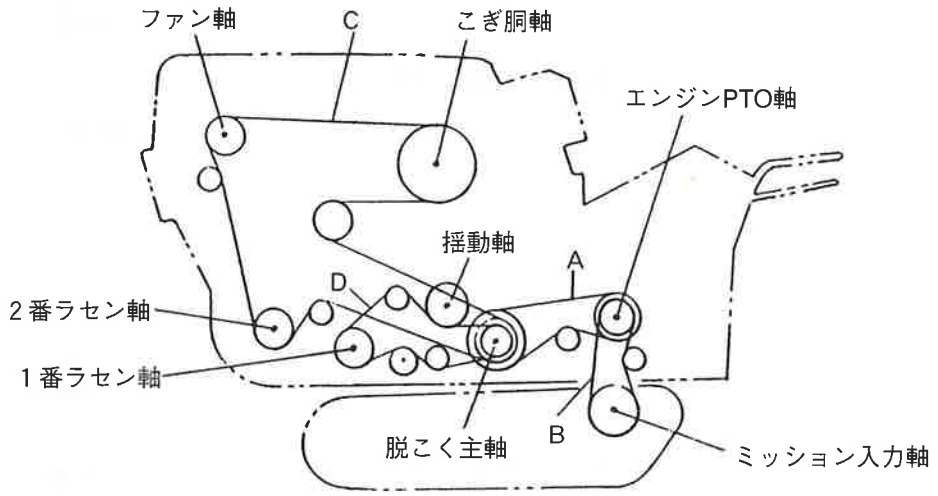
・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. ベルト一覧表

記号	伝　動　系　統	本数	部品番号	備　　考
A	エンジンPTO軸－脱こく主軸	1	0852　1200　046	LB－46
B	エンジンPTO軸－ミッション入力軸	1	0852　1200　034	LB－34
C	脱こく主軸－２番ラセン軸 ファン軸－こぎ胴軸	1	4356　5568　000	LB－138
D	脱こく主軸－１番ラセン－揺動軸	1	0851　1200　050	LA－50

・ベルトは「純正品」をご使用ください。

「伝　動　系　統　図」



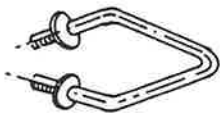
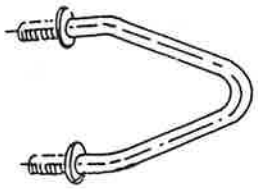
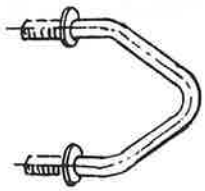
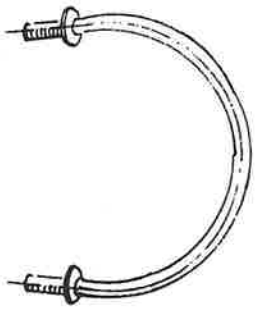
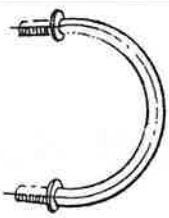
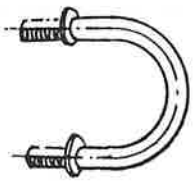
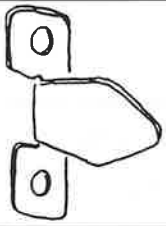
3. アタッチメント（別売）一覧表

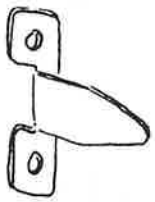
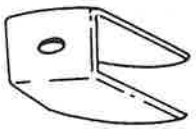
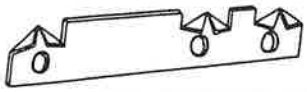
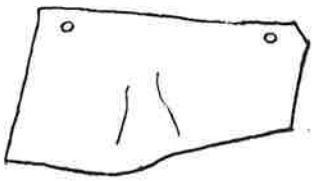
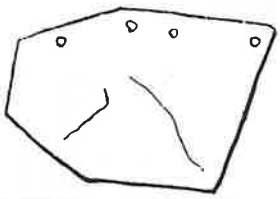
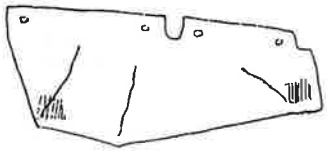
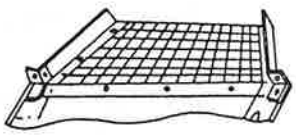
次のアタッチメントを準備しておりますのでご利用ください。

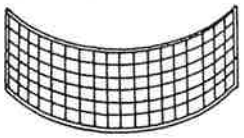
品　　名	型式（部品番号）	主な仕様及び備考
ハーベスタノッタ	ＫＳＨ－８	結束束数　６～10束
ハーベスタカッタ	ＣＨ８－12Ｄ	刃　　数　12枚 切断寸法　67㎜
ウェイトキット	4306　8301　000	41K・51K型用，取付部品付
ウェイトキット	4306　8305　000	61型用，取付部品付
ライト	4300　8201　000	夜間移動，走行時に装着する前照灯

・ハーベスタノッタ，ハーベスタカッタは型式によって装着できない型式がありますのでお買いあげ先に相談してください。

4. 主な消耗部品

No.	部品名称	部品番号	備考
1	並歯	3612 6101 000	
2	補強歯	4126 1005 000	
3	せいそ歯 A	4126 1001 000	
4	せいそ歯 C	4126 1003 000	
5	せいそ歯 B	4126 1002 000	
6	せいそ歯 D	4126 1004 000	
7	こぎ歯 E	3518 6011 000	

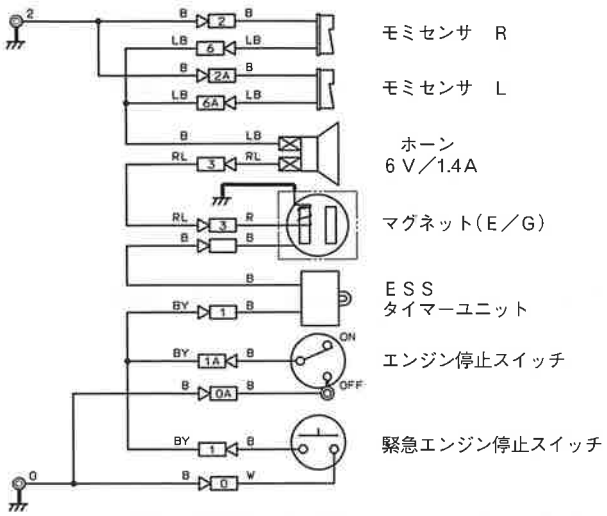
No.	部品名称	部品番号	備考
8	こぎ歯F	3518 6013 000	
9	ワラ切カマ	4124 2041 000	
10	ゆるみ止め金具（前）	3620 7044 000	
11	ゆるみ止め金具（後）	4125 2397 000	
12	入口飛散防止板A（前）	4356 6159 000	
13	入口飛散防止板B（前）	4356 6161 000	
14	入口飛散防止板C（奥）	4356 6398 000	
15	出口飛散防止板	4356 6365 000	
16	クリンプ網	[41・51型] 4124 1961 031 [61型] 4356 5972 000	

No.	部品名称	部品番号	備考
17	網	[41・51型] 4300 6255 000 [61型] 3620 7318 000	
18	ワラ送り用ベルト	3620 7825 000	
19	燃料ホース (フューエルチューブ)	4306 0405 000	燃料タンク～燃料ストレーナ
20	燃料ホース (フューエルチューブ)	P051 Y04X 600 P051 Y04X 700 P051 Y04X 800	[41型] 燃料ストレーナ～気化器 [51型] 燃料ストレーナ～気化器 [61型] 燃料ストレーナ～気化器

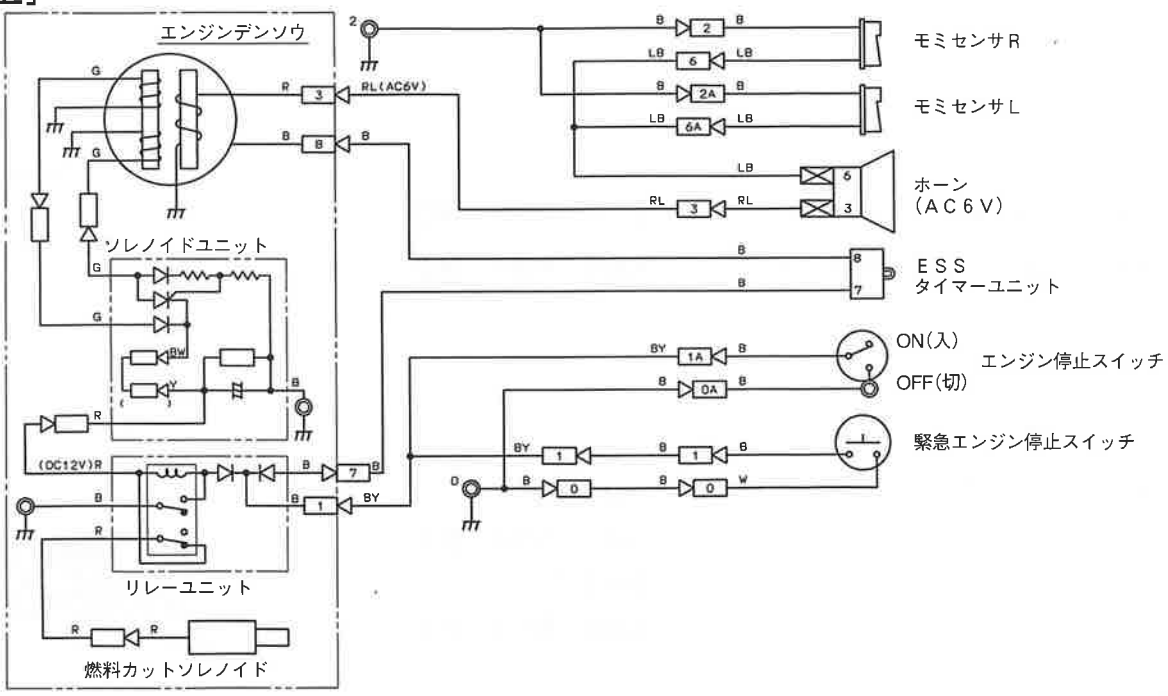
・ご用命のときは,「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

5. 電気配線図

[41・51型]



[61型]



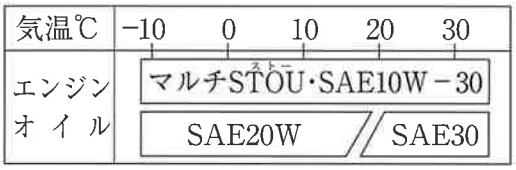
6. 潤滑油について

1. エンジンオイルについて

・次の三菱純正オイルまたは推奨オイルのご使用をお奨めします。

メーカ		商品名
三菱農機純正油		マルチSTOU(ストー)オイル（SAE10W−30） マルチGDオイル（SAE10W−30）
全農	ガソリン用	クミアイエンジンオイル
日石三菱	ガソリン用	ゴールドエンジンオイル（SAE20W）
		ゴールドエンジンオイル（SAE30）

・またはＡＰＩサービス分類ＳＤ級以上SAE10W－30をご使用ください。
・エンジンオイルは温度条件に合わせてご使用ください。



・マルチＳＴＯＵオイルまたはＳＡＥ10W－30は気温20℃以上でご使用の場合は，オイルの消費量が増すことがありますので，**「運転まえの点検」**を行なってください。

2. ギヤオイルについて

・次の三菱純正オイルまたは推奨オイルのご使用をお奨めします。

メーカ名	商品名
三菱農機純正油	マルチＳＴＯＵオイル（SAE10W−30）
	マルチＧＢオイル（SAE80W）
全農	クミアイギヤオイル（SAE80W）
日石三菱	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE80W）

・またはＡＰＩ分類ＧＬ－4級以上SAE80Wのギヤオイルをご使用ください。

3. 脱こくギヤオイル

メーカ名	商品名
日石三菱	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE140）

・またはＡＰＩ分類ＧＬ－4，SAE140のギヤオイルをご使用ください。

4. 三菱農機（純正油）マルチオイル

・マルチＳＴＯＵオイルは１種類でエンジンオイル又はギヤオイルとして１年中ご使用いただけるオールシーズンタイプです。
・マルチＧＤオイルはエンジン専用オイルです。
・マルチＧＢオイルはギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（Ｇ）と湿式ブレーキ（Ｂ）専用オイルです。
・マルチSHPギヤオイルは，ギヤ専用オイルです。
・お買い求めは，弊社販売店で取扱っていますのでご相談ください。



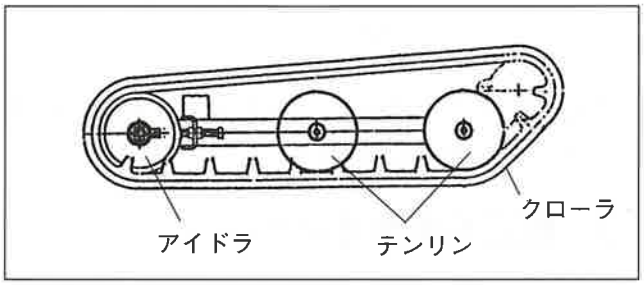
性状＼品名		マルチSTOUオイル	マルチGDオイル	マルチGBオイル	マルチSHPギヤオイル
密度 15℃ g／cm³		0.881	0.872	0.893	0.900
引火点 ℃		210	229	230	230
流動点 ℃		−37.5	−26.1	−35.0	−22.5
動粘度cSt	@ 40℃	62.0	67.5	78.4	188.5
	@100℃	10.8	11.4	9.8	17.5
粘度指数		168	163	104	100
ＡＰＩサービス分類		SD／CD／GL－4	SH／CD	GL－4	GL－5
ＳＡＥ粘度番号		10W−30	10W−30	80W	90
荷姿		ドラム・20Ｌ缶	18.9Ｌ缶	20Ｌ缶	ドラム・20Ｌ缶

取扱いのポイント

● **マルチGBオイル，マルチSHPギヤオイルはエンジンオイルとしては使用できません。**

7. 用語解説（アイウエオ順）

・**アイドラ**……クローラを張る鉄車輪。
・**アユミ**……機械を自動車に積込み・積降ろしする時に使用する長い板。（金属製のハシゴ型等）
・**回転計**……こぎ胴の回転速度を表示する計器。
・**クローラ**……装軌型の車輪。



・**３番飛散**……排じんダクトからモミが飛び散ること。
・**テンリン**……クローラの鉄車輪。
・**排じんダクト**……モミガラ・ワラクズなどを機外へ排き出す筒。
・**フィードチェン**……稲束を挟み込み，脱こく機へ送り込む保持装置。
・**モミセンサ**……モミ袋へ送り込まれたモミがいっぱいになると警報ブザーで知らせるための感知器。
・**レール台**……フィードチェンの下部にあり，稲束を支えるレール。
・**揚こく筒**……モミをモミ袋の上方へ送り出す筒。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)